

2013 年度

福祉に関する県民意識調査

報 告 書

2014（平成 26 年）3 月

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

# 2013 年度 山口県内福祉に関する県民意識調査報告書

## 〈目 次〉

◆はじめに	1
第 1 章 本事業の実施概要について	
1 本事業の実施目的	2
2 本事業の実施内容	2
第 2 章 県民福祉意識等に関する調査について	
1 はじめに	3
2 調査の概要	3
3 集計・分析	3
【調査結果の概要】	4
4 県民福祉意識の現状について（調査結果のまとめ）	45
5 調査結果から～山口県における寄附の実態～	48
第 3 章 これからの地域福祉活動の方針について	
1 地域福祉活動への参加の機会づくりをすすめる	58
2 日頃から顔が見える範囲における 地域での支え合い体制づくりをすすめる	59
3 福祉に関する情報提供を充実させる	60
◆資料編	
1 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（単純集計結果）	62
2 「福祉に関する県民意識調査」調査票	73
3 県民福祉意識等に関する調査研究委員会 協議経過 等	85

## ◆はじめに

山口県では、「困ったときにお互いが助け合える組織をつくろう」というスローガンをもとに、昭和61年から、県・市町村社会福祉協議会を中心として、官民一体となった県民運動として、「福祉の輪づくり運動」を展開しています。こうした活動の中で、住民が抱える様々な福祉課題に対し、住民参加による解決を目指した地域福祉活動（「地区社会福祉協議会活動」、「自治会福祉部活動」、「ふれあい・いきいきサロン」など）が展開されています。

しかし、少子高齢化や核家族化、住民相互の関係の希薄化等の地域社会の変化に伴い、これまで行われていた地域福祉活動の維持や継続、近隣住民相互の支え合いが難しくなっている地域もあります。

こうした状況の中、山口県社会福祉協議会（以下「県社協」という。）では、「住み慣れた地域で誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）づくり」という基本理念のもとに、市町社会福祉協議会と連携しながら地域福祉を進めています。

また、一人一人の暮らしへの安心感や、豊かさが担保できるようなまちづくりをすすめていくためには、関係機関との協働を意識しながら地域の福祉活動を進めていくことが必要であるという認識のもと福祉の輪づくり運動を展開しています。

県社協では、地域を基盤とした地域福祉を進めていくために、福祉や地域の活動等について県民の意識や行動等の実態把握を目的として、20歳以上の県民を対象として福祉に関する実態調査を行いました。

なお、本調査は、県社協で平成26年度に策定する第5次福祉の輪づくり運動推進県域活動計画（第5次ネットワークプランやまぐち）の基礎データとしても活用し、今後5年ごとに本調査を実施し、県民の意識や活動の変化の確認を行う予定です。

今回、県民を対象とした実態調査から得られた、現在の山口県における地域の状況と地域福祉活動を進めていく上での課題等を十分に考慮し、山口県におけるこれからの地域福祉活動の方針についても検討しました。

本報告書が、地域福祉活動に関わる方々に共有され、山口県における地域福祉のさらなる向上に繋げていくための基礎資料として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、「福祉に関する県民意識調査」アンケートの回答に御協力いただきました山口県民の皆様、また、本報告書をまとめるにあたり、熱心に御協議いただきました委員の皆様にお礼を申し上げますとともに、報告書の執筆、監修をいただきました高野委員長に深く感謝申し上げます。

平成26年（2014年）3月

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

# 第1章 本事業の実施概要について

## 1 本事業の実施目的

地域にある様々な生活課題・福祉課題に対し、住民参加による解決を目指した福祉活動（「地区社会福祉協議会活動」、「見守り活動」、「ふれあい・いきいきサロン」など）の県内でのさらなる展開を図るために、山口県民を対象として、福祉や地域福祉活動等に関する意識や実態を調査するとともに、今後の地域福祉活動方針を策定する基礎資料とするために行うものです。

## 2 本事業の実施内容

山口県の地域性に即した地域福祉活動を計画的に推進していくために県社協では、福祉の輪づくり運動推進県域活動計画（ネットワークプランやまぐち）を策定しています。平成26年度に第5次福祉の輪づくり運動推進県域活動計画の策定を行うにあたり、その基礎データとして県民の福祉に対する意識やボランティア活動等への参加意欲等の現状を把握するために本調査を実施しました。

また、平成21年に実施した調査と比較し、これまでの活動実態の振り返りを行うことができます。

なお、本調査は5年毎に実施し県民福祉意識の推移を蓄積し、山口県での地域福祉活動の推進状況の評価指針の一つとする予定です。

## 第2章 県民福祉意識等に関する調査について

### 1 はじめに

本調査では、地域社会で認められる様々な生活課題、福祉課題解決のための一つの方法として住民参加による福祉活動のさらなる展開を図ることと、今後の地域福祉活動の活動方針策定の基礎資料とすることを目的として、山口県民を対象として福祉や地域福祉活動等に関する意識、実態の把握を行いました。また、本調査は5年ごとに実施されており、前回調査（2009年実施）との比較を通じて、県民の意識や活動の変化も確認しています。この間、東日本大震災が起り、また県内でも大きな自然災害があり、ボランティア活動が大きな存在感を示しました。本報告書ではそうした活動のなかから寄附を取り上げ、その実態を検討しました。

### 2 調査の概要

調査実施主体：社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

調査時期：2013（平成25）年9月

調査方法：自記式、郵送法

対象者抽出名簿：選挙人名簿（無作為抽出）

調査対象者：山口県内在住の20歳以上男女（年齢の上限は設けていません）

配票回収数：5,000票、回収数2,006票、回収率41.3%

調査対象地域

圏域	市町名	対象者数	圏域	市町名	対象者数
岩国	岩国市	495	山口・防府	山口市	660
	和木町	20		防府市	400
柳井	柳井市	120	宇部・山陽小野田	宇部市	600
	周防大島町	70		山陽小野田市	220
	上関町	15		美祢市	100
	田布施町	55	下関	下関市	975
	平生町	50	長門	長門市	135
周南	周南市	510	萩	萩市	190
	下松市	190		阿武町	15
	光市	180	合計		5,000

### 3 集計・分析

調査結果の分析、報告書の作成は以下によって行われました。

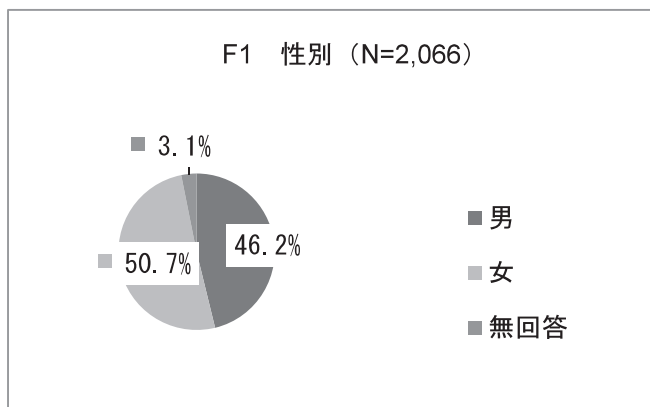
報告書作成：九州大学大学院人間環境学研究院 高野和良

九州大学大学院人間環境学府博士後期課程2年 吉武由彩

（「調査結果の概要」「山口県における寄附の実態」を担当）

【調査結果の概要】

0. 調査回答者は壮年層、高齢層と、女性が多い



F2 あなたは、現在、おいくつですか。

		度数	比率
1	20～24 歳	28	1.4%
2	25～29 歳	46	2.2%
3	30～34 歳	78	3.8%
4	35～39 歳	85	4.1%
5	40～44 歳	101	4.9%
6	45～49 歳	114	5.5%
7	50～54 歳	134	6.5%
8	55～59 歳	172	8.3%
9	60～64 歳	283	13.7%
10	65～69 歳	292	14.1%
11	70～74 歳	283	13.7%
12	75～79 歳	212	10.3%
13	80～84 歳	163	7.9%
14	85～89 歳	31	1.5%
15	90～94 歳	1	0.1%
16	95 歳以上	0	0.0%
99	無回答	43	2.0%
	合計	2066	100.0%

・回答者の割合を性別、年齢別で見ると、男性より女性の方がやや多く、年齢分布では青年層（20～39 歳 11.7%）が少なく、壮年層（40～64 歳 39.7%）が約 4 割、高齢層（65 歳以上 48.5%）が約 5 割を占める結果となりました。

男性：46.2%          女性：50.7%

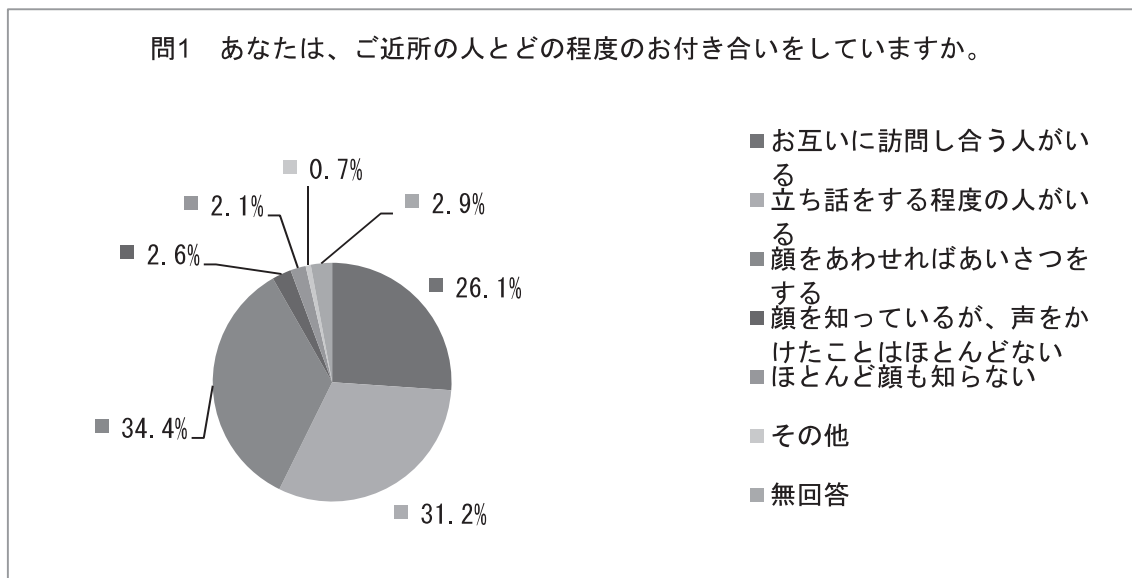
青年層（20～39 歳）：11.7%      壮年層（40～64 歳）：39.7%

高齢層（65 歳以上）：48.5%

・前回（2009年調査）と比較して、男性の比率が若干低下し（49.0%→46.2%）、年齢では壮年層（40～64歳）の割合が減って（61.4%→39.7%）、高齢層（65歳以上）が増加しています（26.9%→48.5%）。

・本アンケートの結果は、40歳以上の壮年層、高齢層と、女性の意見がより強く反映されていると考えられます。結果の解釈にあたっては、こうした点にも注意が必要です。

## 1. 近所づきあいの程度



・回答者の中で「お互いに訪問しあう人がある」が2割強（26.1%）、「立ち話をする程度の人がある」が約3割（31.2%）とあわせて半数以上となりました。「顔をあわせればあいさつをする」は3割強（34.4%）でした。

・前回2009年調査と比較して、近所づきあいの程度に大きな変化はありませんでした。

・年齢階層別にみると、「お互いに訪問しあう人がある」の割合は青年層において低いこと（13.7%）がわかります。一方、高齢層において高くなっています（36.2%）。

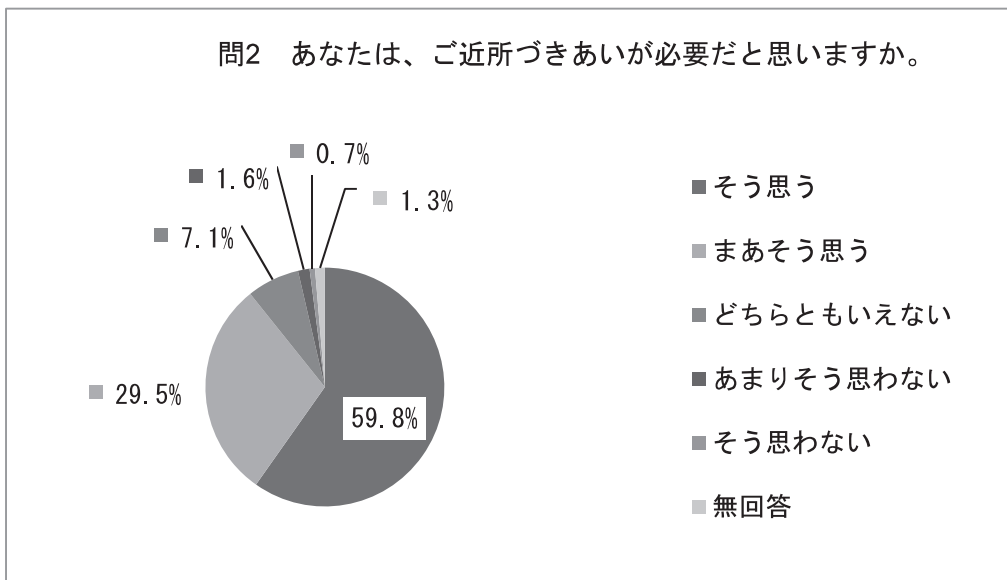
・近年、地域関係の希薄化が指摘されることが多いのですが、2009年調査と比較して、近所づきあいの程度に大きな変化は見られませんでした。しかしながら、青年層では近所づきあいが比較的希薄であることから、青年層が近所との接点を持てるように検討をしていく必要があります。

年齢階層 と 近所づきあいの程度 のクロス表

年齢階層		近所づきあいの程度						合計
		お互いに訪問し 合う人がいる	立ち話をする 程度の人がある	顔をあわせれば あいさつをする	顔は知っている が、声をかけたこ とはほとんどない	ほとんど顔も 知らない	その他	
20～39歳	度数	32	46	125	16	14	1	234
	年齢階層 の %	13.7%	19.7%	53.4%	6.8%	6.0%	.4%	100.0%
40～64歳	度数	156	291	296	20	21	9	793
	年齢階層 の %	19.7%	36.7%	37.3%	2.5%	2.6%	1.1%	100.0%
65歳以上	度数	342	298	276	16	8	4	944
	年齢階層 の %	36.2%	31.6%	29.2%	1.7%	.8%	.4%	100.0%
合計	度数	530	635	697	52	43	14	1971
	年齢階層 の %	26.9%	32.2%	35.4%	2.6%	2.2%	.7%	100.0%

p<.01

## 2. 近所づきあいの必要性



・「ご近所づきあいが必要だと思いますか。」との問いに対し、「そう思う」が約6割（59.8%）、「まあそう思う」が約3割（29.5%）と約9割の人が肯定しています。

・前回2009年調査と比較して、「そう思う」の比率が低下し（65.6%→59.8%）、「まあそう思う」の比率が若干増加しています（26.0%→29.5%）。

・年齢階層別にみると、「そう思う」の割合は年齢層が高くなるにつれて増加しています。青年層においては4割未満ですが（35.9%）、高齢層においては7割を超え（73.7%）て高く、年齢階層における差が顕著に認められます。

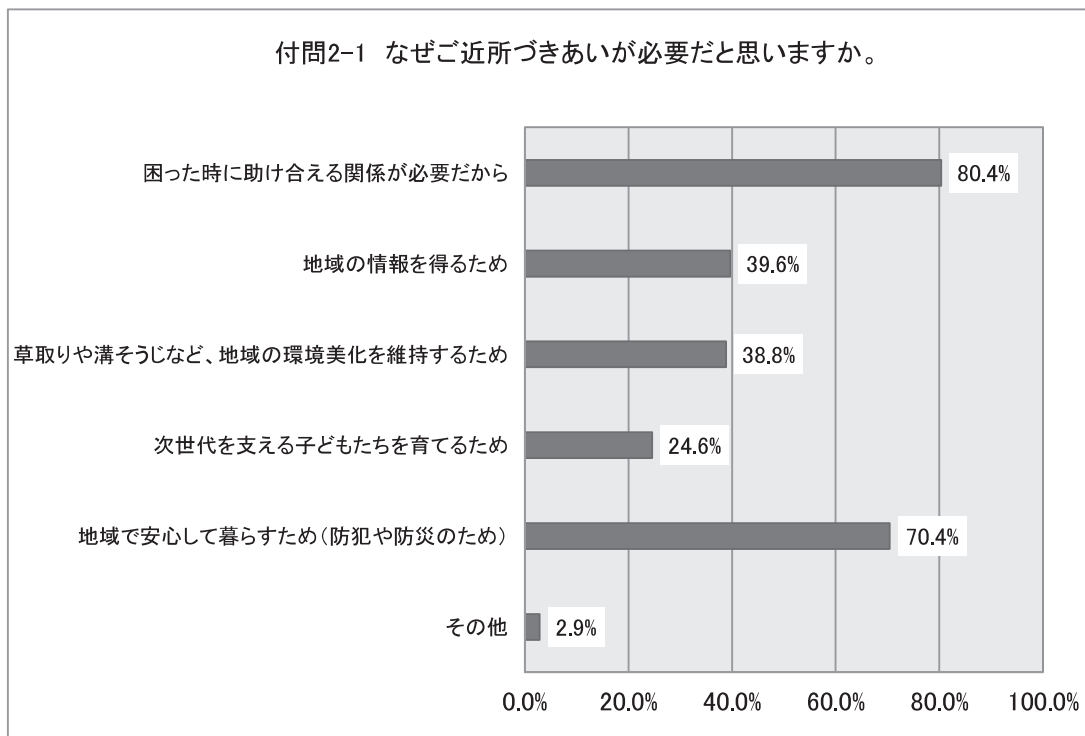
・青年層においても、近所づきあいが必要と考える肯定層の割合は8割を超えますが（85.3%）、強く肯定する層（「そう思う」）は青年層においては高齢層の約半分の割合（35.8%）しかありません。青年層においては近所づきあいは希薄な傾向にあります。そもそも近所づきあいの必要性を強くは認識していないことがうかがえます。

年齢階層 と 近所づきあいの必要性 のクロス表

		近所づきあいの必要性					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	85	117	27	4	4	237
		年齢階層 の %	35.9%	49.4%	11.4%	1.7%	1.7%	100.0%
	40～64歳	度数	416	284	77	19	6	802
		年齢階層 の %	51.9%	35.4%	9.6%	2.4%	.7%	100.0%
	65歳以上	度数	710	200	38	10	5	963
		年齢階層 の %	73.7%	20.8%	3.9%	1.0%	.5%	100.0%
合計		度数	1211	601	142	33	15	2002
		年齢階層 の %	60.5%	30.0%	7.1%	1.6%	.7%	100.0%

p<.01

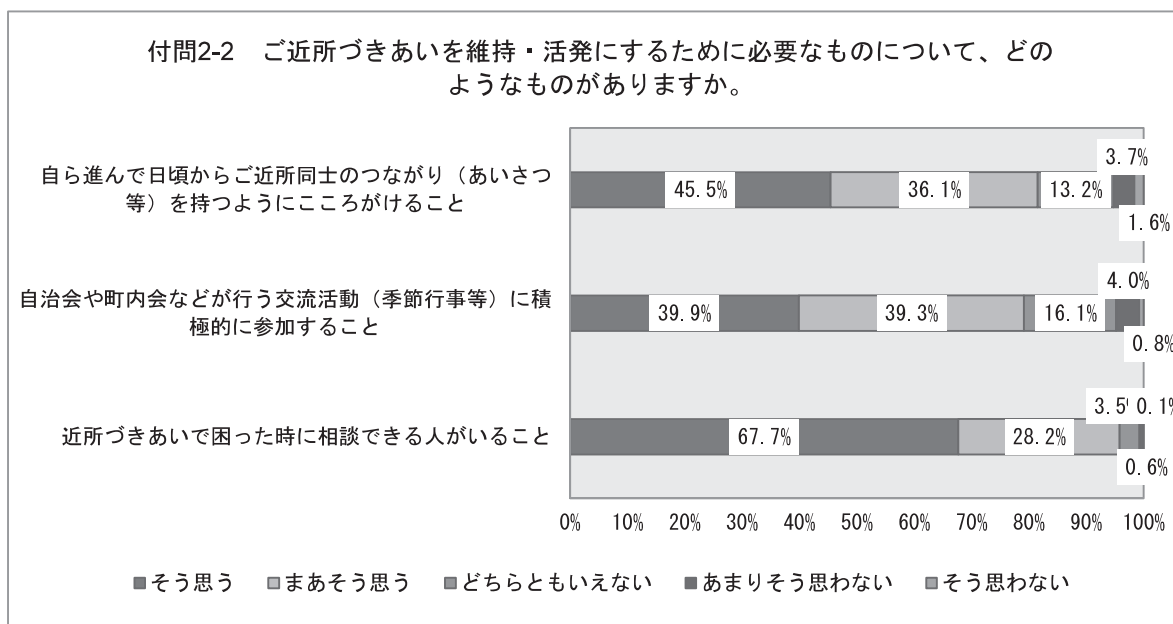
## 2-1. 近所づきあいが必要な理由



・回答者の中で「困った時に助け合える関係が必要だから」が約8割(80.4%)、「地域で安心して暮らすため(防犯や防災のため)」が約7割(70.4%)となりました。ご近所づきあいが必要な理由としては、困った時に助け合うためや、防犯・防災上の理由があげられます。

・前回2009年調査と比較して、近所づきあいが必要な理由に大きな変化はありませんでした。

## 2-2. ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なもの



・回答者の中で各設問への肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合は、「自ら進んで日頃からご近所同士のつながり（あいさつ等）を持つようにこころがけること」が約8割（81.6%）、「自治会や町内会などが行う交流活動（季節行事等）に積極的に参加すること」が約8割（79.2%）、「近所づきあいで困った時に相談できる人がいること」が9割強（95.9%）となりました。ご近所における日頃のあいさつの必要性、自治会等の季節行事への参加の必要性、近所に相談できる人がいること、の3項目すべてについて8割以上の方が必要と認識されています。特に、「近所づきあいで困った時に相談できる人がいること」については9割強とほとんどの人々が必要と考えています。

・前回2009年調査と比較して、3項目すべてにおいて肯定層の割合が増加しています。「近所づきあいで困った時に相談できる人がいること」の比率が大きく増加し（70.0%→95.9%）、「自治会や町内会などが行う交流活動（季節行事等）に積極的に参加すること」（73.5%→79.2%）や「自ら進んで日頃からご近所同士のつながり（あいさつ等）を持つようにこころがけること」（78.3%→81.6%）の比率も高まっています。

・年齢階層別にみると、「自ら進んで日頃からご近所同士のつながり（あいさつ等）を持つようにこころがけること」、「自治会や町内会などが行う交流活動（季節行事等）に積極的に参加すること」、「近所づきあいで困った時に相談できる人がいること」の3項目すべてにおいて、「そう思う」の割合は年齢層が高くなるにつれて増加し、青年層において低く、高齢層において高くなっています。

・2009年調査と比較し、ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なものとして3項目すべてにおいて肯定層の割合が増加しています。前回調査と比較し、回答者における高齢層の割合が増加している（26.9%→48.5%）からかもしれませんが、ご近所づきあいを維持・活発にさせるために日頃からあいさつ等を心がけることが大事であるとする人々の増加を示すとも考えられます。

年齢階層 と 自ら進んで日頃から近所同士のつながり（あいさつ等）を持つようにならざることを促すこと のクロス表

		自ら進んで日頃から近所同士のつながり（あいさつ等）を持つようにならざることを促すこと						
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	121	70	6	2	0	199
		年齢階層の%	60.8%	35.2%	3.0%	1.0%	0.0%	100.0%
	40～64歳	度数	443	208	28	5	1	685
		年齢階層の%	64.7%	30.4%	4.1%	.7%	.1%	100.0%
	65歳以上	度数	607	208	27	3	0	845
		年齢階層の%	71.8%	24.6%	3.2%	.4%	0.0%	100.0%
合計		度数	1171	486	61	10	1	1729
		年齢階層の%	67.7%	28.1%	3.5%	.6%	.1%	100.0%

p<.05

年齢階層 と 自治会や町内会などが行う交流活動（季節行事等）に積極的に参加すること のクロス表

		自治会や町内会などが行う交流活動（季節行事等）に積極的に参加すること						
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	44	101	44	8	3	200
		年齢階層の%	22.0%	50.5%	22.0%	4.0%	1.5%	100.0%
	40～64歳	度数	226	297	129	25	5	682
		年齢階層の%	33.1%	43.5%	18.9%	3.7%	.7%	100.0%
	65歳以上	度数	395	258	98	33	5	789
		年齢階層の%	50.1%	32.7%	12.4%	4.2%	.6%	100.0%
合計		度数	665	656	271	66	13	1671
		年齢階層の%	39.8%	39.3%	16.2%	3.9%	.8%	100.0%

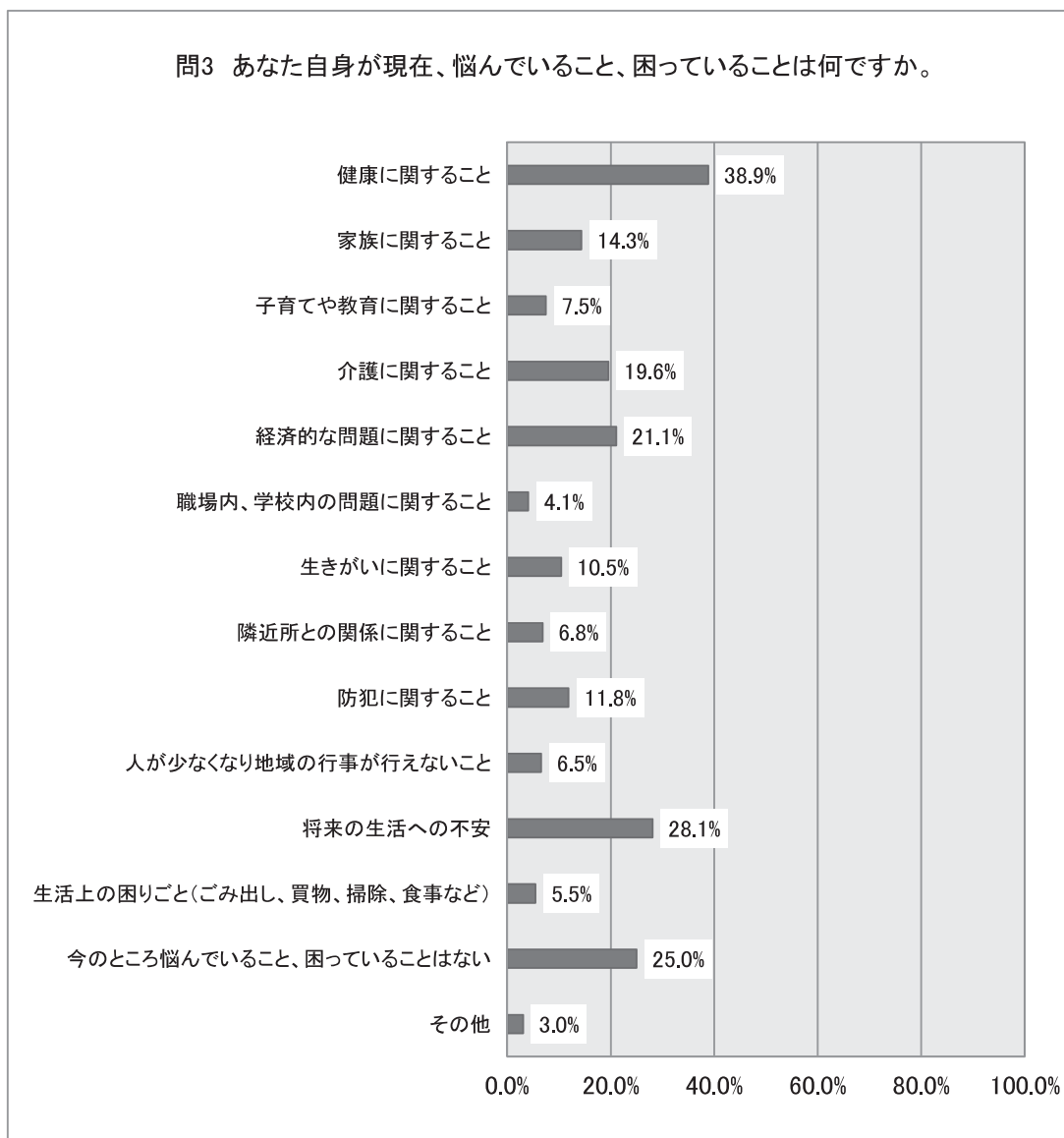
p<.01

年齢階層 と 近所づきあいで困った時に相談できる人がいること のクロス表

		近所づきあいで困った時に相談できる人がいること						
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	61	89	37	8	4	199
		年齢階層の%	30.7%	44.7%	18.6%	4.0%	2.0%	100.0%
	40～64歳	度数	255	277	114	21	12	679
		年齢階層の%	37.6%	40.8%	16.8%	3.1%	1.8%	100.0%
	65歳以上	度数	445	235	72	32	10	794
		年齢階層の%	56.0%	29.6%	9.1%	4.0%	1.3%	100.0%
合計		度数	761	601	223	61	26	1672
		年齢階層の%	45.5%	35.9%	13.3%	3.6%	1.6%	100.0%

p<.01

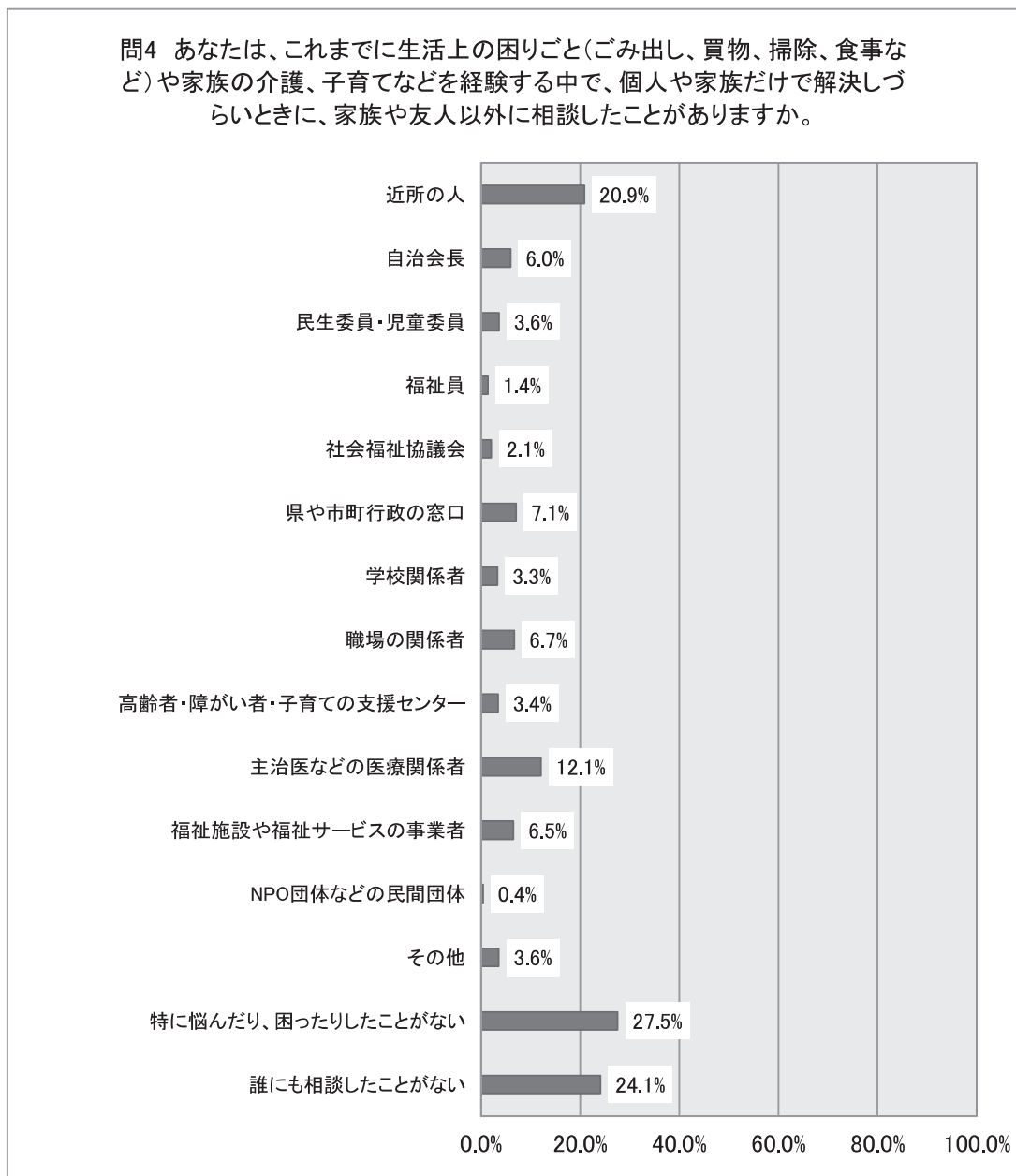
### 3. 現在悩んでいることや、困っていること



・回答が多い方から、「健康に関すること」が4割弱(38.9%)、「将来の生活への不安」が3割弱(28.1%)となりました。「経済的な問題に関すること」(21.1%)や「介護に関すること」(19.6%)も約2割となりました。回答者の約半数が高齢層(65歳以上)であることを反映していると言えます。その一方、「今のところ悩んでいること、困っていることはない」という回答も2割強(25.0%)ありました。

・前回2009年調査と比較し、「健康に関すること」、「将来の生活への不安」、「経済的な問題に関すること」、「介護に関すること」の4項目の回答が多いという傾向に変化はありませんでした。ただし、「将来の生活への不安」については2009年調査と比較しやや低下していました(35.8%→28.1%)。「今のところ悩んでいること、困っていることはない」の比率には大きな変化はありませんでした。

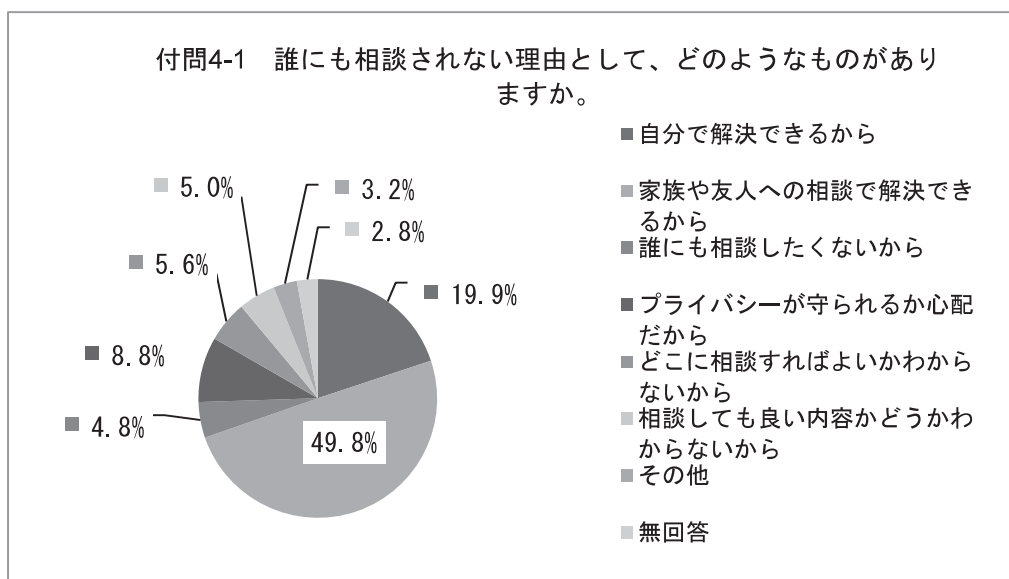
#### 4. 生活上の困りごとの相談先



・回答者の中で「近所の人」が約2割(20.9%)となりました。相談をしている場合は、「近所の人」に相談をしている人の割合が多くなっています。一方、困りごとについて「誰にも相談したことがない」が2割強(24.1%)となり、相談をしていない人々も見られます。また、「特に悩んだり、困ったりしたことがない」は3割弱(27.5%)となりました。

・前回2009年調査と比較して、生活上の困りごとの相談先に大きな変化はありませんでした。

#### 4-1. 誰にも相談されない理由



・回答者の中で「家族や友人への相談で解決できるから」が約半数（49.8%）、「自分で解決できるから」が約2割（19.9%）となりました。相談をされていない方のうち約7割（69.7%）は、家族や友人に相談して、または自身で解決していることがわかります。一方、「プライバシーが守られるか心配だから」という回答も約1割（8.8%）ありました。

・質問項目に若干の変更があるため一概には言えませんが、前回2009年調査と比較したところ、「家族や友人への相談で解決できるから」が約5割、「自分で解決できるから」が約2割を占めるという傾向は変わりませんでした。ただし、「どこに相談すればよいかわからないから」が低下しました（10.7%→5.6%）。

・年齢階層別にみると、「自分で解決できるから」は青年層において低く（10.3%）、高齢層において高くなっています（26.9%）。同様に「プライバシーが守られるか心配だから」も青年層において低く（3.4%）、高齢層においてやや高くなっています（10.3%）。一方、「家族や友人への相談で解決できるから」は青年層（55.2%）や壮年層（55.3%）において高く、高齢層において低くなっています（46.2%）。「どこに相談すればよいかわからないから」も青年層において高く（12.1%）、高齢層において低くなっています（3.6%）。

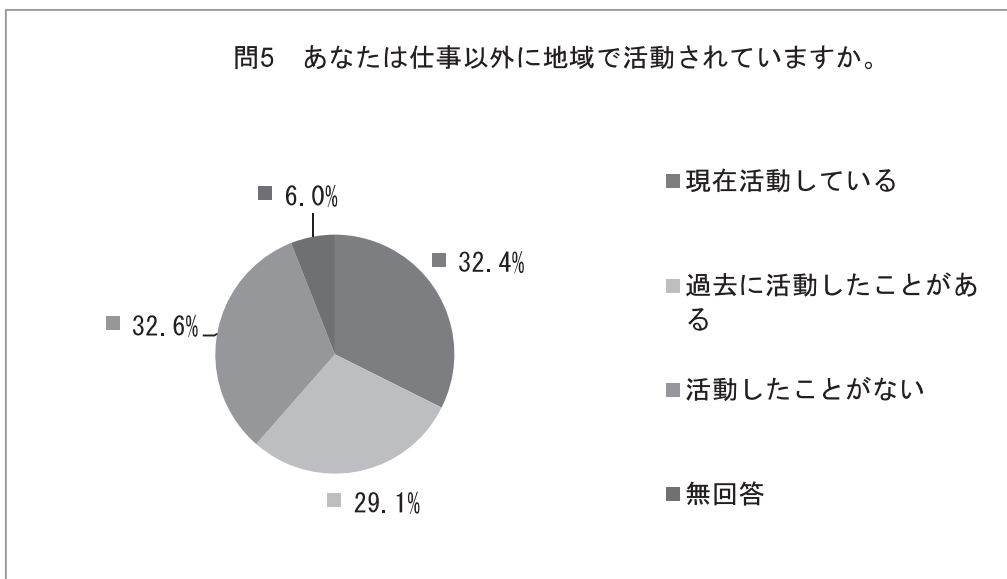
・高齢層は、他の年齢層と比べると福祉サービスを利用する機会が多く、専門機関についての理解もあると考えられます。しかし、青年層は、こうした機会に乏しく、専門機関との接点も少ないために、相談先がわからないということにつながっているのではないのでしょうか。一方で、専門機関に頼らず自分で解決するというのではなく、家族や友人という身近な関係性のなかで生活上の困りごとを解決しているようです。また、相談によってプライバシーが守られないと思っているわけではないため、利用への抵抗感は少ないと思われます。多様な相談機会の存在を広く広報することが必要と思われます。いざれにせよ相談をしたいときにできるようにするには、年齢層に応じて異なるアプローチを用いる必要があります。

年齢階層と誰にも相談されない理由のクロス表

年齢階層		誰にも相談されない理由							合計
		自分で解決できるから	家族や友人への相談で解決できるから	誰にも相談したくないから	プライバシーが守られるか心配だから	どこに相談すればよいかわからないから	相談しても良い内容かわからないから	その他	
20～39歳	度数	6	32	5	2	7	3	3	58
	年齢階層の%	10.3%	55.2%	8.6%	3.4%	12.1%	5.2%	5.2%	100.0%
40～64歳	度数	31	109	6	19	13	10	9	197
	年齢階層の%	15.7%	55.3%	3.0%	9.6%	6.6%	5.1%	4.6%	100.0%
65歳以上	度数	60	103	13	23	8	12	4	223
	年齢階層の%	26.9%	46.2%	5.8%	10.3%	3.6%	5.4%	1.8%	100.0%
合計	度数	97	244	24	44	28	25	16	478
	年齢階層の%	20.3%	51.0%	5.0%	9.2%	5.9%	5.2%	3.3%	100.0%

p<.01

## 5. 仕事以外の地域での活動



・回答者の中で「現在活動している」が約3割(32.4%)、「過去に活動したことがある」が約3割(29.1%)となりました。約6割(61.5%)が仕事以外での地域での活動を現在または過去にしているということになります。一方、「活動したことがない」は約3割(32.6%)となりました。

・前回2009年調査と比較して、仕事以外の地域での活動参加割合に大きな変化はありませんでした。

・年齢階層別にみると、壮年層と高齢層において「現在活動している」や「過去に活動したことがある」の割合は高くなりました。一方、「活動したことがない」は青年層において高く、6割(61.0%)を超えています。

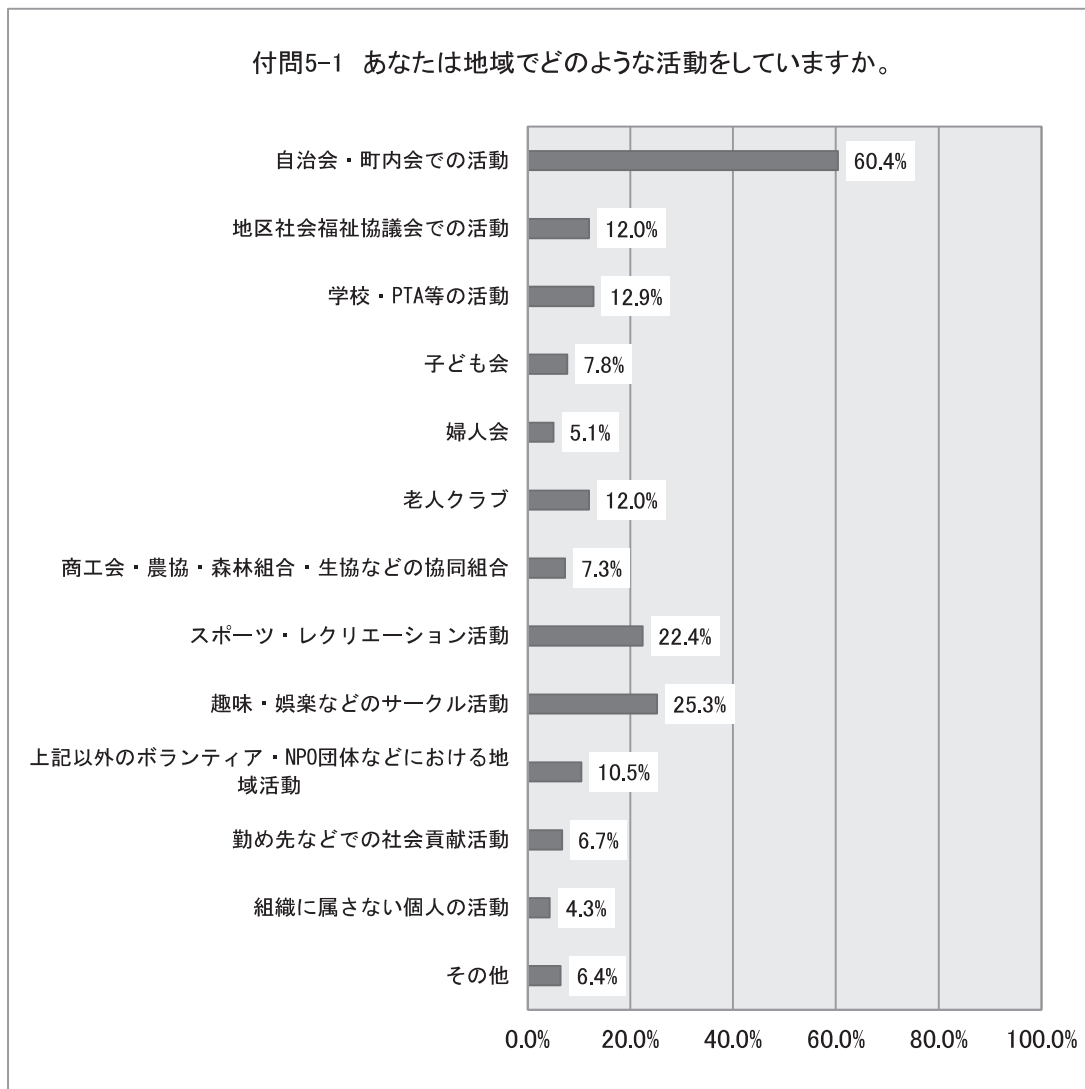
・地域での活動はその多くが壮年層および高齢層によって担われていることがわかります。高齢層の人々が今後も地域の活動を続けることができるように環境を整備するとともに、これまで参加したことが1度もない青年層などの人々でも参加しやすいようにすることが必要かもしれません。

年齢階層 と 仕事以外の地域での活動 のクロス表

		仕事以外の地域での活動				
		現在活動して いる	過去に活動した ことがある	活動したことが ない	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	46	46	144	236
		年齢階層 の %	19.5%	19.5%	61.0%	100.0%
40～64歳	度数	285	239	263	787	
		年齢階層 の %	36.2%	30.4%	33.4%	100.0%
65歳以上	度数	331	302	254	887	
		年齢階層 の %	37.3%	34.0%	28.6%	100.0%
合計	度数	662	587	661	1910	
	年齢階層 の %	34.7%	30.7%	34.6%	100.0%	

p<.01

5-1. 地域での活動内容

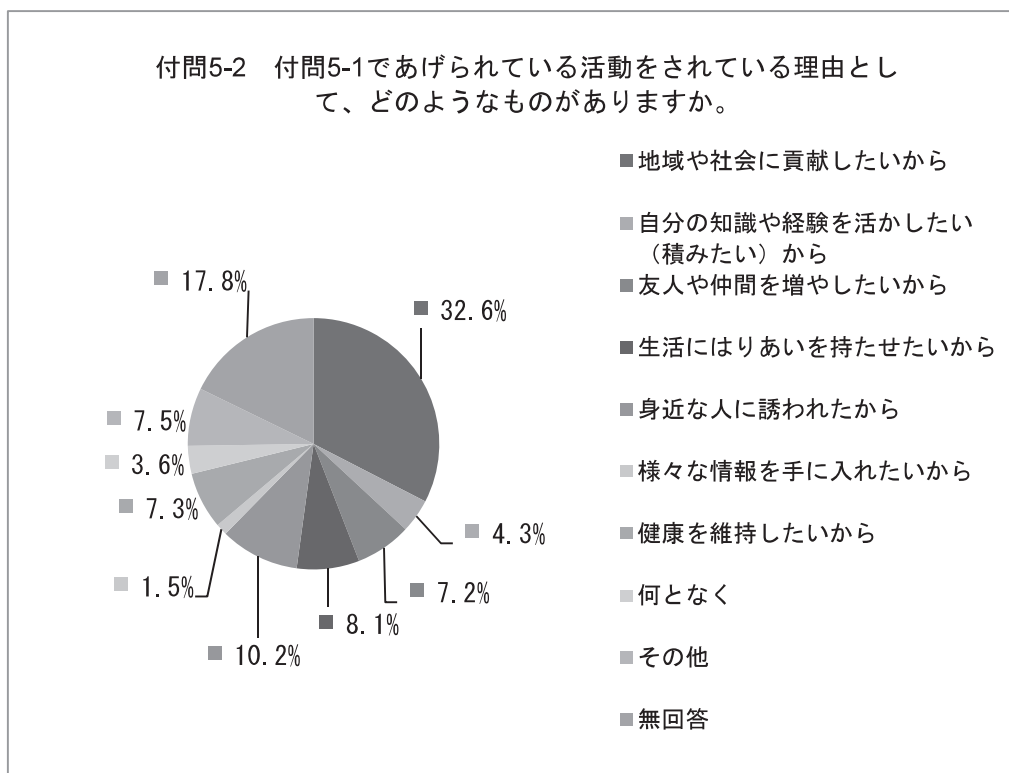


・回答が多い方から順に、「自治会・町内会での活動」が約6割（60.4%）、「趣味・娯楽などのサークル

活動」が2割強(25.3%)、「スポーツ・レクリエーション活動」が約2割(22.4%)となりました。「自治会・町内会での活動」は地域での活動をしている方のうち、半数以上の方が参加をしています。

・前回2009年調査と比較し、「自治会・町内会での活動」、「趣味・娯楽などのサークル活動」、「スポーツ・レクリエーション活動」の3項目の回答が多いという傾向に変化はありませんでした。ただし、「老人クラブ」は2009年調査と比較しやや増加し(6.4%→12.0%)、「上記以外のボランティア・NPO団体などにおける地域活動」はやや低下をしていました(15.3%→10.5%)。老人クラブへの参加割合の増加には、前回2009年調査と比較して回答者に占める高齢層の増加(2009年調査26.9%→2013年調査48.5%)が影響している可能性があります。

## 5-2. 地域での活動をしている理由



・回答者の中で「地域や社会に貢献したいから」が約3割(32.6%)、「身近な人に誘われたから」が約1割(10.2%)、「生活にはりあいを持たせたいから」が1割弱(8.1%)となりました。

・前回2009年調査と比較し、「地域や社会に貢献したいから」、「身近な人に誘われたから」、「生活にはりあいを持たせたいから」の3項目の回答が多いという傾向に変化はありませんでした。ただし、「地域や社会に貢献したいから」の割合は低下をしています(41.6%→32.6%)。

・年齢階層別にみると、「地域や社会に貢献したいから」は壮年層(43.8%)や高齢層(37.7%)において高く、青年層において低くなっています(26.3%)。「生活にはりあいを持たせたいから」や「友人や仲間を増やしたいから」も高齢層において高くなっています。一方、「身近な人に誘われたから」は青年層において高く(26.3%)、高齢層(8.3%)や壮年層(14.9%)において低くなっています。

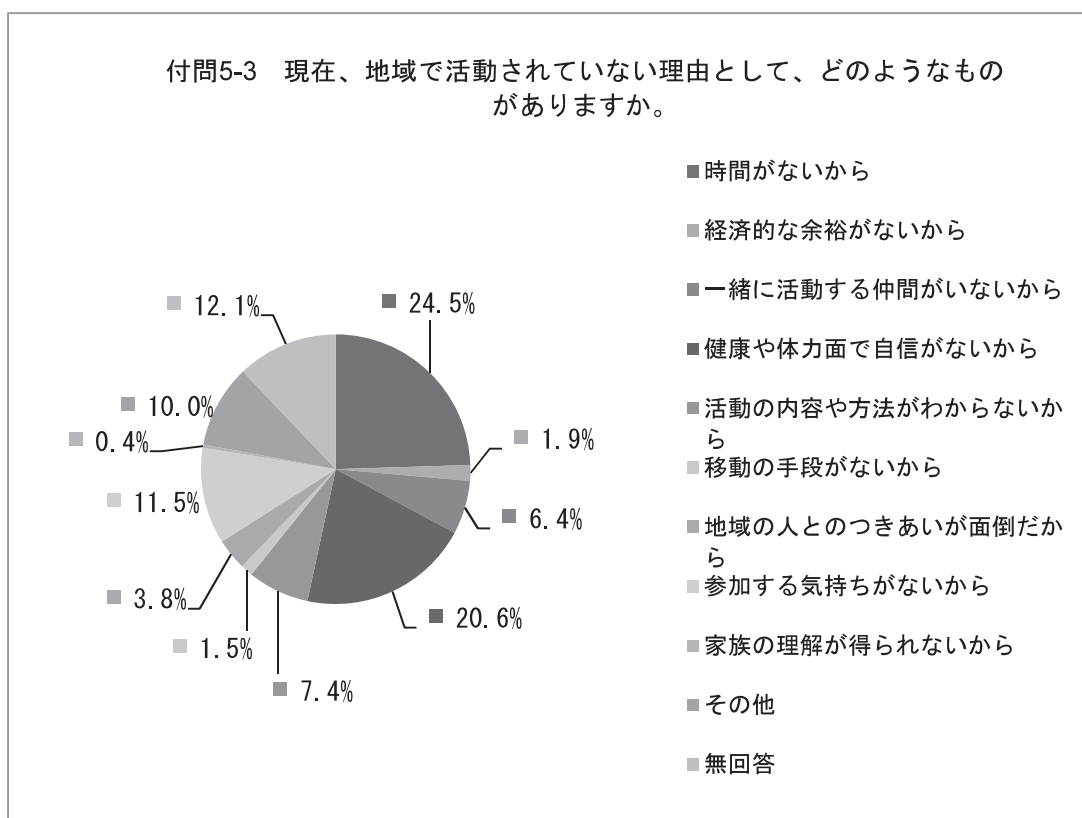
・青年層は地域での活動に参加する人々の割合は低いのですが、他の年代よりも身近な人に誘われた場合には参加をすることがわかります。先ほど、青年層では近所づきあいが希薄であるという結果が出ていましたが、近所づきあいが深まることは、青年層の地域での活動への参加を大きく促進しそうです。いきなり活動に参加してもらおうというよりも、まずは日頃の声かけなどから関係をつくり、そして地域活動へ参加をしてもらうことを検討する必要があります。

年齢階層 と 地域での活動をしている理由 のクロス表

		地域での活動をしている理由											
		地域や社会に 貢献したいから	自分の知識や 経験を活か したい(積み たい)から	友人や仲間を 増やしたい から	生活にはりあ いを持たせ たいから	身近な人に誘 われたから	様々な情報 を手に入れ たいから	健康を維持 したいから	何となく	その他			
年齢 階層	20~39歳	度数	10	2	2	2	10	1	1	5	5	合計	38
		年齢階層の%	26.3%	5.3%	5.3%	5.3%	26.3%	2.6%	2.6%	13.2%	13.2%		100.0%
	40~64歳	度数	106	14	15	19	36	7	10	8	27		242
		年齢階層の%	43.8%	5.8%	6.2%	7.9%	14.9%	2.9%	4.1%	3.3%	11.2%		100.0%
	65歳以上	度数	100	13	31	31	22	2	38	11	17		265
		年齢階層の%	37.7%	4.9%	11.7%	11.7%	8.3%	.8%	14.3%	4.2%	6.4%		100.0%
合計		度数	216	29	48	52	68	10	49	24	49		545
		年齢階層の%	39.6%	5.3%	8.8%	9.5%	12.5%	1.8%	9.0%	4.4%	9.0%		100.0%

p<.01

### 5-3. 地域での活動をしていない理由



・回答者の中で「時間がないから」が2割強(24.5%)、「健康や体力面で自信がないから」が約2割(20.6%)となりました。一方、「参加する気持ちがないから」は約1割(11.5%)となりました。時間の余裕がないことや健康面での自信がないことなど、何らかの理由があり参加していない人々が多いことがわかりました。

・質問項目に若干の変更があるため一概には言えませんが、前回2009年調査と比較したところ、「時間がないから」や「健康や体力面で自信がないから」が多いという傾向は変わりませんでした。ただし、「時間がないから」が低下し（37.5%→24.5%）、「健康や体力面で自信がないから」が増加しました（16.9%→20.6%）。

・年齢階層別にみると、「時間がないから」は青年層（44.3%）や壮年層（37.1%）において高く、高齢層において低くなりました（12.8%）。「活動の内容や方法がわからないから」も青年層において高く（16.2%）、高齢層において低くなっています（4.6%）。一方、「健康や体力面で自信がないから」は高齢層において高くなっています（41.1%）。「参加する気持ちがないから」は、やや青年層や壮年層において高くなっていますが、各年齢階層で1割強認められます。

・2009年調査と比較し、「時間がないから」が低下し、「健康や体力面で自信がないから」が増加した背景には、回答者の中で壮年層が減少し、高齢層が増加したことも関係しているのかもしれませんが。

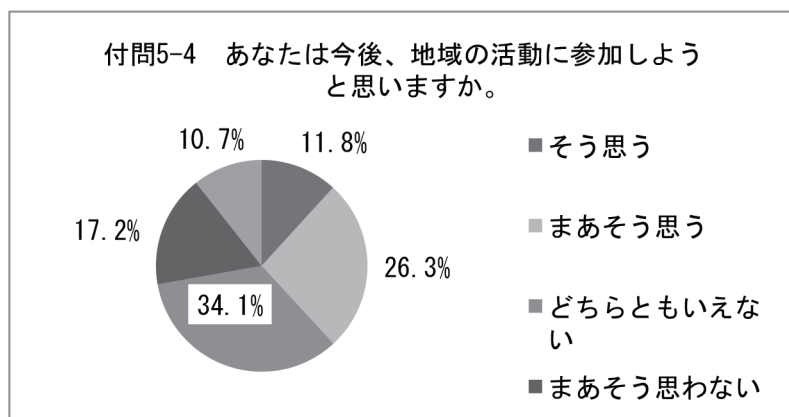
・高齢層は健康や体力面での不安を抱えていることから、健康面での負担が少なく、継続できるような活動の工夫とともに、移動の支援、利用しやすい施設の整備といった環境整備も必要です。一方、青年層や壮年層では「時間がないから」が多くなっていますが、共働き世帯も多い中で地域での活動に参加をしてもらうためには、休日に比較的短い時間でもできるような活動を増やし、周知していくことが必要かもしれません。

年齢階層と地域での活動をしていない理由のクロス表

年齢階層		地域での活動をしていない理由										合計
		時間がないから	経済的な余裕がないから	一緒に活動する仲間がいないから	健康や体力面で自信がないから	活動の内容や方法がわからないから	移動の手段がないから	地域の人のつきあいが面倒だから	参加する気持ちがないから	家族の理解が得られないから	その他	
20～39歳	度数	74	3	16	3	27	0	6	24	0	14	167
	年齢階層の%	44.3%	1.8%	9.6%	1.8%	16.2%	0.0%	3.6%	14.4%	0.0%	8.4%	100.0%
40～64歳	度数	169	13	33	56	45	4	17	64	4	50	455
	年齢階層の%	37.1%	2.9%	7.3%	12.3%	9.9%	.9%	3.7%	14.1%	.9%	11.0%	100.0%
65歳以上	度数	61	8	32	196	22	14	24	57	1	62	477
	年齢階層の%	12.8%	1.7%	6.7%	41.1%	4.6%	2.9%	5.0%	11.9%	.2%	13.0%	100.0%
合計	度数	304	24	81	255	94	18	47	145	5	126	1099
	年齢階層の%	27.7%	2.2%	7.4%	23.2%	8.6%	1.6%	4.3%	13.2%	.5%	11.5%	100.0%

p<.01

#### 5-4. 地域での活動への参加意欲



・回答者の中で肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合は約4割（38.1%）であり、半数弱の人々が今後地域活動への参加の意欲を持っていることがわかります（無回答を除外）。

・前回2009年調査と比較し、肯定層の割合は低下しました（49.1%→38.1%）。現在活動をしていない人々に限定した場合、地域活動への参加意欲は低下していることがうかがえます。

・年齢階層別にみると、肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合は青年層において高く（45.1%）、壮年層（36.2%）や高齢層（37.5%）においてやや低くなっています。青年層の方が地域での活動への参加意欲が高いことがわかります。ただし、強い肯定を示す人々（「そう思う」）は、青年層において低く、高齢層において高くなっています。

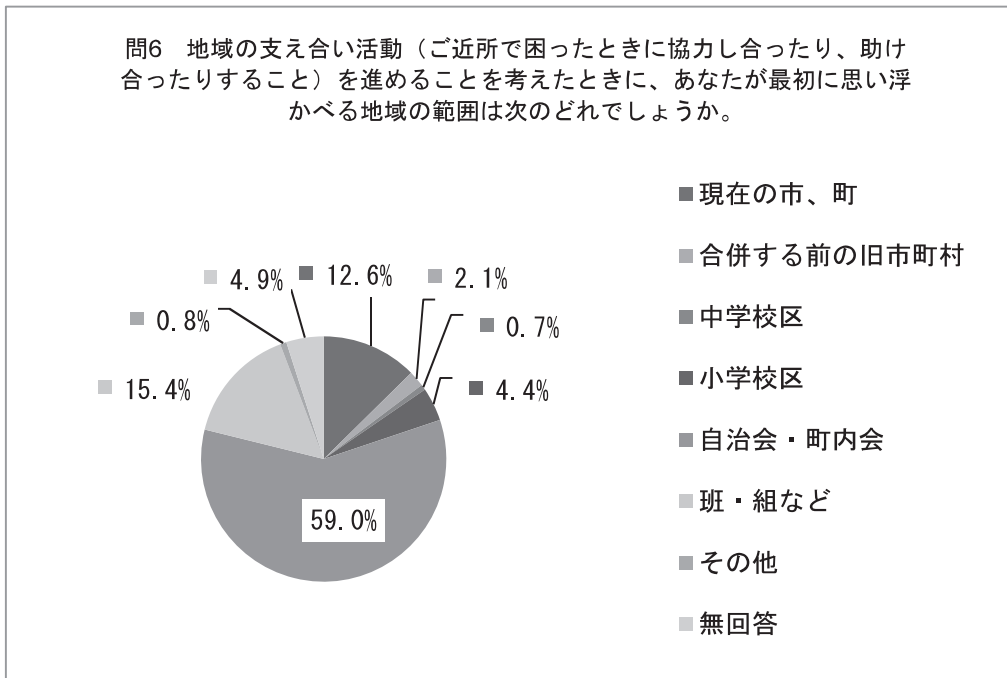
・回答者に高齢層が増加したためかもしれませんが、地域活動の参加状況は2009年調査と比較し大きな変化はありませんでしたが、現在参加をしていない層に限定してみると、2009年調査と比較し参加意欲は低下していることがわかります。しかしながら、青年層において強い肯定を示す人々（「そう思う」）は少ないものの、肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）全体の割合は他の年齢層よりも高いことは、今後の可能性を示すものとも言えます。青年層は、現在は地域での活動に参加をしていないが、機会があれば参加をしようと思っている層の存在を示しています。

年齢階層 と 地域での活動への参加意欲 のクロス表

		地域での活動への参加意欲						
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	11	72	60	27	14	184
		年齢階層の%	6.0%	39.1%	32.6%	14.7%	7.6%	100.0%
	40～64歳	度数	56	124	192	86	39	497
		年齢階層の%	11.3%	24.9%	38.6%	17.3%	7.8%	100.0%
	65歳以上	度数	73	123	158	94	75	523
		年齢階層の%	14.0%	23.5%	30.2%	18.0%	14.3%	100.0%
合計		度数	140	319	410	207	128	1204
		年齢階層の%	11.6%	26.5%	34.1%	17.2%	10.6%	100.0%

p<.01

## 6. 地域の支え合い活動の際の「地域の範囲」



・回答者の中で「自治会・町内会」が約6割（59.0%）、「班・組など」が1割強（15.4%）、「現在の市、町」が約1割（12.6%）となりました。多くの人々が支え合い活動の際の「地域の範囲」として、「自治会・町内会」を思い浮かべていることがわかります。

・前回2009年調査と比較して、地域の支え合い活動の際の「地域の範囲」に大きな変化はありませんでした。

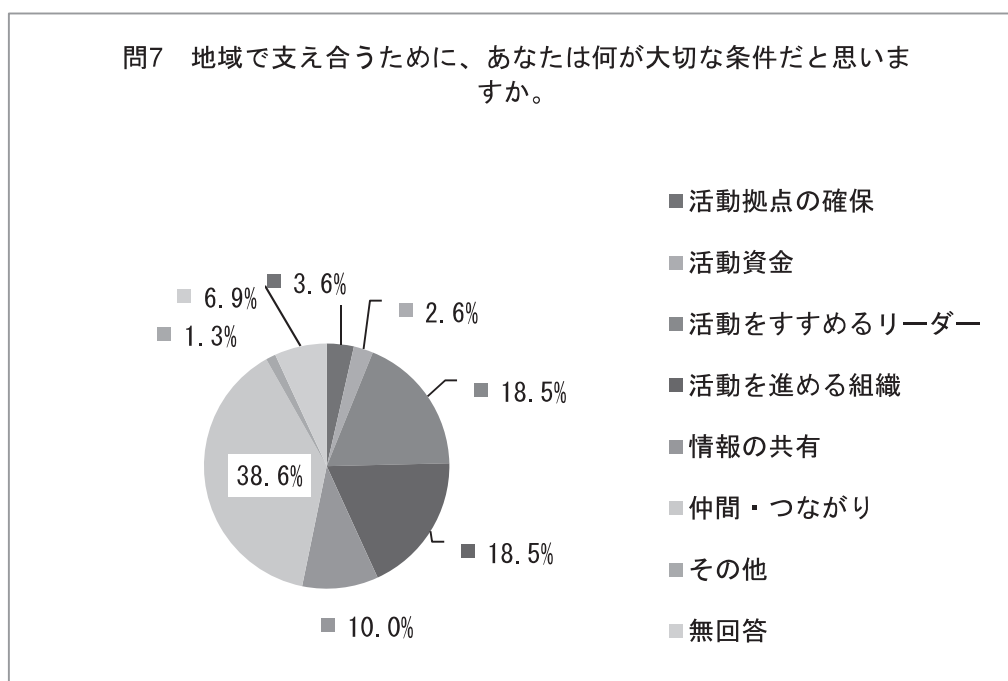
・年齢階層別にみると、「自治会・町内会」は壮年層（62.2%）や高齢層（64.3%）において高く、青年層において低くなっています（53.5%）。一方、「小学校区」は青年層において高く（15.4%）、壮年層（5.5%）や高齢層（1.4%）において低くなっています。

・壮年層や高齢層では自治会や町内会活動を通して地域に関わる機会が多いため、「自治会・町内会」とする回答が多く、青年層においては子どもが小学生頃の年代であり学校を通して地域と関わる機会が多いため、「小学校区」との回答が多くなったことが予想されます。いずれにしろ、地域の範囲としては、比較的狭い、顔が見える範囲を想定していることがうかがえます。

年齢階層と地域の支え合いの活動の際の「地域」の範囲のクロス表

		地域の支え合いの活動の際の「地域」の範囲								
		現在の市、町	合併する前の旧市町村	中学校区	小学校区	自治会・町内会	班・組など	その他	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	33	3	3	35	122	32	0	228
		年齢階層の%	14.5%	1.3%	1.3%	15.4%	53.5%	14.0%	0.0%	100.0%
40～64歳		度数	90	16	9	43	482	124	11	775
		年齢階層の%	11.6%	2.1%	1.2%	5.5%	62.2%	16.0%	1.4%	100.0%
65歳以上		度数	132	23	3	13	595	154	6	926
		年齢階層の%	14.3%	2.5%	.3%	1.4%	64.3%	16.6%	.6%	100.0%
合計		度数	255	42	15	91	1199	310	17	1929
		年齢階層の%	13.2%	2.2%	.8%	4.7%	62.2%	16.1%	.9%	100.0%

## 7. 地域で支え合うための条件



・回答者の中で「仲間・つながり」が4割弱（38.6%）、「活動をすすめるリーダー」が2割弱（18.5%）、「活動を進める組織」が2割弱（18.5%）となりました。

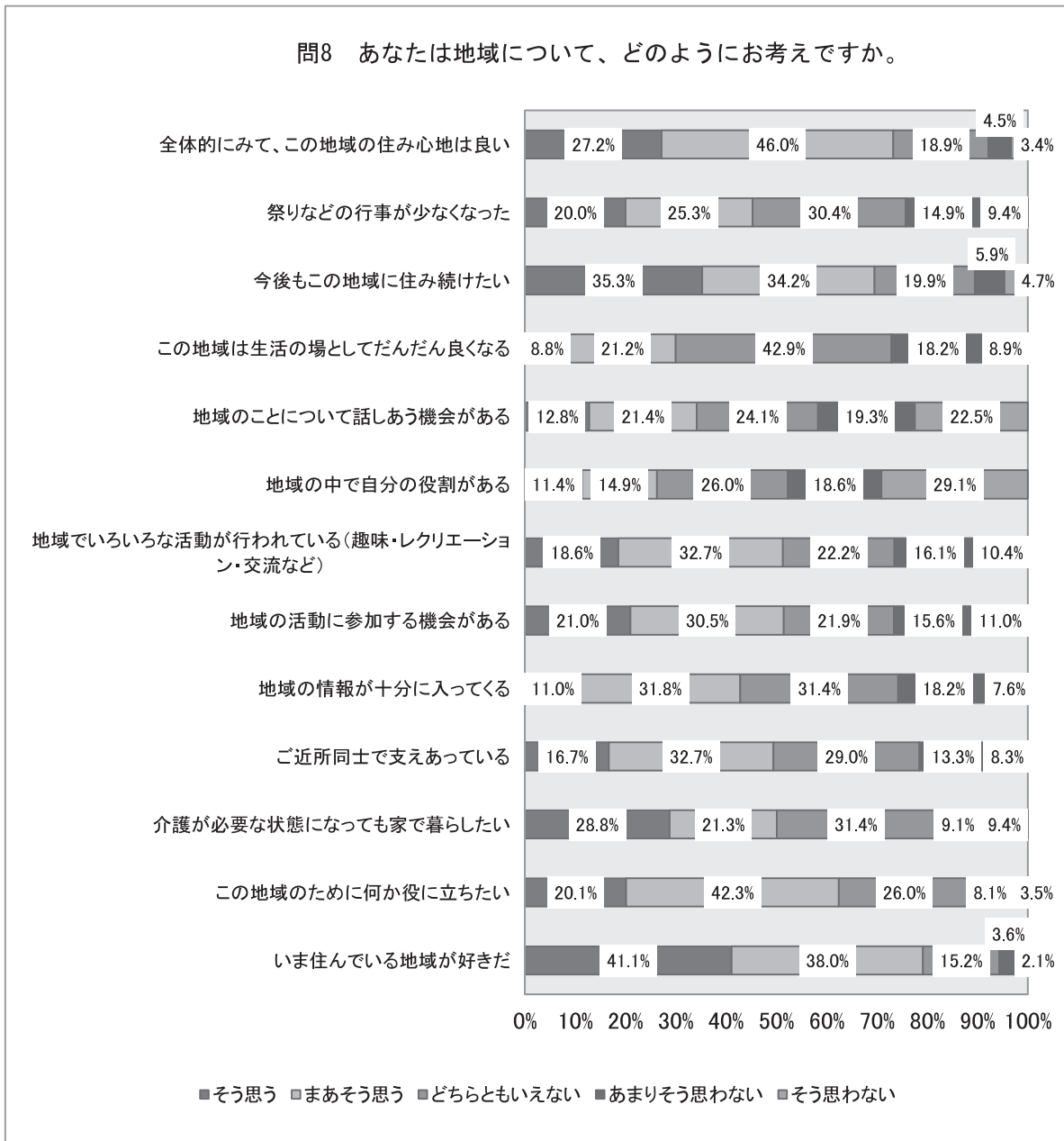
・前回2009年調査と比較し、「仲間・つながり」、「活動をすすめるリーダー」、「活動を進める組織」の3項目の回答が多いという傾向に変化はありませんでした。ただし、「情報の共有」は増加をしています（5.8%→10.0%）。

・年齢階層別にみると、「仲間・つながり」は青年層において最も高くなっています（47.6%）。一方、「活動をすすめるリーダー」は、年齢層が高いほど増加しています。青年層において低く（11.0%）、高齢層において高くなっています（22.4%）。「活動を進める組織」は壮年層において最も高くなっています（23.9%）。

年齢階層と地域で支え合うための条件のクロス表

		地域で支え合うための条件								
		活動拠点の確保	活動資金	活動をすすめるリーダー	活動を進める組織	情報の共有	仲間・つながり	その他	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	6	11	25	37	36	108	4	227
		年齢階層の%	2.6%	4.8%	11.0%	16.3%	15.9%	47.6%	1.8%	100.0%
	40～64歳	度数	23	17	149	183	87	297	11	767
		年齢階層の%	3.0%	2.2%	19.4%	23.9%	11.3%	38.7%	1.4%	100.0%
	65歳以上	度数	44	24	201	158	82	378	11	898
		年齢階層の%	4.9%	2.7%	22.4%	17.6%	9.1%	42.1%	1.2%	100.0%
合計		度数	73	52	375	378	205	783	26	1892
		年齢階層の%	3.9%	2.7%	19.8%	20.0%	10.8%	41.4%	1.4%	100.0%

## 8. 地域意識



・回答者の中で各設問への肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合を見てみると、「いま住んでいる地域が好きだ」は約8割（79.1%）、「全体的にみて、この地域の住み心地は良い」は約7割（73.2%）、「今後もこの地域に住み続けたい」は約7割（69.5%）と、多くの人々が地域に愛着を持ち住み続けたいと思っていることがわかります。「介護が必要な状態になっても家で暮らしたい」も、約半数（50.1%）となりました。また、「この地域のために何か役に立ちたい」は約6割（62.4%）となりました。

・一方、「この地域は生活の場としてだんだん良くなる」は約3割（30.0%）、「地域のことについて話しあう機会がある」は3割強（34.1%）、「地域の中で自分の役割がある」は3割弱（26.3%）となりました。

・地域への愛着や永住意志を持ちながらも、生活の場としては今後はだんだん良くなるとは思っていない場合もあることがわかりました。

・前回 2009 年調査と比較し、「いま住んでいる地域が好きだ」が増加しました (71.5%→79.1%)。また、「この地域は生活の場としてだんだん良くなる」がわずかながら増加しました (24.6%→30.0%)。青年層と比べ高齢層において地域への評価は高い傾向にあるため、地域への評価が高まったことには、高齢化の影響もあるのかもしれませんが。なお、その他の項目については大きな変化は見られませんでした。

・年齢階層別に肯定層（「そう思う」と「まあそう思う」の合計）の割合をみると、すべての項目について、青年層よりも高齢層において肯定層の割合は高くなっています。特徴的な項目をいくつかみてみると、「いま住んでいる地域が好きだ」は高齢層 8 割強 (82.1%) に対し、青年層 7 割強 (76.2%) と低くなっています。「この地域のために何か役に立ちたい」も高齢層 7 割弱 (66.0%) に対し、青年層 5 割強 (54.2%) と低くなっています。「介護が必要な状態になっても家で暮らしたい」も高齢層 6 割弱 (58.4%) に対し、青年層 4 割弱 (38.0%) となっています。「今後もこの地域に住み続けたい」も高齢層 8 割弱 (76.3%)、青年層 6 割弱 (57.2%) となっています。

年齢階層 と いま住んでいる地域が好きだ のクロス表

		いま住んでいる地域が好きだ						
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	73	106	41	11	4	235
		年齢階層の%	31.1%	45.1%	17.4%	4.7%	1.7%	100.0%
	40～64歳	度数	261	353	133	30	22	799
		年齢階層の%	32.7%	44.2%	16.6%	3.8%	2.8%	100.0%
	65歳以上	度数	478	298	123	31	15	945
		年齢階層の%	50.6%	31.5%	13.0%	3.3%	1.6%	100.0%
合計		度数	812	757	297	72	41	1979
		年齢階層の%	41.0%	38.3%	15.0%	3.6%	2.1%	100.0%

p<.01

年齢階層 と この地域のために何か役に立ちたい のクロス表

		この地域のために何か役に立ちたい						
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	23	104	76	22	9	234
		年齢階層の%	9.8%	44.4%	32.5%	9.4%	3.8%	100.0%
	40～64歳	度数	131	351	220	62	30	794
		年齢階層の%	16.5%	44.2%	27.7%	7.8%	3.8%	100.0%
	65歳以上	度数	232	350	200	70	29	881
		年齢階層の%	26.3%	39.7%	22.7%	7.9%	3.3%	100.0%
合計		度数	386	805	496	154	68	1909
		年齢階層の%	20.2%	42.2%	26.0%	8.1%	3.6%	100.0%

p<.01

年齢階層 と 介護が必要な状態になっても家で暮らしたい のクロス表

		介護が必要な状態になっても家で暮らしたい					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	38	51	85	38	22	234
		年齢階層 の %	16.2%	21.8%	36.3%	16.2%	9.4%	100.0%
	40～64歳	度数	182	161	284	86	82	795
		年齢階層 の %	22.9%	20.3%	35.7%	10.8%	10.3%	100.0%
	65歳以上	度数	342	205	252	57	82	938
		年齢階層 の %	36.5%	21.9%	26.9%	6.1%	8.7%	100.0%
合計		度数	562	417	621	181	186	1967
		年齢階層 の %	28.6%	21.2%	31.6%	9.2%	9.5%	100.0%

p<.01

年齢階層 と ご近所同士で支えあっている のクロス表

		ご近所同士で支えあっている					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	13	79	74	44	24	234
		年齢階層 の %	5.6%	33.8%	31.6%	18.8%	10.3%	100.0%
	40～64歳	度数	74	252	263	124	76	789
		年齢階層 の %	9.4%	31.9%	33.3%	15.7%	9.6%	100.0%
	65歳以上	度数	229	295	222	89	59	894
		年齢階層 の %	25.6%	33.0%	24.8%	10.0%	6.6%	100.0%
合計		度数	316	626	559	257	159	1917
		年齢階層 の %	16.5%	32.7%	29.2%	13.4%	8.3%	100.0%

p<.01

年齢階層 と 地域の情報が十分に入ってくる のクロス表

		地域の情報が十分に入ってくる					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	11	61	78	54	30	234
		年齢階層 の %	4.7%	26.1%	33.3%	23.1%	12.8%	100.0%
	40～64歳	度数	55	254	277	153	54	793
		年齢階層 の %	6.9%	32.0%	34.9%	19.3%	6.8%	100.0%
	65歳以上	度数	141	290	242	143	62	878
		年齢階層 の %	16.1%	33.0%	27.6%	16.3%	7.1%	100.0%
合計		度数	207	605	597	350	146	1905
		年齢階層 の %	10.9%	31.8%	31.3%	18.4%	7.7%	100.0%

p<.01

年齢階層 と 地域の活動に参加する機会がある のクロス表

		地域の活動に参加する機会がある					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いけない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	17	70	37	55	54	233
		年齢階層 の %	7.3%	30.0%	15.9%	23.6%	23.2%	100.0%
	40～64歳	度数	135	255	204	122	73	789
		年齢階層 の %	17.1%	32.3%	25.9%	15.5%	9.3%	100.0%
	65歳以上	度数	237	256	173	116	82	864
		年齢階層 の %	27.4%	29.6%	20.0%	13.4%	9.5%	100.0%
合計		度数	389	581	414	293	209	1886
		年齢階層 の %	20.6%	30.8%	22.0%	15.5%	11.1%	100.0%

p<.01

年齢階層 と 地域でいろいろな活動が行われている（趣味・レクリエーション・交流など） のクロス表

		地域でいろいろな活動が行われている（趣味・レクリエーション・交流など）					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いけない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	19	69	54	51	41	234
		年齢階層 の %	8.1%	29.5%	23.1%	21.8%	17.5%	100.0%
	40～64歳	度数	127	262	200	137	61	787
		年齢階層 の %	16.1%	33.3%	25.4%	17.4%	7.8%	100.0%
	65歳以上	度数	200	287	164	115	92	858
		年齢階層 の %	23.3%	33.4%	19.1%	13.4%	10.7%	100.0%
合計		度数	346	618	418	303	194	1879
		年齢階層 の %	18.4%	32.9%	22.2%	16.1%	10.3%	100.0%

p<.01

年齢階層 と 地域の中で自分の役割がある のクロス表

		地域の中で自分の役割がある					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いけない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	11	18	53	42	110	234
		年齢階層 の %	4.7%	7.7%	22.6%	17.9%	47.0%	100.0%
	40～64歳	度数	71	134	208	160	217	790
		年齢階層 の %	9.0%	17.0%	26.3%	20.3%	27.5%	100.0%
	65歳以上	度数	136	130	232	152	222	872
		年齢階層 の %	15.6%	14.9%	26.6%	17.4%	25.5%	100.0%
合計		度数	218	282	493	354	549	1896
		年齢階層 の %	11.5%	14.9%	26.0%	18.7%	29.0%	100.0%

p<.01

年齢階層 と 地域のことについて話しあう機会がある のクロス表

		地域のことについて話しあう機会がある					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	8	27	56	47	96	234
		年齢階層の%	3.4%	11.5%	23.9%	20.1%	41.0%	100.0%
	40～64歳	度数	78	189	201	147	173	788
		年齢階層の%	9.9%	24.0%	25.5%	18.7%	22.0%	100.0%
	65歳以上	度数	153	193	201	175	159	881
		年齢階層の%	17.4%	21.9%	22.8%	19.9%	18.0%	100.0%
合計		度数	239	409	458	369	428	1903
		年齢階層の%	12.6%	21.5%	24.1%	19.4%	22.5%	100.0%

p<.01

年齢階層 と この地域は生活の場としてだんだん良くなる のクロス表

		この地域は生活の場としてだんだん良くなる					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	15	56	109	38	17	235
		年齢階層の%	6.4%	23.8%	46.4%	16.2%	7.2%	100.0%
	40～64歳	度数	47	157	373	148	68	793
		年齢階層の%	5.9%	19.8%	47.0%	18.7%	8.6%	100.0%
	65歳以上	度数	104	189	331	161	84	869
		年齢階層の%	12.0%	21.7%	38.1%	18.5%	9.7%	100.0%
合計		度数	166	402	813	347	169	1897
		年齢階層の%	8.8%	21.2%	42.9%	18.3%	8.9%	100.0%

p<.01

年齢階層 と 今後もこの地域に住み続けたい のクロス表

		今後もこの地域に住み続けたい					合計	
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない		
年齢階層	20～39歳	度数	53	82	65	18	18	236
		年齢階層の%	22.5%	34.7%	27.5%	7.6%	7.6%	100.0%
	40～64歳	度数	226	292	187	54	37	796
		年齢階層の%	28.4%	36.7%	23.5%	6.8%	4.6%	100.0%
	65歳以上	度数	405	291	137	43	36	912
		年齢階層の%	44.4%	31.9%	15.0%	4.7%	3.9%	100.0%
合計		度数	684	665	389	115	91	1944
		年齢階層の%	35.2%	34.2%	20.0%	5.9%	4.7%	100.0%

p<.01

年齢階層 と 祭りなどの行事が少なくなった のクロス表

		祭りなどの行事が少なくなった					
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
年齢階層	20～39歳	度数 37	45	105	31	17	235
		年齢階層 の % 15.7%	19.1%	44.7%	13.2%	7.2%	100.0%
	40～64歳	度数 136	203	256	120	74	789
		年齢階層 の % 17.2%	25.7%	32.4%	15.2%	9.4%	100.0%
	65歳以上	度数 204	230	213	127	84	858
		年齢階層 の % 23.8%	26.8%	24.8%	14.8%	9.8%	100.0%
合計		度数 377	478	574	278	175	1882
		年齢階層 の % 20.0%	25.4%	30.5%	14.8%	9.3%	100.0%

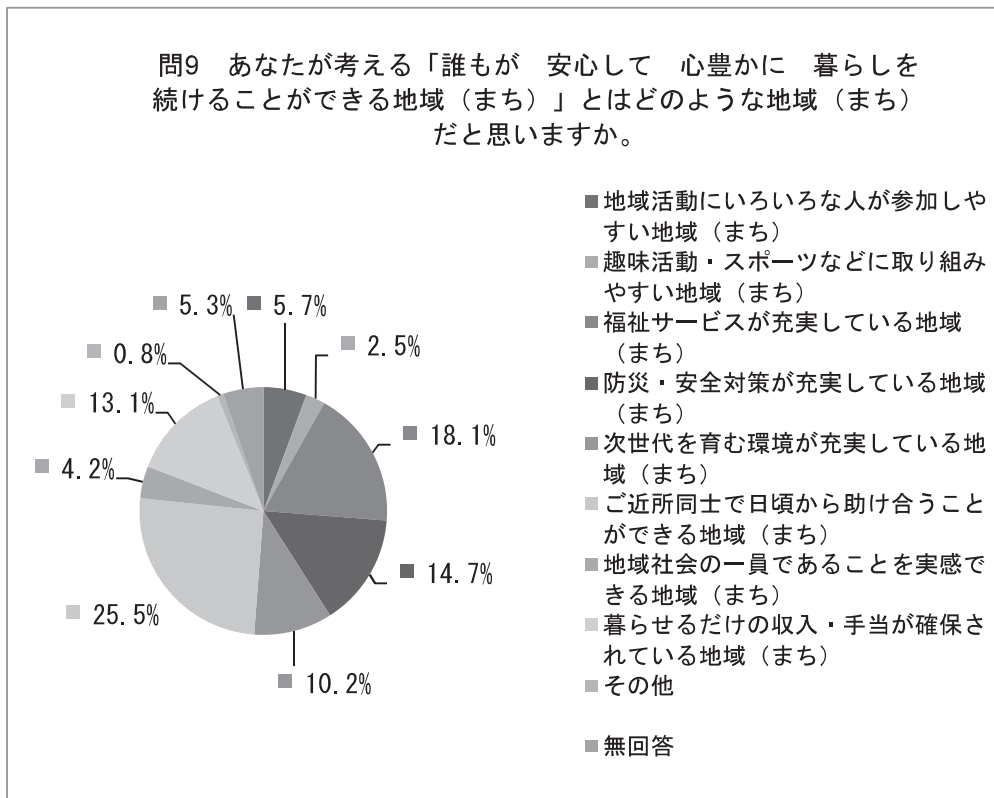
p<.01

年齢階層 と 全体的にみて、この地域の住み心地は良い のクロス表

		全体的にみて、この地域の住み心地は良い					
		そう思う	まあそう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう思わない	合計
年齢階層	20～39歳	度数 64	106	47	12	6	235
		年齢階層 の % 27.2%	45.1%	20.0%	5.1%	2.6%	100.0%
	40～64歳	度数 177	412	145	34	29	797
		年齢階層 の % 22.2%	51.7%	18.2%	4.3%	3.6%	100.0%
	65歳以上	度数 285	377	173	40	31	906
		年齢階層 の % 31.5%	41.6%	19.1%	4.4%	3.4%	100.0%
合計		度数 526	895	365	86	66	1938
		年齢階層 の % 27.1%	46.2%	18.8%	4.4%	3.4%	100.0%

p<.01

9. あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らしを続けることができる地域（まち）」



・回答者の中で「ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域（まち）」が2割強（25.5%）、「福祉サービスが充実している地域（まち）」が2割弱（18.1%）、「防災・安全対策が充実している地域（まち）」が1割強（14.7%）、「暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域（まち）」が1割強（13.1%）、「次世代を育む環境が充実している地域（まち）」が約1割（10.2%）となりました。ご近所同士の助け合い、福祉サービスの充実、防災・安全、生活に必要な収入がある地域（まち）を、理想としていることがうかがえます。

・質問項目に若干の変更があるため一概には言えませんが、前回2009年調査と比較したところ、「ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域（まち）」、「福祉サービスが充実している地域（まち）」、「防災・安全対策が充実している地域（まち）」、「暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域（まち）」、「次世代を育む環境が充実している地域（まち）」の5項目が多いという傾向は変わりませんでした。ただし、「福祉サービスが充実している地域（まち）」がやや低下し（24.7%→18.1%）、「ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域（まち）」がやや増加しました（20.1%→25.5%）。

・年齢階層別にみると、「ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域（まち）」は高齢層において高く（34.7%）、壮年層（19.5%）や青年層（20.3%）において低くなっています。「福祉サービスが充実している地域（まち）」も高齢層（22.0%）や壮年層（19.0%）において高く、青年層において低くなっています（8.2%）。一方、「防災・安全対策が充実している地域（まち）」は青年層（17.2%）と壮年層（18.5%）において高く、高齢層において低くなっています（12.9%）。「暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域（まち）」も青年層（21.6%）と壮年層（16.7%）において高く、高齢層において低くなっています（9.1%）。

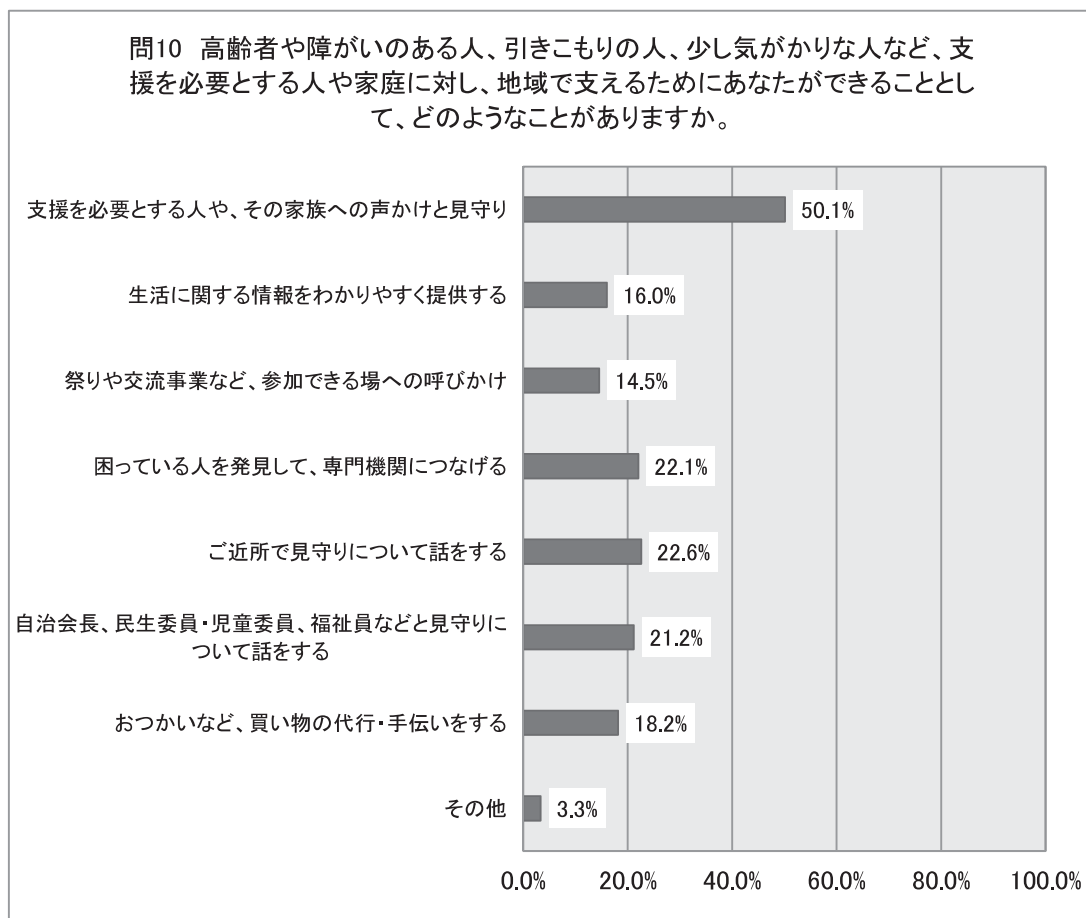
・望ましい地域（まち）として思い描くことは、年齢階層によって異なることがわかりました。青年層および壮年層においては、近隣での信頼（相互支援）関係があることに加え、防災・安全や、暮らせるだけの収入が望まれており、さらに青年層では、次世代を育む環境（子育て支援）も期待されています。一方、高齢層においては、近所での助け合いや福祉サービスの充実が望まれています。年代によって生活様式が異なり、必要としているものが異なっていることをあらためて示す結果となりました。

年齢階層 と あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らしを続けることができる地域（まち）」のクロス表

		あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らしを続けることができる地域（まち）」										
		地域活動にいろいろな人が参加しやすい地域	趣味活動・スポーツなどに取り組みやすい地域	福祉サービスが充実している地域	防災・安全対策が充実している地域	次世代を育む環境が充実している地域	ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域	地域社会の一員であることを実感できる地域	暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域	その他	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	16	11	19	40	45	47	4	50	0	232
		年齢階層の%	6.9%	4.7%	8.2%	17.2%	19.4%	20.3%	1.7%	21.6%	0.0%	100.0%
40～64歳		度数	35	21	147	143	102	151	35	129	11	774
		年齢階層の%	4.5%	2.7%	19.0%	18.5%	13.2%	19.5%	4.5%	16.7%	1.4%	100.0%
65歳以上		度数	63	20	202	119	62	319	46	84	5	920
		年齢階層の%	6.8%	2.2%	22.0%	12.9%	6.7%	34.7%	5.0%	9.1%	.5%	100.0%
合計		度数	114	52	368	302	209	517	85	263	16	1926
		年齢階層の%	5.9%	2.7%	19.1%	15.7%	10.9%	26.8%	4.4%	13.7%	.8%	100.0%

p<.01

## 10. 支援を必要とする人に対しあなたができること



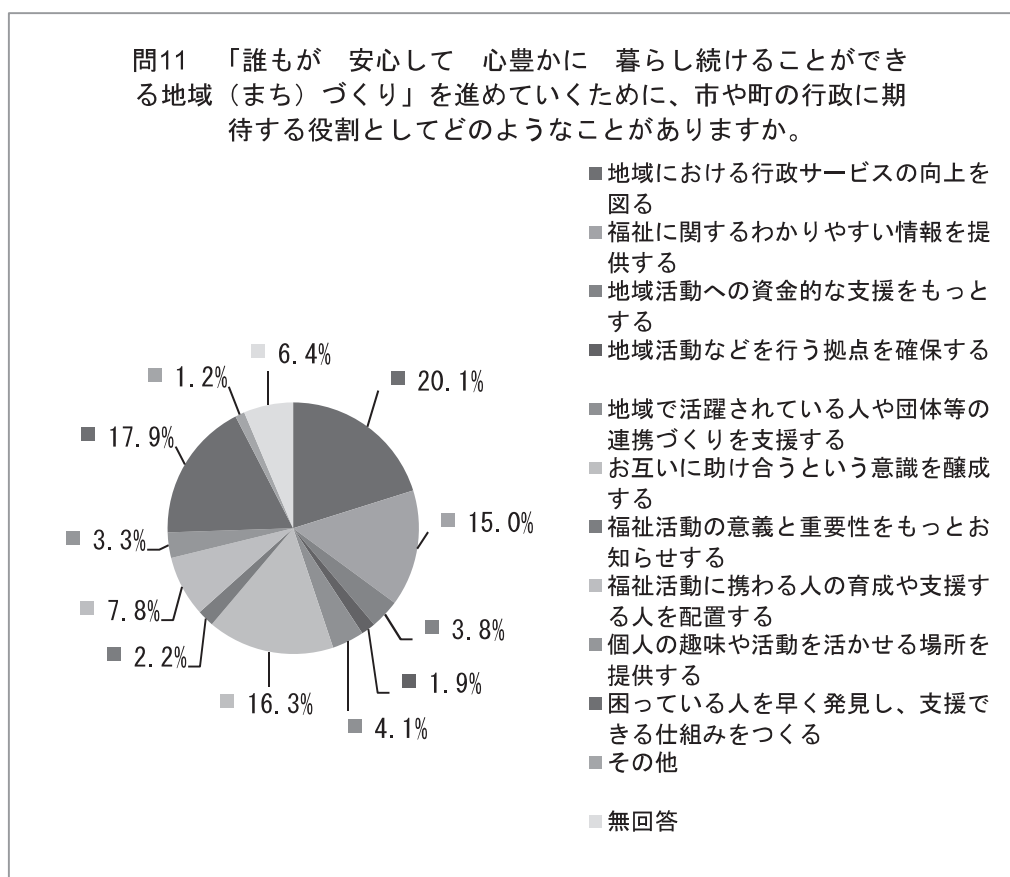
・回答者の中で「支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り」が約5割（50.1%）、「ご近所で見守りについて話をする」が約2割（22.6%）、「困っている人を発見して、専門機関につなげる」が約2割（22.1%）、「自治会長、民生委員・児童委員、福祉員など見守りについて話をする」が約2割（21.2%）となりました。

・質問項目に若干の変更があるため一概には言えませんが、前回2009年調査と比較したところ、「支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り」や「ご近所で見守りについて話をする」、「困っている人を発見して、専門機関につなげる」、「自治会長、民生委員・児童委員、福祉員など見守りについて話をする」が多いという傾向は変わりませんでした。

・山口県社会福祉協議会は市町社会福祉協議会とともに「福祉の輪づくり運動」を通じて、地域の中での「あいさつ」や「声かけ」などによる見守り活動の普及を目指しています。見守り活動は地域住民が日常生活の中で無理なく行える住民相互の支え合い活動として広がっており、社協の活動として一定の成果をあげています。こうした取り組みもあって、見守り活動の支持が約5割を超えているのではないのでしょうか。

平成25年度からは、地域における担い手をさらに広げるために、民間事業者や医療・福祉関係者と連携した複層的なネットワークを構築し、地域見守り・支え合い体制の強化を図っています。

## 1 1. 市や町の行政に期待する役割



・回答者の中で「地域における行政サービスの向上を図る」が約2割（20.1%）、「困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる」が2割弱（17.9%）、「お互いに助け合うという意識を醸成する」が2割弱（16.3%）、「福祉に関するわかりやすい情報を提供する」が1割強（15.0%）となりました。

・前回2009年調査と比較したところ、「地域における行政サービスの向上を図る」や「困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる」、「お互いに助け合うという意識を醸成する」、「福祉に関するわかりやすい情報を提供する」が多いという傾向は変わりませんでした。ただし、「地域における行政サービスの向上を図る」が低下をしています（28.5%→20.1%）。

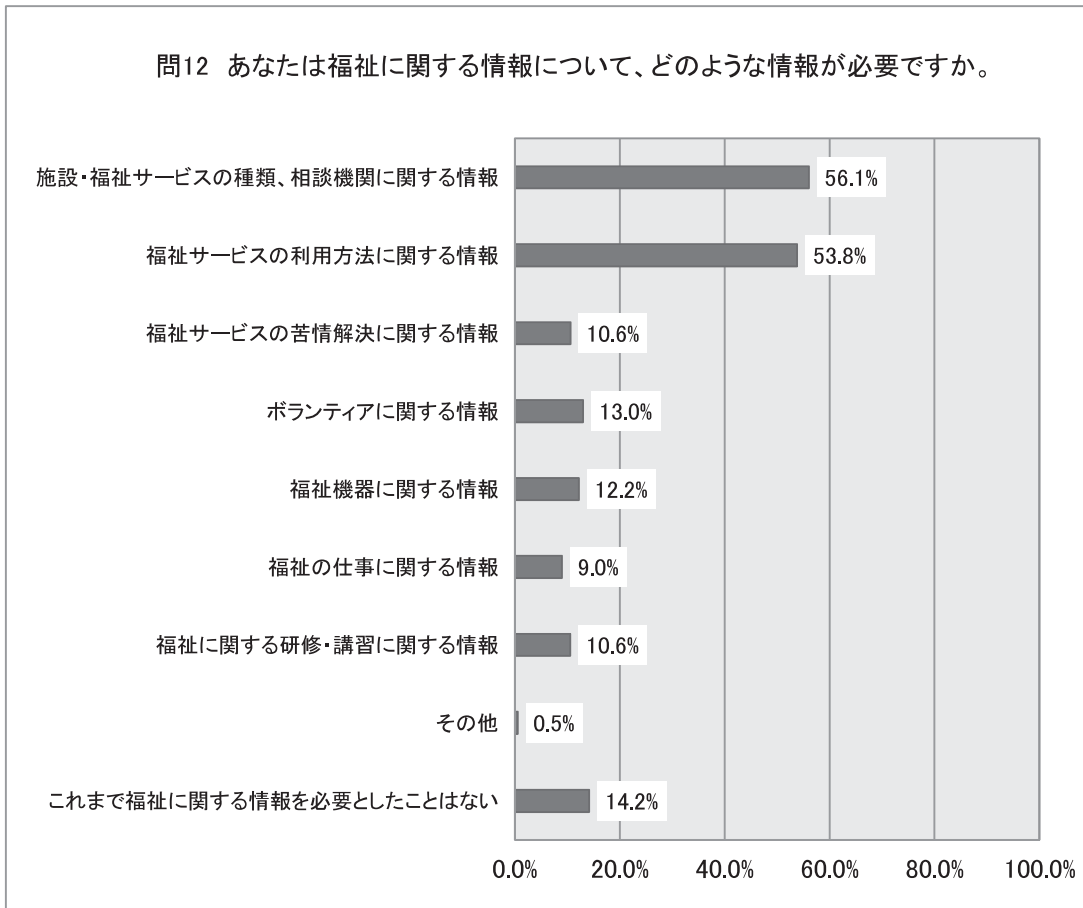
・年齢階層別にみると、「地域における行政サービスの向上を図る」や「困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる」はどの年齢層においても高く、大きな差は見られませんでした。一方、「お互いに助け合うという意識を醸成する」は高齢層において高く（19.2%）、青年層（13.9%）において低くなっています。「福祉に関するわかりやすい情報を提供する」も高齢層において高く（17.4%）、青年層（11.3%）において低くなっています。

年齢階層と市や町の行政に期待する役割のクロス表

年齢階層		市や町の行政に期待する役割											合計
		地域における福祉サービスの向上を図る	福祉に関するわかりやすい情報を提供する	地域活動への資金的な支援をもっとする	地域活動などを行う拠点を確保する	地域で活躍されている人や団体等の連携づくりを支援する	お互いに助け合うという意識を醸成する	福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする	福祉活動に携わる人の育成や支援する人を配置する	個人の趣味や活動を活かせる場所を提供する	困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる	その他	
20～39歳	度数	54	26	19	4	9	32	5	20	21	39	2	231
	年齢階層の%	23.4%	11.3%	8.2%	1.7%	3.9%	13.9%	2.2%	8.7%	9.1%	16.9%	.9%	100.0%
40～64歳	度数	164	125	28	19	38	127	13	81	18	145	16	774
	年齢階層の%	21.2%	16.1%	3.6%	2.5%	4.9%	16.4%	1.7%	10.5%	2.3%	18.7%	2.1%	100.0%
65歳以上	度数	189	156	29	16	37	173	26	61	29	177	6	899
	年齢階層の%	21.0%	17.4%	3.2%	1.8%	4.1%	19.2%	2.9%	6.8%	3.2%	19.7%	.7%	100.0%
合計	度数	407	307	76	39	84	332	44	162	68	361	24	1904
	年齢階層の%	21.4%	16.1%	4.0%	2.0%	4.4%	17.4%	2.3%	8.5%	3.6%	19.0%	1.3%	100.0%

p<.01

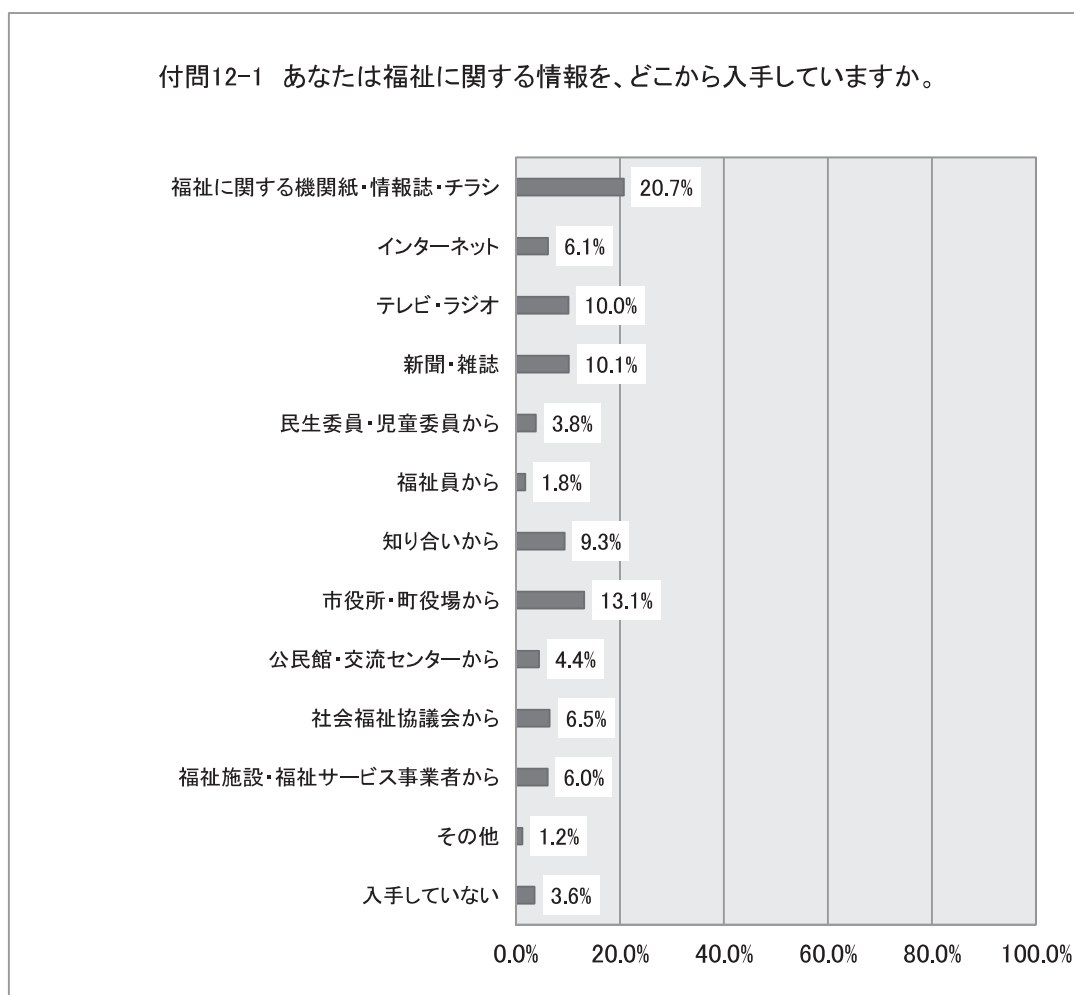
## 1 2. 福祉に関する必要な情報



・回答者の中で「施設・福祉サービスの種類、相談機関に関する情報」が6割弱（56.1%）、「福祉サービスの利用方法に関する情報」が5割強（53.8%）となりました。福祉サービスに関する情報が最も必要とされていることがわかります。一方、「これまで福祉に関する情報を必要としたことはない」は1割強（14.2%）となりました。

・前回2009年調査と比較したところ、「施設・福祉サービスの種類、相談機関に関する情報」や「福祉サービスの利用方法に関する情報」がそれぞれ5割を超え多いという傾向は変わりませんでした。また、「これまで福祉に関する情報を必要としたことはない」も大きな変化はありませんでした（15.9%→14.2%）。

## 12-1. 福祉に関する情報の入手先

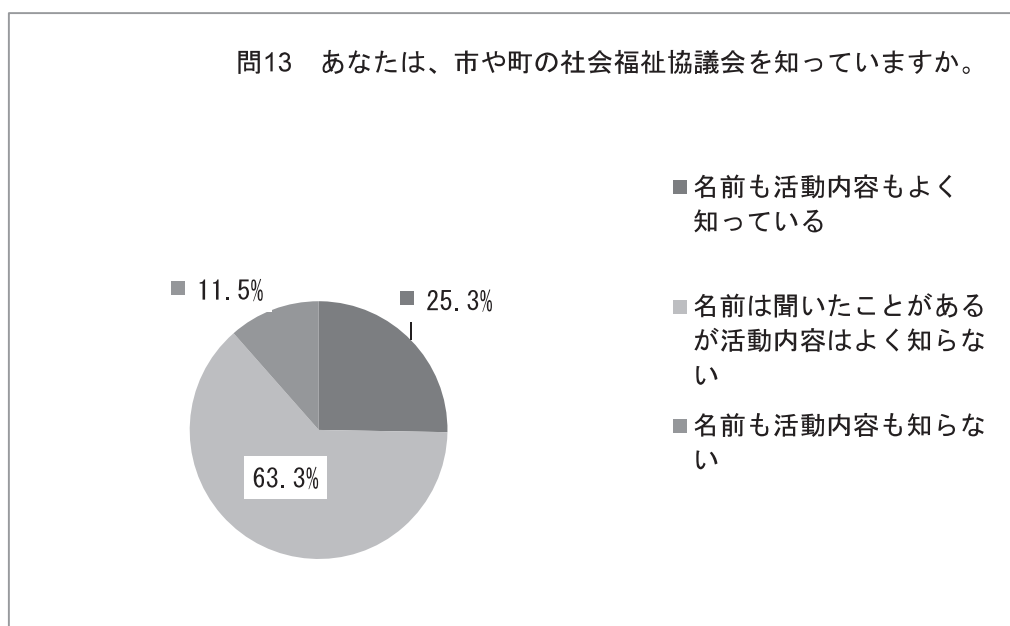


・回答者の中で「福祉に関する機関紙・情報誌・チラシ」が約2割（20.7%）、「市役所・町役場から」が1割強（13.1%）、「新聞・雑誌」が約1割（10.1%）、「テレビ・ラジオ」が約1割（10.0%）、「知り合いから」が約1割（9.3%）となりました。

・質問項目に若干の変更があるため一概には言えませんが、前回2009年調査と比較したところ「福祉に関する機関紙・情報誌・チラシ」、「市役所・町役場から」、「新聞・雑誌」、「テレビ・ラジオ」、「知り合いから」が多いという傾向は変わりませんでした。一方、「入手していない」がやや低下しています（7.9%→3.6%）。

・福祉に関する情報を入手していないという層の割合が低下し、ほとんどの人々がいずれかの方法で情報を入手し得ていることがわかります。

### 13. 市や県の社会福祉協議会の認知



・回答者の中で「名前も活動内容もよく知っている」は2割強（25.3%）にとどまりました。「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」は約6割となりました（63.3%）。

・前回2009年調査と比較して、市や県の社会福祉協議会の認知度に大きな変化はありませんでした。

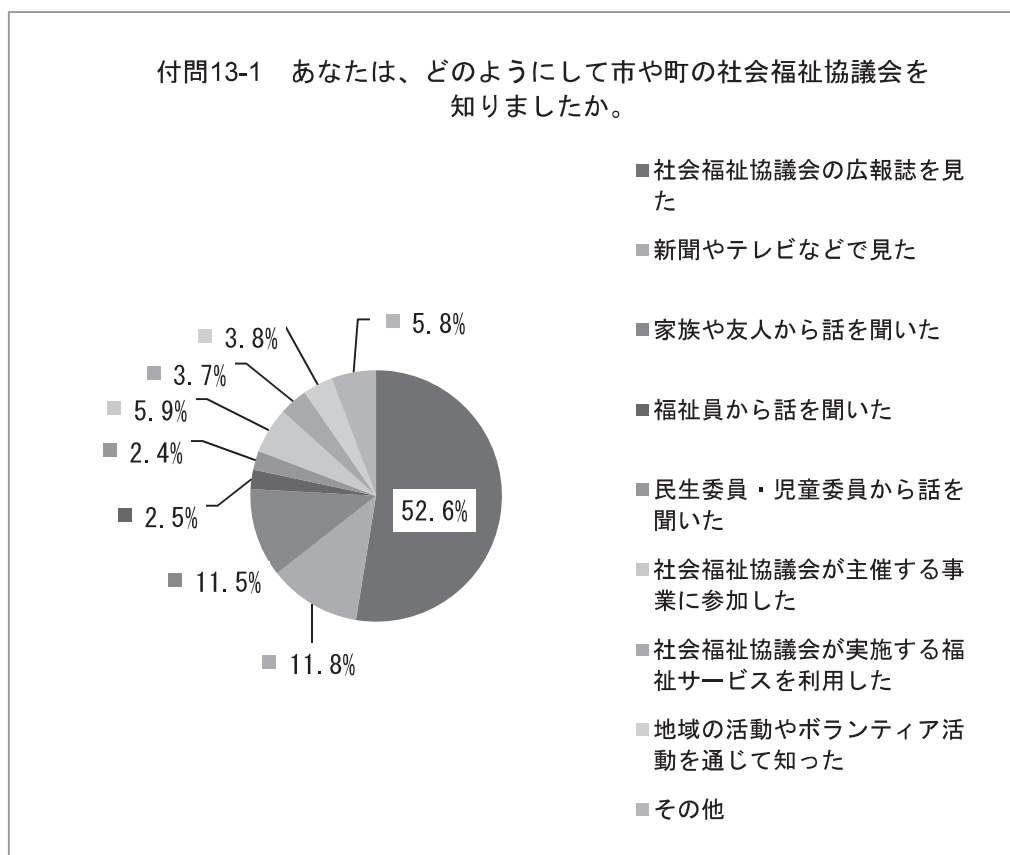
・年齢階層別にみると、「名前も活動内容もよく知っている」は高齢層において高く（33.3%）、青年層において低いことがわかります（9.8%）。

年齢階層 と 市や町の社会福祉協議会の認知 のクロス表

		市や町の社会福祉協議会の認知				
		名前も活動内容もよく知っている	名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	名前も活動内容も知らない	合計	
年齢階層	20～39歳	度数	23	134	78	235
		年齢階層の%	9.8%	57.0%	33.2%	100.0%
40～64歳		度数	160	546	80	786
		年齢階層の%	20.4%	69.5%	10.2%	100.0%
65歳以上		度数	306	547	66	919
		年齢階層の%	33.3%	59.5%	7.2%	100.0%
合計		度数	489	1227	224	1940
		年齢階層の%	25.2%	63.2%	11.5%	100.0%

p<.01

### 13-1. どのようにして市や県の社会福祉協議会を知ったか



・回答者の中で「社会福祉協議会の広報誌を見た」が約5割（52.6%）、「新聞やテレビなどで見た」が約1割（11.8%）、「家族や友人から話を聞いた」が約1割（11.5%）となりました。市や県の社会福祉協議会を知っている人の多くが、社会福祉協議会の広報誌がきっかけとなっていることがわかります。

・前回2009年調査と比較して、大きな変化はありませんでした。

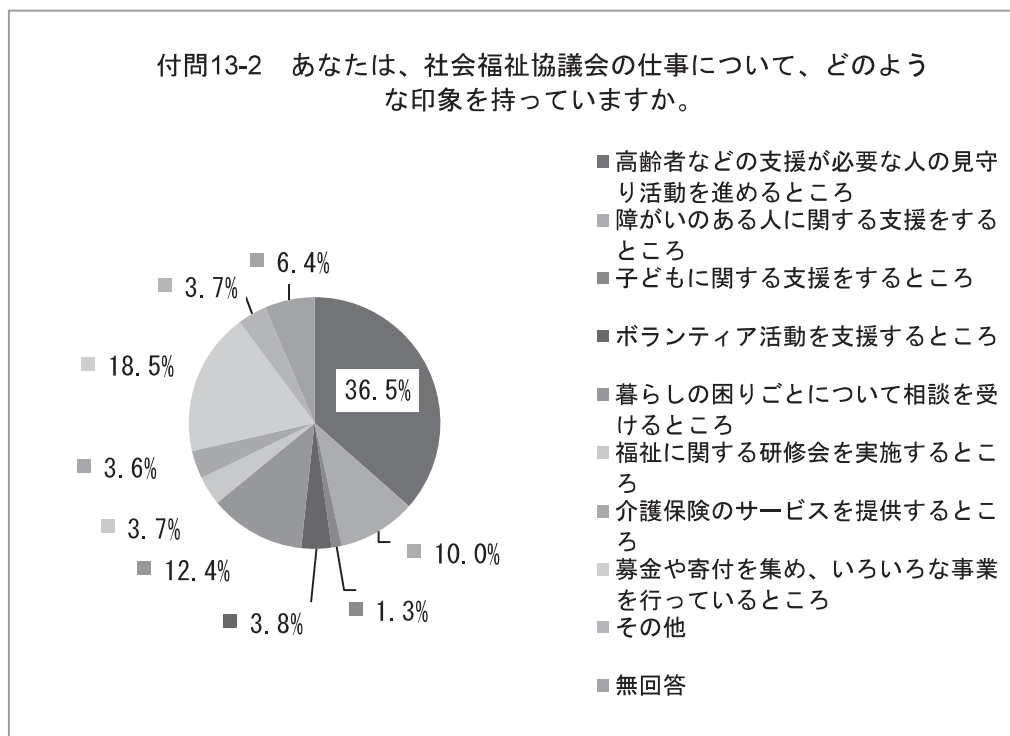
・年齢階層別にみると、「社会福祉協議会の広報誌を見た」は壮年層（52.6%）と高齢層（55.5%）において高く、青年層において低くなっています（38.1%）。一方、「新聞やテレビなどで見た」は青年層において高くなっています（16.3%）。「家族や友人から話を聞いた」も青年層において高くなっています（20.4%）。

年齢階層 と どのようにして市や県の社会福祉協議会を知ったか のクロス表

		どのようにして市や県の社会福祉協議会を知ったか										
		社会福祉協議会の広報誌を見たことがある	新聞やテレビなどで見たことがある	家族や友人から話を聞いたことがある	福祉員から話を聞いたことがある	民生委員・児童委員から話を聞いたことがある	社会福祉協議会が主催する事業に参加したことがある	社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用したことがある	地域の活動やボランティア活動を通じて知った	その他	合計	
年齢階層	20～39歳	56	24	30	4	0	5	2	8	18	147	
	年齢階層の%	38.1%	16.3%	20.4%	2.7%	0.0%	3.4%	1.4%	5.4%	12.2%	100.0%	
40～64歳	度数	343	76	83	9	7	34	35	23	42	652	
	年齢階層の%	52.6%	11.7%	12.7%	1.4%	1.1%	5.2%	5.4%	3.5%	6.4%	100.0%	
65歳以上	度数	410	80	64	26	30	51	21	28	29	739	
	年齢階層の%	55.5%	10.8%	8.7%	3.5%	4.1%	6.9%	2.8%	3.8%	3.9%	100.0%	
合計	度数	809	180	177	39	37	90	58	59	89	1538	
	年齢階層の%	52.6%	11.7%	11.5%	2.5%	2.4%	5.9%	3.8%	3.8%	5.8%	100.0%	

p<.01

### 13-2. 市や県の社会福祉協議会の仕事への印象



・回答者の中で「高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ」が3割強（36.5%）、「募金や寄付を集め、いろいろな事業を行っているところ」が2割弱（18.5%）、「暮らしの困りごとについて相談を受けるところ」が約1割（12.4%）、「障がいのある人に関する支援をするところ」が約1割（10.0%）となりました。

・質問項目に変更があるため一概には言えませんが、前回2009年調査と比較したところ、募金集めおよび助成、高齢者の見守り、障がいのある人の支援、暮らしの困りごとの相談を受けるところという印象が持たれているという傾向は変化がないようです。しかし、「高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ」が増加していることがうかがえます（13.3%→36.5%）。

・年齢階層別にみると、「高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ」は高齢層において高く（42.0%）、壮年層（35.8%）と青年層（37.3%）において低くなっています。「募金や寄付を集め、いろいろな事業を行っているところ」は壮年層（22.2%）と高齢層（19.2%）において高く、青年層において低くなっています（13.1%）。

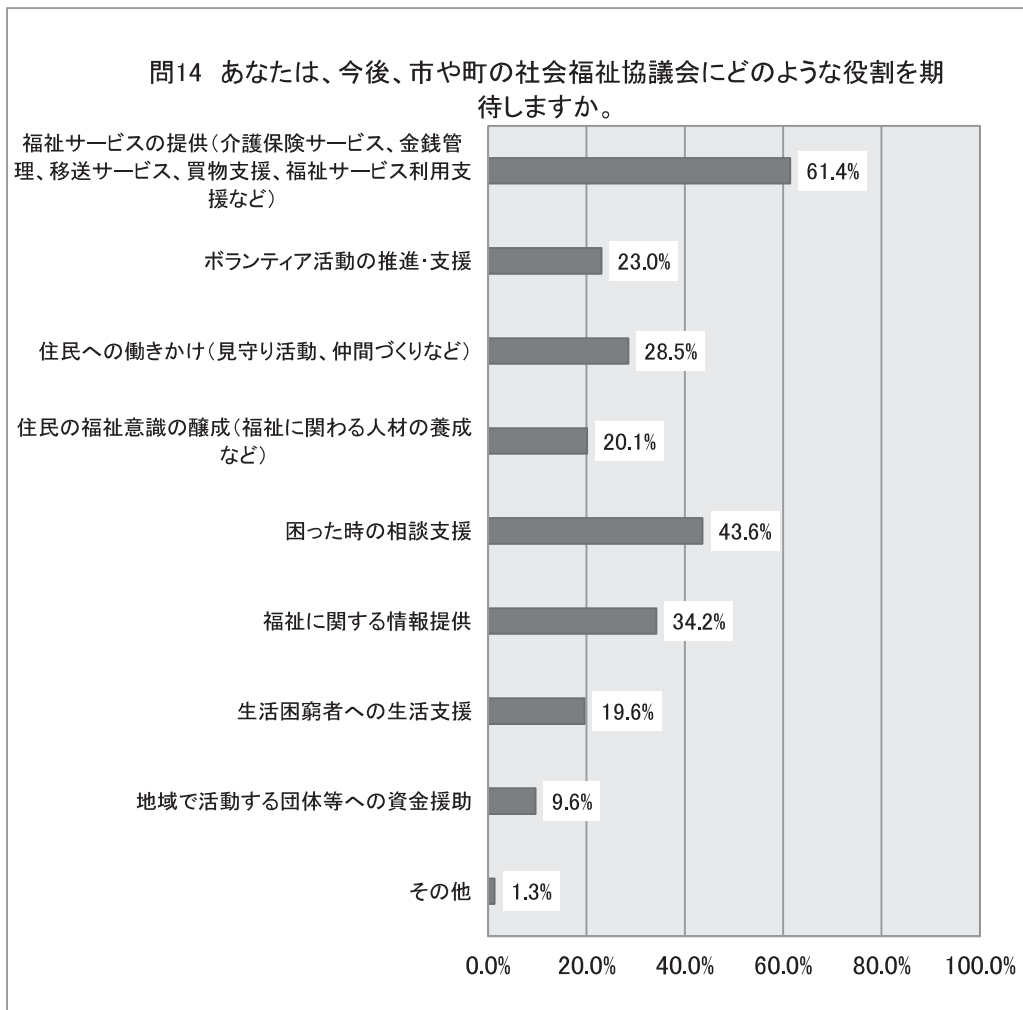
・回答者に高齢層が増えたことも一因ではありますが、社会福祉協議会は高齢者の見守り活動を進めるところとして認知が高まっていることは、こうした活動における社会福祉協議会の存在感が高まっている結果と言えます。

年齢階層 と 市や町の社会福祉協議会の仕事への印象 のクロス表

		市や町の社会福祉協議会の仕事への印象										
		高齢者などの 支援が必要な 人の見守り活 動をすすめる ところ	障害のある人 に関する支援 をする ところ	子どもに関す る支援をする ところ	ボランティア 活動を支援す るところ	暮らしの困り ごとについて 相談を受ける ところ	福祉に関する 研修会を実施 する ところ	介護保険の サービスを提 供する ところ	募金や寄付を 集め、いろい ろな事業を行 なっている ところ	その他	合計	
年齢 階層	20～39歳	度数	57	20	3	9	24	3	3	20	14	153
		年齢階層 の %	37.3%	13.1%	2.0%	5.9%	15.7%	2.0%	2.0%	13.1%	9.2%	100.0%
40～64歳		度数	242	73	10	26	87	22	33	150	33	676
		年齢階層 の %	35.8%	10.8%	1.5%	3.8%	12.9%	3.3%	4.9%	22.2%	4.9%	100.0%
65歳以上		度数	326	80	8	31	100	40	26	149	17	777
		年齢階層 の %	42.0%	10.3%	1.0%	4.0%	12.9%	5.1%	3.3%	19.2%	2.2%	100.0%
合計		度数	625	173	21	66	211	65	62	319	64	1606
		年齢階層 の %	38.9%	10.8%	1.3%	4.1%	13.1%	4.0%	3.9%	19.9%	4.0%	100.0%

p<.01

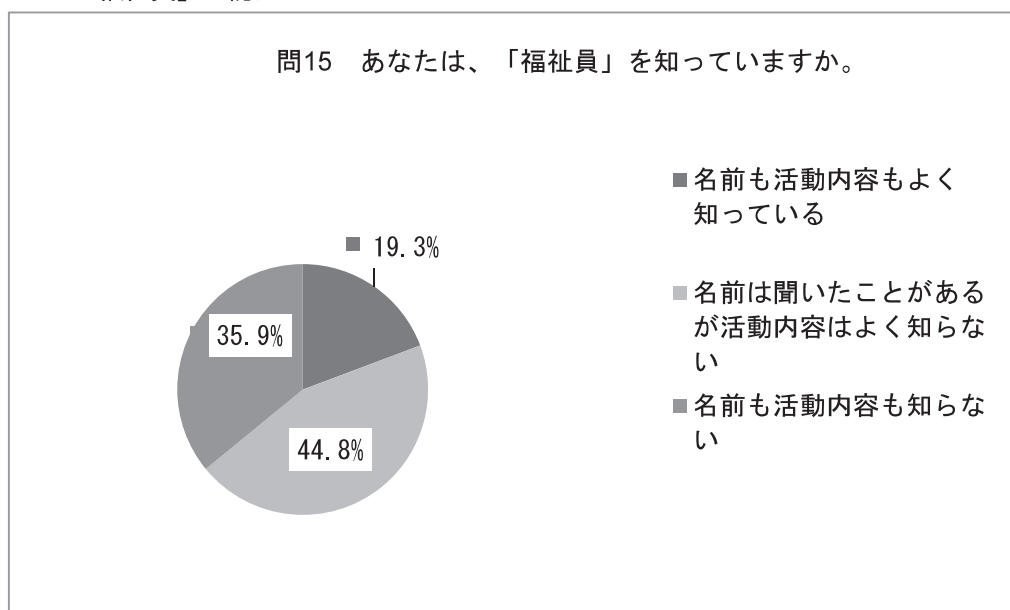
#### 1 4. 市や県の社会福祉協議会へ期待する役割



・回答者の中で「福祉サービスの提供(介護保険サービス、金銭管理、移送サービス、買物支援、福祉サービス利用支援など)」が約6割(61.4%)、「困った時の相談支援」が4割強(43.6%)、「福祉に関する情報提供」が3割強(34.2%)となりました。

・質問項目に変更があるため一概には言えませんが、前回2009年調査と比較したところ、「福祉サービスの提供(介護保険サービス、金銭管理、移送サービス、買物支援、福祉サービス利用支援など)」、「困った時の相談支援」、「福祉に関する情報提供」が多いという傾向は変わりませんでした。

## 15. 「福祉員」の認知



・回答者の中で「名前も活動内容もよく知っている」は2割弱（19.3%）にとどまりました。「名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」は4割強となりました（44.8%）。

・前回2009年調査と比較して、「名前も活動内容もよく知っている」がわずかながら増加しました（15.7% →19.3%）。

・年齢階層別にみると、「名前も活動内容もよく知っている」は高齢層において高く（27.9%）、青年層において低いことがわかります（7.7%）。

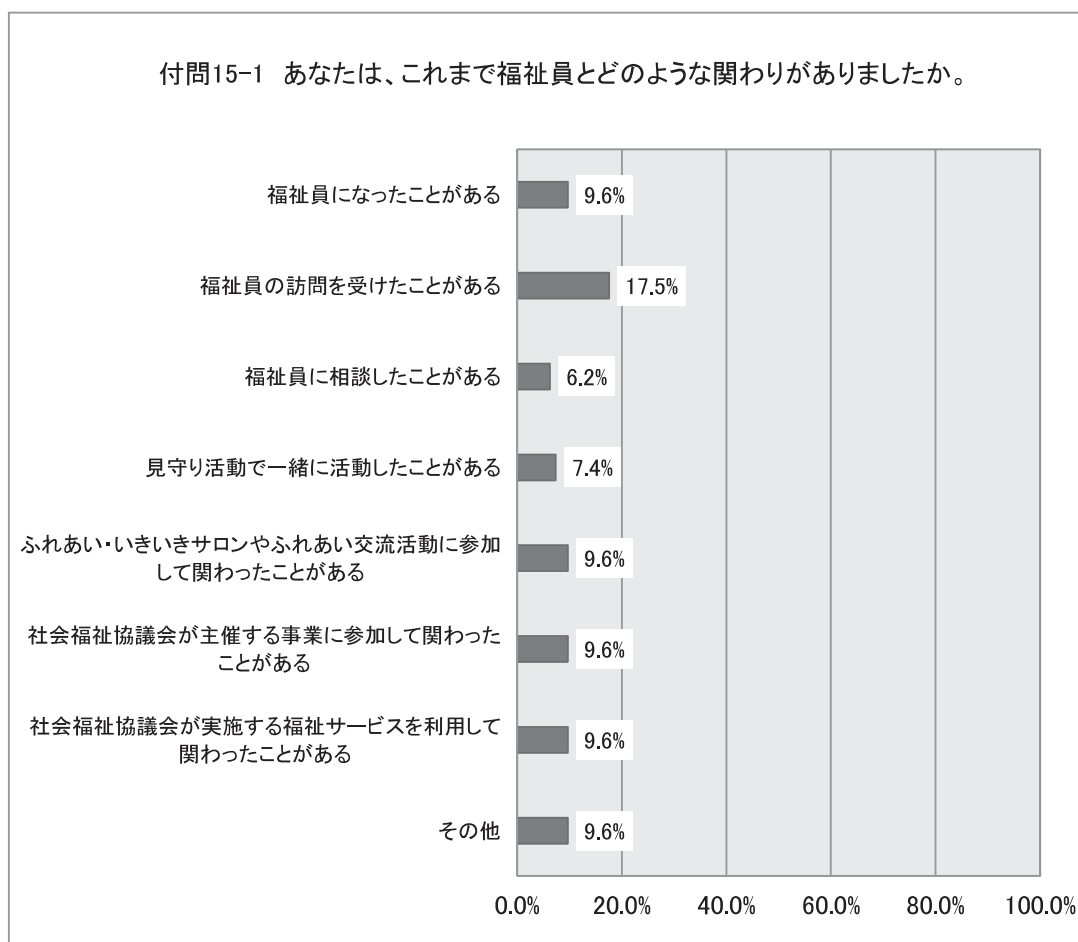
・回答者に高齢層が増えたからかもしれませんが、福祉員の認知度が高まっていることがうかがえます。

年齢階層と「福祉員」の認知のクロス表

年齢階層	度数	「福祉員」の認知			合計
		名前も活動内容もよく知っている	名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	名前も活動内容も知らない	
20～39歳	度数	18	65	151	234
	年齢階層の%	7.7%	27.8%	64.5%	100.0%
40～64歳	度数	95	369	324	788
	年齢階層の%	12.1%	46.8%	41.1%	100.0%
65歳以上	度数	257	439	224	920
	年齢階層の%	27.9%	47.7%	24.3%	100.0%
合計	度数	370	873	699	1942
	年齢階層の%	19.1%	45.0%	36.0%	100.0%

p<.01

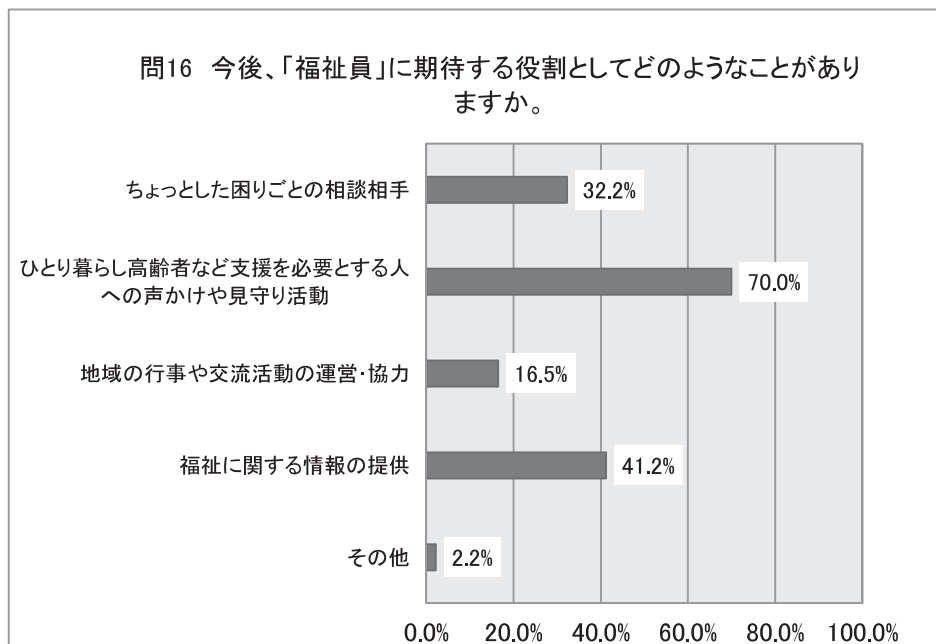
## 15-1. これまでの福祉員との関わり



・回答者の中で「福祉員の訪問を受けたことがある」が2割弱（17.5%）となりました。次いで、「福祉員になったことがある」、「ふれあい・いきいきサロンやふれあい交流活動に参加して関わったことがある」、「社会福祉協議会が主催する事業に参加して関わったことがある」、「社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用して関わったことがある」などが約1割（9.6%）となりました。

・前回2009年調査と比較して、「福祉員の訪問を受けたことがある」は約2割（20.2%→17.5%）とあまり変化はありませんが、「社会福祉協議会が主催する事業に参加して関わったことがある」が大きく低下しています（24.6%→9.6%）。

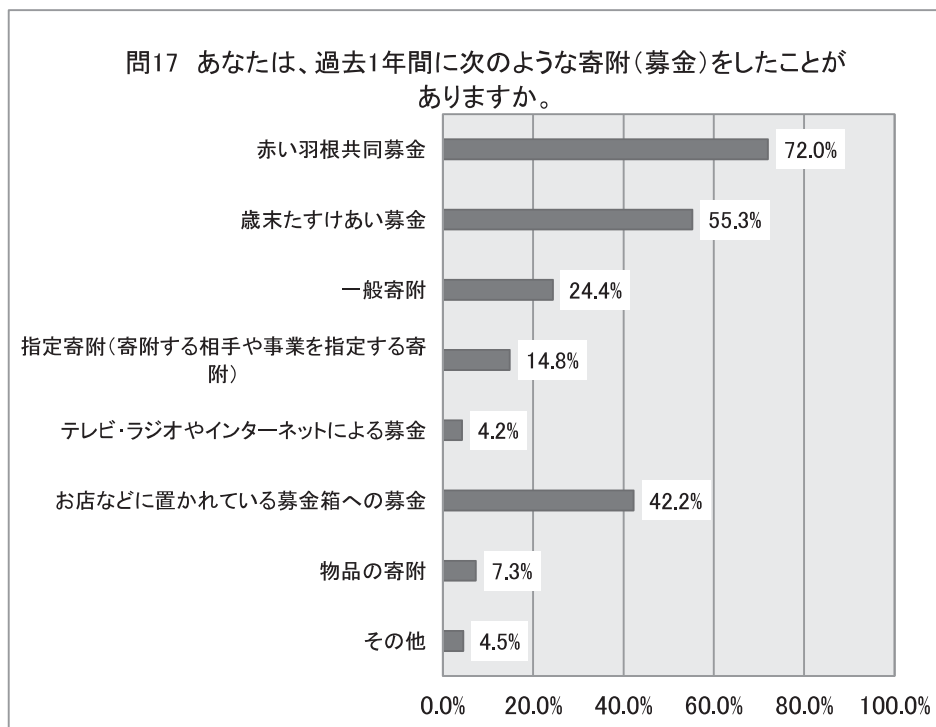
## 16. 今後「福祉員」に期待する役割



・回答者の中で「ひとり暮らし高齢者など支援を必要とする人への声かけや見守り活動」が7割(70.0%)、「福祉に関する情報の提供」が約4割(41.2%)、「ちょっとした困りごとの相談相手」が約3割(32.2%)となりました。多くの回答者が、福祉員の役割として一人暮らし高齢者などへの見守り活動を期待していることがわかります。

・前回2009年調査と比較して大きな変化はありませんでした。

## 17. 過去1年間の寄附(募金)

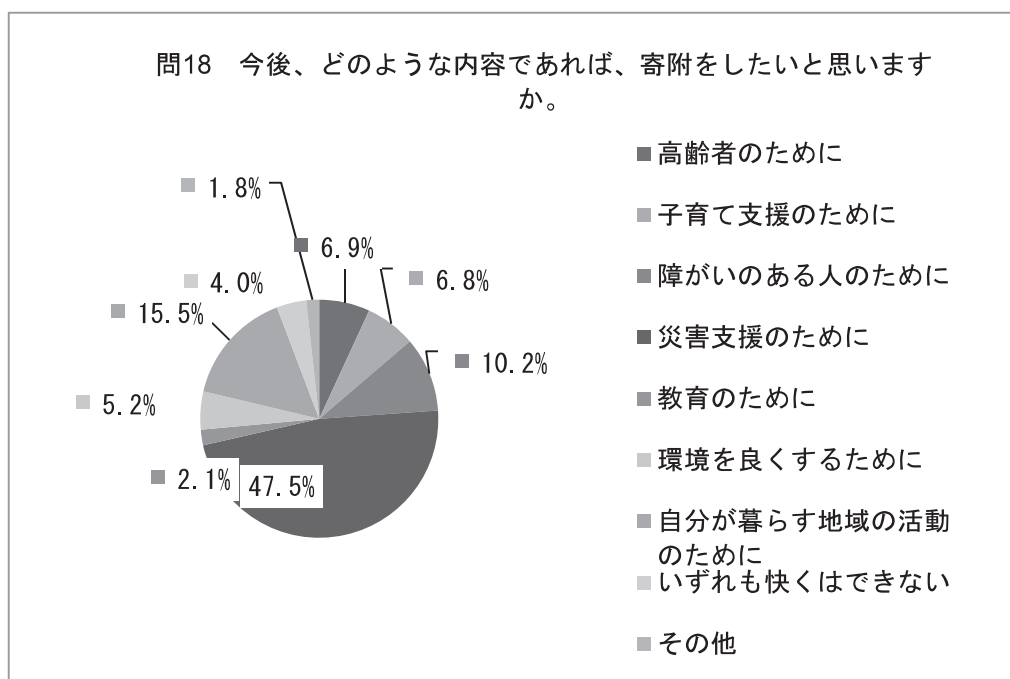


・回答者の中で「赤い羽根共同募金」が約7割（72.0%）、「歳末たすけあい募金」が5割強（55.3%）、「お店などに置かれている募金箱への募金」が約4割（42.2%）となりました。寄附者の多くは「赤い羽根共同募金」や「歳末たすけあい募金」といった共同募金へ寄附をしていることがわかります。

・質問項目に変更があるため一概には言えませんが、前回2009年調査と比較したところ、「赤い羽根共同募金」（77.5%→72.0%）や「歳末たすけあい募金」（60.6%→55.3%）がやや減少し、「お店などに置かれている募金箱への募金」（34.8%→42.2%）が増加しています。

・寄附者の多くは共同募金へ寄附をしていますが、2009年調査と比較し共同募金への寄附の割合はやや低下し、お店等の募金箱への寄附が増加しています。お店等の募金箱への寄附は、東日本大震災の支援寄附と考えられます。震災関連への寄附が、共同募金などその他への寄附に影響をしていることがうかがえます。

## 18. 今後寄附したい内容



・回答者の中で「災害支援のために」が5割弱（47.5%）、「自分が暮らす地域の活動のために」が1割強（15.5%）、「障がいのある人のために」が約1割（10.2%）となりました。東日本大震災や県内での豪雨水害などもあり、災害支援のために寄附をしたいという回答が多くなりました。

・前回2009年調査と比較し、「災害支援のために」が大きく増加しています（28.0%→47.5%）。一方、「自分が暮らす地域の活動のために」がやや低下しています（18.9%→13.5%）。

・年齢階層別にみると、「災害支援のために」は壮年層（48.8%）と高齢層（47.7%）において高く、青年層においてやや低くなっています（42.5%）。「自分が暮らす地域の活動のために」も壮年層（13.9%）

と高齢層（19.0%）において高く、青年層において低くなっています（9.4%）。一方、「子育て支援のために」は青年層において高く（21.7%）、壮年層（5.4%）と高齢層（4.4%）において低くなっています。

・問 17 では震災関連への寄附が増加した様子がうかがえましたが、今後寄附を希望する内容としても、震災関連の寄附への関心が高まっていることがわかります。

年齢階層 と 今後寄附したい内容 のクロス表

		今後寄附したい内容										
		高齢者のため に	子育て支援の ために	障がいのある 人のために	災害支援の ために	教育のために	環境をよくす るために	自分が暮らす 地域の活動の ために	いずれも快く はできない	その他	合計	
年齢 階層	20～39歳	度数	5	46	19	90	4	11	20	11	6	212
		年齢階層 の %	2.4%	21.7%	9.0%	42.5%	1.9%	5.2%	9.4%	5.2%	2.8%	100.0%
	40～64歳	度数	38	39	83	350	18	43	93	35	18	717
		年齢階層 の %	5.3%	5.4%	11.6%	48.8%	2.5%	6.0%	13.0%	4.9%	2.5%	100.0%
	65歳以上	度数	81	38	81	414	16	39	165	26	8	868
		年齢階層 の %	9.3%	4.4%	9.3%	47.7%	1.8%	4.5%	19.0%	3.0%	.9%	100.0%
合計		度数	124	123	183	854	38	93	278	72	32	1797
		年齢階層 の %	6.9%	6.8%	10.2%	47.5%	2.1%	5.2%	15.5%	4.0%	1.8%	100.0%

p<.01

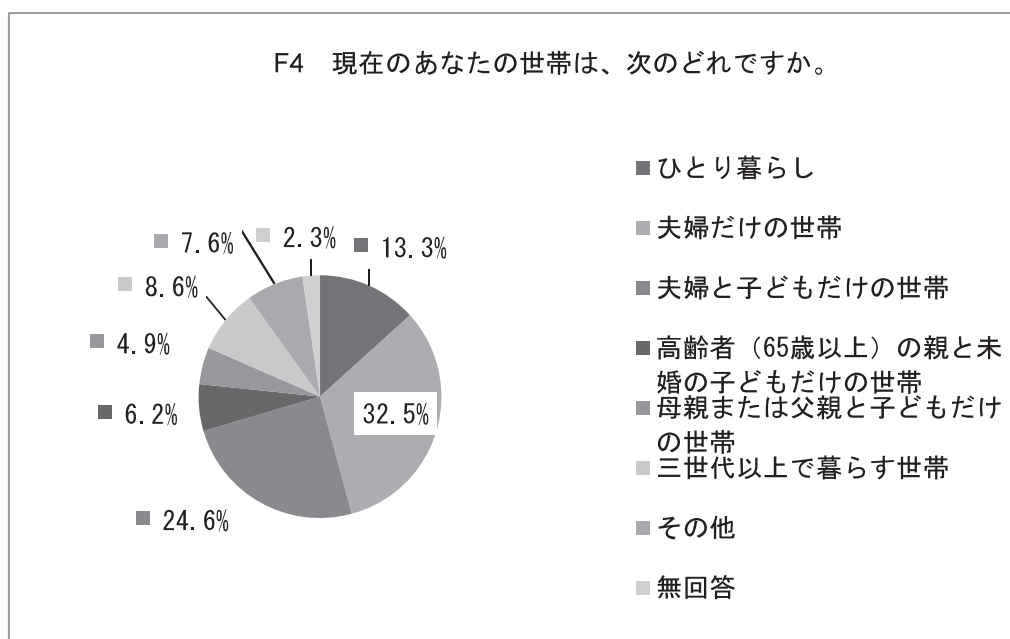
## 属性

現在の居住地は、「下関市」(18.5%)、「山口市」(13.7%)、「宇部市」(11.7%) などとなりました。

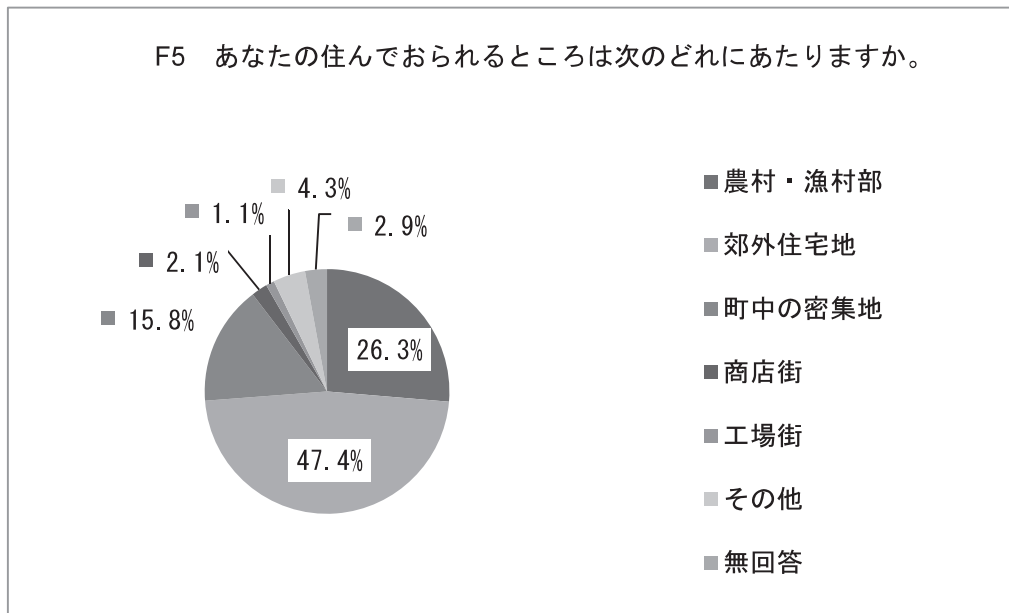
F3 あなたが現在お住まいの地域はどこですか。

		度数	比率
1	下関市	383	18.5%
2	宇部市	242	11.7%
3	山口市	283	13.7%
4	萩市	66	3.2%
5	防府市	172	8.3%
6	下松市	80	3.9%
7	岩国市	177	8.6%
8	光市	74	3.6%
9	長門市	67	3.2%
10	柳井市	42	2.0%
11	美祢市	51	2.5%
12	周南市	215	10.4%
13	山陽小野田市	87	4.2%
14	周防大島町	29	1.4%
15	和木町	3	0.1%
16	上関町	2	0.1%
17	田布施町	22	1.1%
18	平生町	23	1.1%
19	阿武町	5	0.2%
99	無回答	43	2.1%
	合計	2066	100.0%

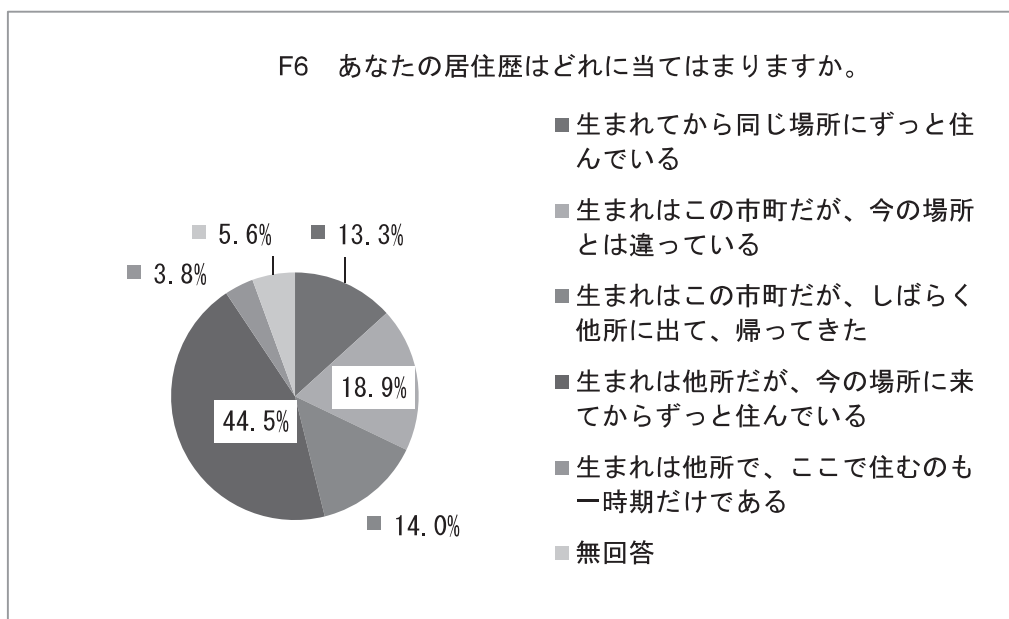
世帯構成は、「夫婦だけの世帯」(32.5%)の割合が最も多く、次いで「夫婦と子どもだけの世帯」(24.6%)、「ひとり暮らし世帯」(13.3%)、「三世代以上で暮らす世帯」(8.6%) となりました。



現在の居住地の状況は、「郊外の住宅地」(47.4%)、「農村・漁村部」(26.3%)、「町内の密集地」(15.8%)等の順となりました。

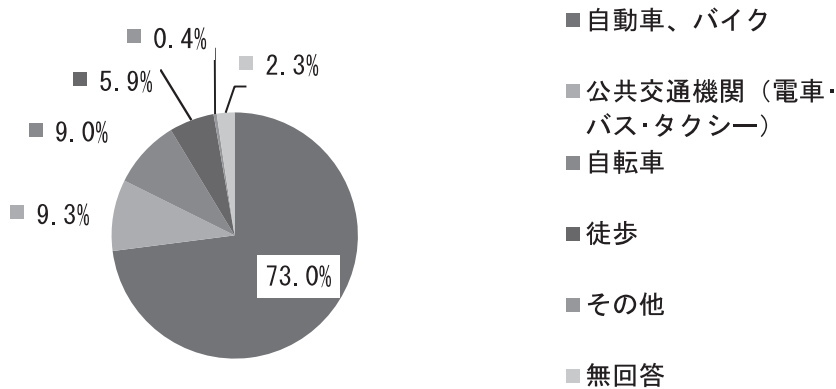


居住歴は、「生まれは他所だが、今の場所に来てからずっと住んでいる」(44.5%)の割合が最も多く、次いで「生まれはこの市町だが、今の場所とは違っている」(18.9%)となりました。



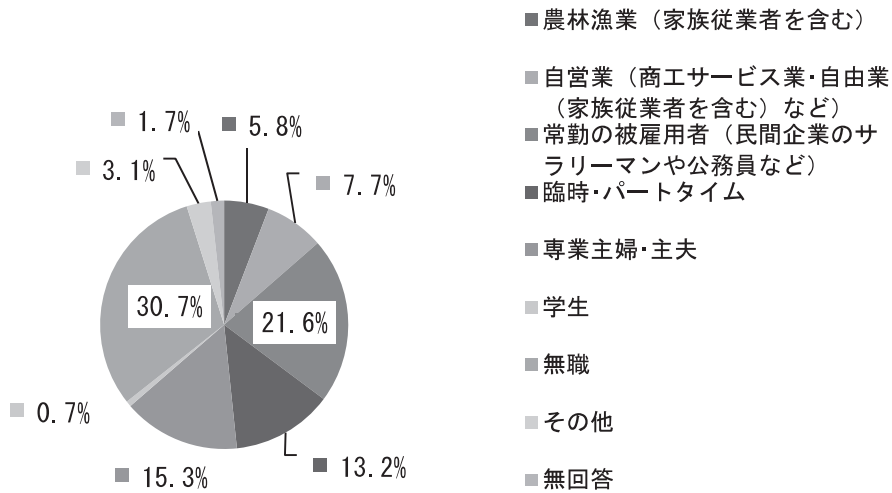
主な移動手段は「自動車、バイク」(73.0%)が最も多く、次いで「公共交通機関」(9.3%)、「自転車」(9.0%)となりました。

F7 あなたの主な移動手段は何ですか。



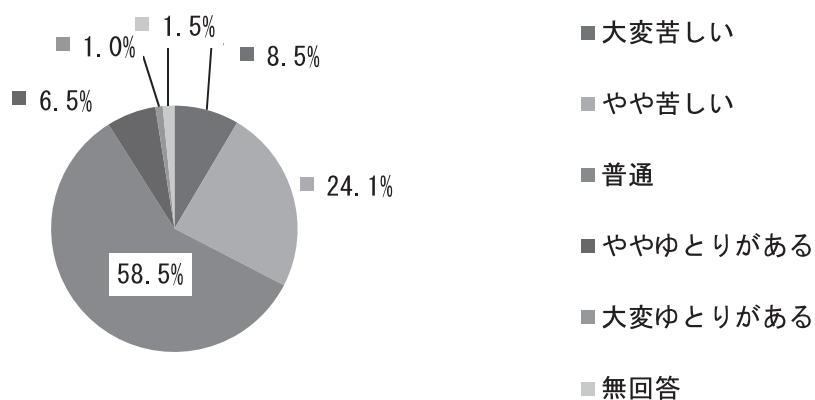
現在のお仕事は、「無職」（30.7%）が最も多く、次いで「常勤の被雇用者（民間企業のサラリーマンや公務員など）」（21.6%）、「専業主婦・主夫」（15.3%）、「臨時・パートタイム」（13.2%）となりました。

F8 あなたの現在のお仕事は次のどれですか。



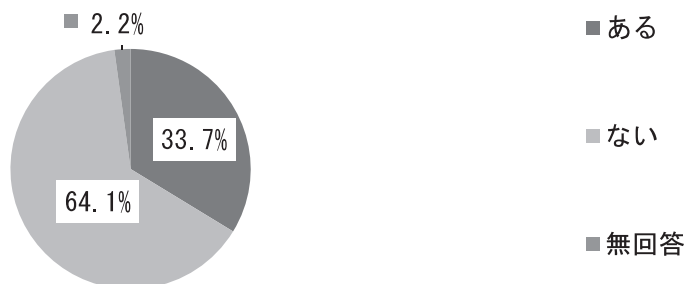
現在の経済的な暮らし向きは、「普通」（58.5%）の割合が最も高く、次いで「やや苦しい」（24.1%）となりました。

F9 あなたの現在の暮らし状況を総合的に見てどう感じていますか。



地域活動の経験は、「ない」(64.1%)、「ある」(33.7%)で活動経験のない者の割合が高くなりました。

F10 あなたはこれまで地域福祉活動の経験（民生委員・児童委員、福祉員、ボランティア、婦人会、老人クラブなど）がありますか。



## 4 県民福祉意識の現状について（調査結果のまとめ）

九州大学大学院人間環境学研究院 准教授 高野和良

山口県の人口構造の特徴としては、高齢化の進行が広く指摘されています。確かに、将来推計によれば、2025年の山口県の高齢化率は35.4%（全国8位）に達し、全国的にみて高齢化率は決して低くはありません。また、2010年を100とした人口指数は2025年で87.9となり、全国で11位に位置するとされています。（国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口 平成25年3月推計』）。これらの数値をみれば、高齢化と人口減少が同時に進行しているのが山口県のひとつの姿であることは間違いないようです。しかし、高齢化率は人口構成のバランスを示しているに過ぎず、高齢化率が高いことは直接的に人々の暮らしの実態を示すものではありません。数値に目を奪われることは実態を見えにくくする恐れすらあるように思います。

これに対して、山口県の置かれている状況として注意すべき点は、世帯の極小化の進行です。世帯に占める高齢一人暮らし世帯（一般世帯総数に占める高齢単独世帯）の割合は、すでに2005年の時点で11.2%に達し、全国3位に位置していましたが、2025年の将来推計ではその割合は18.0%で全国5位に達します（国立社会保障・人口問題研究所『日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）平成21年12月推計』）。生活の基本的な単位である世帯が極小化し、とりわけ高齢層で一人暮らし、夫婦のみ世帯が増加しているなかで、どのような暮らしの仕組みを作っていくのかが問われていますが、そのためには、まず、地域社会における関係性を維持していくことが必要であると考えられます。

今回の調査結果をみると、近所づきあいの状況などは、前回2009年調査と比較しても比較的維持されており、近所づきあいの必要性についても9割近い人々が支持していました。また、近所づきあいを維持し、活発にするために必要なこととして、自ら進んで自発的に関係を保つこと、自治会・町内会の行事等に参加すること、近所づきあいに関して相談できる人がいることなどを挙げて確認したところ、いずれの項目についても必要性を感じている人（肯定層）の割合が増加しています。なかでも、相談については9割を超える人が必要性を認めていました。近所づきあいが必要であることは分かっているにもかかわらず、実際に様々な問題が起こったときにどのように対処すればよいか分からないといった戸惑いが示されていると思われます。また、お互いにつながりを作るきっかけともなる地域での活動への参加は、現在活動している者の割合は3割程度であり、経験者を含めても6割程度となりました。2009年調査と比較しても大きな変化はありませんでしたが、青年層では不参加層の割合が高い結果となりました。活動参加の理由は、地域社会への貢献がもっとも大きな支持を集めています。また、不参加の理由として、時間的な余裕がないことは青年層、壮年層に多く、活動内容や方法が分からないということも青年層で多くなりました。また、健康や体力面での不安は高齢層で多くなっています。そもそも参加する意欲がない者は、年齢階層による大きな相違はなくすべての年齢階層で1割強に支持されていました。いずれにせよ、参加を阻む要因には年齢階層による相違があり、これをふまえた対応が求められています。また、2009年調査と比較して、地域活動への参加意欲を持つ者の割合

は減少している点にも注意が必要です（肯定層の割合 2009 年 49.1% → 2013 年 38.1%）。

地域で支え合うために必要な条件としては「仲間・つながり」（38.6%）、「活動をすすめるリーダー」（18.5%）、「活動をすすめる組織」（18.5%）などが求められていました。活動を共にする仲間の存在と、活動の拠点が必要とされているようです。

地域社会に対する意識としては、地域に対する愛着は強く、住み心地も良いと思い、住み続けたいという永住意思も高いこと、また、居住する地域のために何か役に立ちたいと思う人も少なくないにもかかわらず、生活の場として良くなっていくとはあまり考えておらず、将来展望はあまり明るいものではありませんでした。また、介護が必要になっても自宅で暮らしていきたいという、在宅志向も過半数を超えて支持されていました。また、支援を必要とする人に対して自分自身で取り組めることとして、「声かけや見守り」活動が広く支持を集めました（50.1%）。

こうした実態をうけて、地域福祉を支える社会福祉協議会の認知度を確認すると、名前や活動内容を理解しているとする人の割合は、2割強（25.3%）に留まりました。名前を聞いたことがある程度の人には6割強（63.3%）で、2009年調査と比較しても大きな変化はありませんでした。また、社会福祉協議会の活動への印象としては、高齢者をはじめとする要支援者に対する見守り活動を行うこと、募金や寄附を募ること、困りごとの相談を受けること、といった印象を持つ人の割合が相対的に高くなりました。しかし、見守り活動に4割弱（36.5%）と集中している一方で、それ以外の活動についてはそう大きな割合ではありませんでした。このことは、社会福祉協議会が様々な活動を行っている結果というよりも、活動についての印象が拡散している結果であるともいえます。また、市町社会福祉協議会に対しては、福祉サービスの提供（介護保険サービス、金銭管理、移送サービス、買い物支援、福祉サービス利用支援など）、相談支援、福祉情報の提供といった個別のニーズに対応する活動が主な役割として期待されており、住民の福祉意識の醸成、ボランティア活動の推進や支援、見守り活動による住民への働きかけといったいわばコミュニティソーシャルワーク的な活動への期待はどちらかといえば低い支持に留まっています。社会福祉協議会がもっとも得意とするはずのこうした活動への期待が低いことの意味は、注意深く検討する必要があると思われます。

社会福祉協議会の活動において福祉員は大きな役割を果たしていますが、その認知度は決して高くはなく、2009年度調査よりはやや上昇していますが、2割弱（名前も活動内容もよく知っている → 19.3%）に留まっています。福祉員からは、地域社会で活動が理解されず、活動しづらいという声があがっていますが、福祉員に対する認知度を高め、活動への理解が得られるように、社会福祉協議会として一層の取り組みが求められているといえます。

寄附は、ボランティア活動のひとつの姿として注目されています。また、共同募金は、地域福祉活動を支える重要な財源であることは、いうまでもありません。しかし、近年、共同募金額は山口県でも減少傾向にあります。調査結果をみると、2009年調査と比較して募金経験を持つ人の割合は、共同募金などではやや減少し、店頭などの募金箱への募金が増加していました。募金箱募金の増加は、県内での豪雨災害、東日本大震災への支援募金によるものと思われます。また、寄附を行った人の割合は壮年層および高齢層において

高くなりましたが、寄附への関心を高め、実際の寄附行動につなぐためには、寄附者の特徴を捉え、働きかけていくことが必要です。そのため、本報告書では、寄附に関する分析を別項で行っています。

山口県民は地域社会に対する愛着や関心を持ち、地域社会への貢献意欲も多くの人々が意識していましたが、こうした貢献したいという意識を実際の行動につなげていくことは、容易ではないことも認めなくてはなりません。例えば、何かに取り組みたいという時に、活動の機会を提供することができるように、あらためて住民をはじめ様々な地域組織・集団、社会福祉協議会、施設（社会福祉法人）、そして行政が、それぞれの特色を生かしつつ、様々な地域福祉の取り組みを展開することが求められています。

## 5 調査結果から ～山口県における寄附の実態～

九州大学大学院人間環境学府 吉武由彩

### 1 はじめに

寄附をめぐっては、2010年12月の「タイガーマスク運動」や2011年3月の東日本大震災など、近年多くの人々の関心を集めるようになったと言えます。東日本大震災を受け、震災後半年以内に3,889億円もの寄附金があったと推計され（日本ファンドレイジング協会 2012）、2011年は「寄附元年」とも呼ばれました。

このように寄附は近年注目されるようになったと言えますが、寄附額はどのように推移してきたのでしょうか。日本において多くの人々が行っている寄附には赤い羽根共同募金や歳末たすけあい募金といった共同募金があり、今回2013年に行った調査でも、過去1年間に寄附をした人の割合が高い順に、赤い羽根共同募金7割超(72.0%)、歳末たすけあい募金5割強(55.3%)となっています(問17)。そこで、日本における寄附額の推移として、共同募金の募金額(赤い羽根共同募金と歳末たすけあい募金の合計額)の推移を確認します。全国における共同募金の募金額は、1995年にはピークを迎え約266億円(26,579,351,000円)もの寄附が寄せられていましたが、その後減少が続き、2012年には約191億円(19,098,690,000円)まで減少しています(中央共同募金会 2013)。山口県における共同募金の募金額についても、全国同様減少を続け、1996年には5億円を超える寄附(506,055,882円)がありましたが、2012年には約3億8千万円(379,718,364円)となっています。このことから、東日本大震災などの震災時には多額の寄附がなされるものの、寄附額の推移を確認すると、寄附は減少傾向にあることがわかります。

減少傾向にある寄附について、どのような人々によって担われているのかその実態を確認する必要があると言えるでしょう。しかし、寄附については、経済学分野において寄附税制の効果測定の分析などが行われることはあるものの、日本における寄附の実態を検討した論考は多くはない状況です。社会学の分野においては、寄附研究はボランティア研究の一部として存在してきましたが、その経緯を踏まえここではボランティア研究について簡単に整理します。

ボランティア活動の階層性という議論に、Kパターンがあります(鈴木 1987)。これは、ボランティア的行動も社会活動であり、階層性の影響が存在するということを明らかにしたもので、具体的には、社会階層(帰属意識、年収、学歴)とボランティア的行動の関係には、階層の上と下でボランティア参加率が高く、中央で低いKパターンが現れるというものです。

また、福祉ボランティアへの参加について地域关系的要因(来住歴、居住形態、団体参加数)、階層的要因(学歴、収入)、認知的要因(要介護者・福祉関係者の存在)の3つの要因から分析が行われています(稲月 1994)。その結果、女性、55歳以上、定住層、持家、団体参加数が多い、一般・地域ボランティア参加数が多い、高学歴、

低収入または高収入、要介護者・福祉関係者あり、の場合ほど福祉ボランティアに積極的になることが示されています。

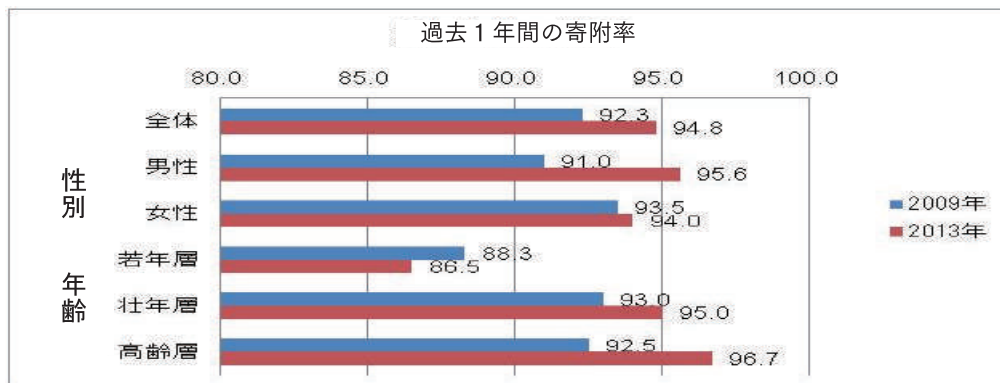
寄附をめぐる研究がそう多くはない中、東日本大震災や県内の大きな自然災害の前である2009年と、その後の2013年に寄附に関する質問項目を含む調査を行った本データは、貴重なデータであると言えます。次章以降では、山口県における寄附の実態について、2009年調査と2013年調査から考えます。

## 2 寄附者とはどのような人々か

### (1) 性別および年齢階層別の寄附率

寄附に関する質問項目の1つに、問17「あなたは、過去1年間に次のような寄附(募金)をしたことがありますか」があります。問17では、選択肢として「赤い羽根共同募金」など2013年調査では8項目(2009年調査では9項目)があげられています。いずれか1つでも○をつけた人々を過去1年間に寄附をした人々であるとする、寄附率は2009年調査と比べ2013年調査ではやや増加しています(92.3%→94.8%)。ただし、どちらの調査年時においても寄附率は9割を超え大多数を占めます。

次に性別では、2009年調査では女性の方が寄附をしていましたが、2013年調査では男性の方が寄附をしています。年齢階層別では、2009年調査と比べ2013年調査では、若年層の寄附者が減少し、壮年層と高齢層では寄附者が増加しています。平時から壮年層や高齢層の方が寄附を行っていますが(2009年調査)、東日本大震災や県内の自然災害によって増加した寄附者層も、壮年層や高齢層であることがうかがえます。ここまでの議論を整理すると、近年増加した寄附者層とは、壮年層や高齢層の男性であることがうかがえます。

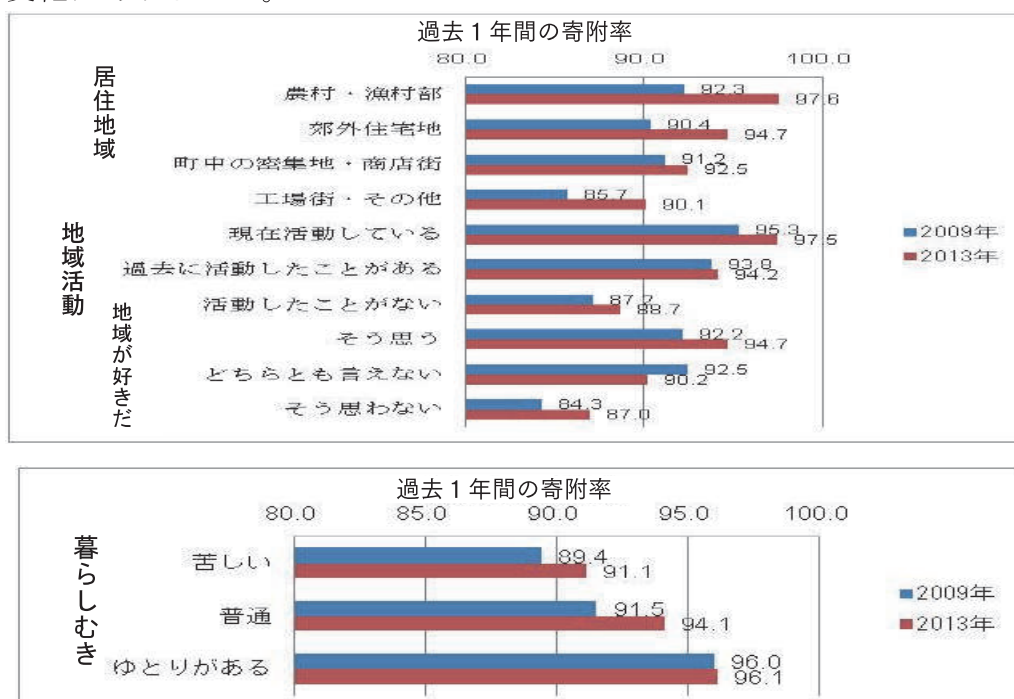


### (2) 地域的要因および階層的要因と寄附率

ボランティア活動の研究では、地域活動に関わっている場合や定住層の場合ほど、ボランティア活動を行うとされていますが、寄附についても同様のことが言えるのか確かめます。その際、地域関係の変数として、「居住地域」、「地域活動の参加状況」、「地域への愛着意識」の3つの変数の寄附率への影響をみてみます。まず、居住地域別では、「農村・漁村部」において寄附率が最も高くなっています。地域活動の参加状況別では、地域活動に参加をしているほど寄附率が高くなっています。地域への愛

着意識別では、地域への愛着が高い場合に、寄附率が高くなっています。寄附においてもボランティア活動同様に、地域とのつながりが深い場合に寄附をしていることがうかがえます。なお、3つの変数（「居住地域」、「地域活動の参加状況」、「地域への愛着意識」）すべてにおいて、2009年調査と比べ2013年調査では寄附率が上昇しています。

もう1つボランティア活動の研究において指摘されるのは階層の影響です。ボランティア的行動は、階層の上と下で多いと指摘されていますが、寄附の場合について確認します。2009年、2013年ともに暮らしむきに余裕がある人の方が寄附をしていることがわかります。寄附とボランティア活動では事情が異なるようです。加えて、2009年と比較し2013年ではより寄附率が低かった暮らしむきが「苦しい」および「普通」の層では寄附率が増大していますが、もともと高かった「ゆとりがある」層では大きな変化はありません。



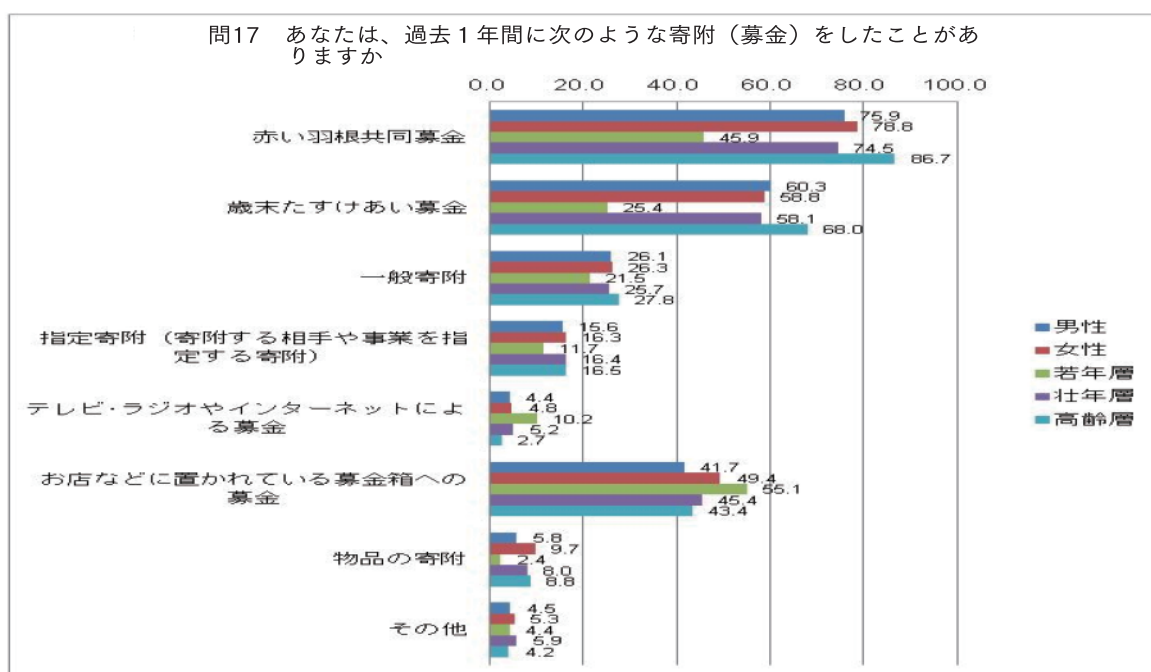
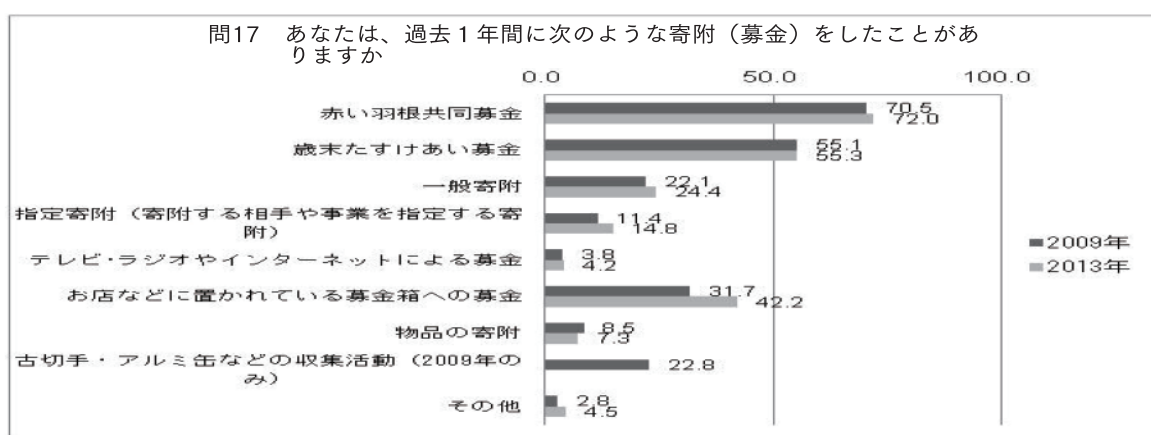
### 3 寄附方法別による寄附の担い手

#### (1) 性別および年齢階層別の寄附方法

ここでは、寄附方法別に、どのような人々がそれぞれの寄附をしているのか確認します。本報告書でも指摘してきましたが、2009年と2013年に共通する傾向として、回答は多い順に「赤い羽根共同募金」が約7割、「歳末たすけあい募金」が5割強、「お店などに置かれている募金箱への募金」が約3～4割となります。質問項目に変更があるため一概には言えませんが、寄附としては共同募金の寄附とお店等の募金箱に入れる釣銭型の寄附の大きく2つがあることがわかります。ただし、2013年調査では「お店などに置かれている募金箱への募金」は大きく増加していますが(31.7%→42.2%)、これは、東日本大震災の支援寄附と考えられます。

次に性別では、「お店などに置かれている募金箱への募金」は、女性においてなき

れていることがわかります。それ以外の項目では、性別での大きな差は見られません。年齢階層別では、「赤い羽根共同募金」と「歳末たすけあい募金」は壮年層および高齢層においてさかんな一方、「お店などに置かれている募金箱への募金」は若年層において最もなされています。寄附方法別によって、寄附者の性格が大きく異なることがわかります。「赤い羽根共同募金」は町内会自治会を通したお付き合いでの寄附という傾向が強く、「お店などに置かれている募金箱への募金」は地域等を介することの少ない釣銭型の寄附と考えることができます。「赤い羽根共同募金」が壮年層、高齢層において高いのは、この層が地域とのつながりが強いからだと考えられます。一方、地域とのつながりがあまり強くない若年層においては、「赤い羽根共同募金」は低いものの、代わりに脱地域的な釣銭型の寄附が多く見られます。



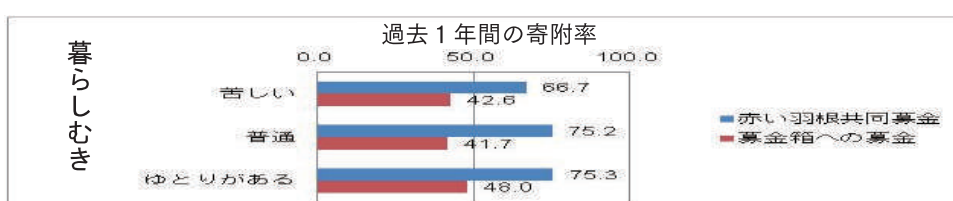
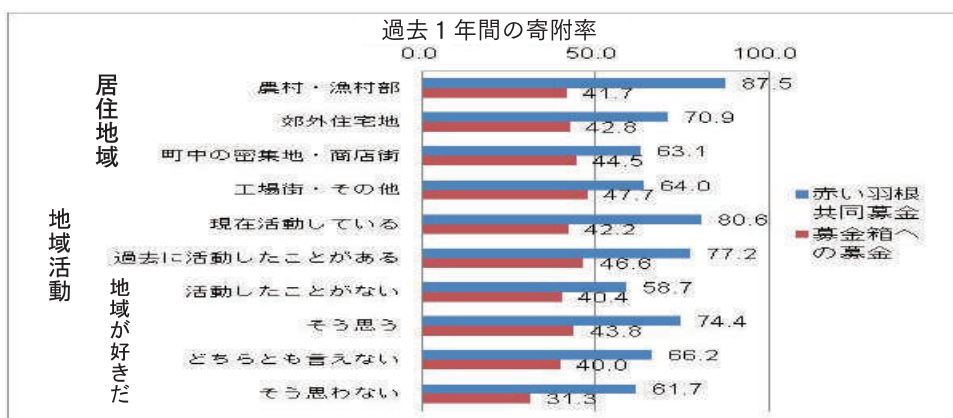
(2) 「赤い羽根共同募金」と「お店などに置かれている募金箱への募金」（地域的要因および階層的要因）

次に、寄附 8 項目の中でも、「赤い羽根共同募金」と「お店などに置かれている募

金箱への募金」を取り上げ、さらに詳しくみていきます。この2つを取り上げるのは、これまで確認してきたように、この2つは人々の主な寄附先ではあるものの、その担い手が異なるからです。

既存の研究では地域活動に関わっている場合ほどボランティア活動をすると言われていますが、寄附についても同様のことが言えるのか、地域に関する変数の影響を確かめます。「赤い羽根共同募金」では、居住地域によって寄附率が大きく異なり、「農村・漁村部」では9割弱（87.5%）、「郊外住宅地」では約7割（70.9%）となっています。一方、「お店などに置かれている募金箱への募金」では、「郊外住宅地」において寄附率が最も高く（47.7%）、「農村・漁村部」において最も低くなっています（41.7%）。地域活動については、「赤い羽根共同募金」では、地域活動をしている場合ほど寄附率が高くなっています。しかしながら、「お店などに置かれている募金箱への募金」では、「過去に活動したことがある」場合に最も寄附率が高くなっています。地域への愛着意識については、「赤い羽根共同募金」、「お店などに置かれている募金箱への募金」ともに、愛着が高いほど寄附率が高くなっています。全体として、地域的な寄附である「赤い羽根共同募金」の方が、地域的な変数の影響がより明確に見られます。

もう1つボランティア活動の研究において指摘されるのは階層の影響ですが、寄附の場合について確認します。「赤い羽根共同募金」では、暮らしむきが「苦しい」場合は寄附率が低くなっています。「お店などに置かれている募金箱への募金」では、「ゆとりがある」場合、寄附率が高くなっています。つまり、暮らしむきが「普通」の人々は、「赤い羽根共同募金」はするけれども、「お店などに置かれている募金箱への募金」はあまりしないということがわかります。「赤い羽根共同募金」の場合、地域のお付き合いとして、暮らしむきが「苦しく」ない場合はするけれども、より自発的な寄附である「お店などに置かれている募金箱への募金」については、暮らしむきにゆとりがないため、あまりしないということがうかがえます。



最後に、「赤い羽根共同募金」と「お店などに置かれている募金箱への募金」について、どの程度2つの寄附者が重なっているのかを確認します。その結果、「赤い羽根共同募金」へ寄附をしている人ほど、「お店などに置かれている募金箱への募金」もする傾向にありました。しかしながら、片方の寄附をしていないがもう片方の寄附をするという人々も一定数いて、2つの重なりは大きくはありません。

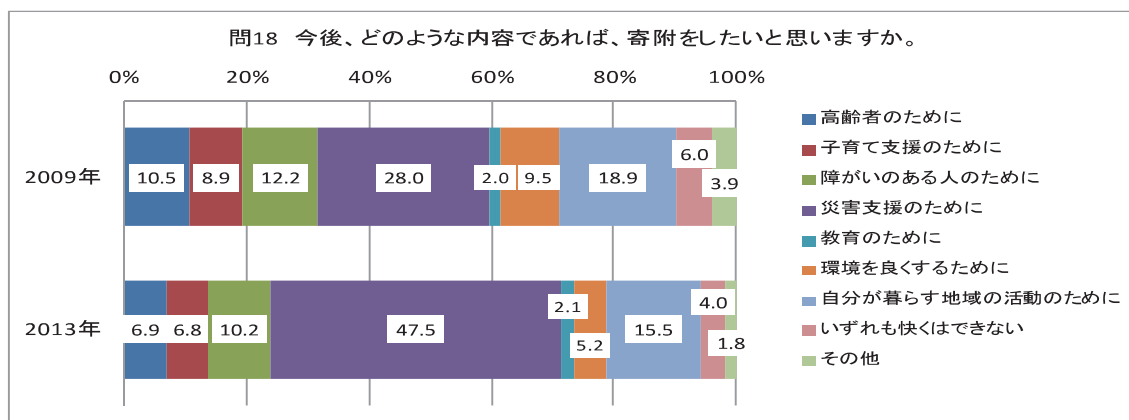
		募金箱への募金		
		無	有	合計
赤い羽根共同募金	無	度数 379	200	579
		赤い羽根共同募金 の % 65.5%	34.5%	100.0%
有	有	度数 815	672	1487
		赤い羽根共同募金 の % 54.8%	45.2%	100.0%
合計		度数 1194	872	2066
		赤い羽根共同募金 の % 57.8%	42.2%	100.0%

p<.01

#### 4 今後寄附したい分野

##### (1) 性別および年齢階層別の今後寄附したい分野

もう1つの寄附に関する質問項目に、問18「今後、どのような内容であれば、寄附をしたいと思いますか」があります。次に、問18を利用して分析を行います。まず、本報告書において指摘してきたように、2009年調査と比較し、2013年調査では「災害支援のために」が大きく増加しています(28.0%→47.5%)。一方、「自分が暮らす地域の活動のために」がやや低下しています(18.9%→13.5%)。2013年調査において災害分野への関心が増大したことには、東日本大震災の影響や、調査実施直前の2013年7月の萩地域での豪雨災害の影響があると考えられます。ただし、「災害支援のために」という文言からのみでは、それが自分の地域への災害支援や予防のための寄附を意味するのか、東日本大震災を受けて東北地方への寄附を意味するのかを読み取ることは困難であるという限界も存在します。



次に、すでに提示しているため年齢階層別のクロス集計表は省略しますが、性別、年齢階層別の傾向について簡単に確認します。性別では、2009年調査および2013年調査ともに、災害分野への寄附は女性において希望する割合が高いことがわかります。一方男性は、「自分が暮らす地域の活動のために」が高くなっています。しかし、2013

年調査では災害分野への寄附希望は男性、女性ともに高まっています。

年齢階層別では、すべての年代において災害分野の寄附の希望が高まっています。ただし、2009年調査と2013年調査ともに、高齢層では「高齢者のために」、若年層では「子育て支援のために」など、身近な分野への寄附も望まれています。また、「自分が暮らす地域の活動のために」は高齢層において高くなっています。ボランティア活動に関する研究では、障がい者対象のボランティア活動と高齢者対象のボランティア活動は、前者が脱地域的、後者が地域的であり、対照的であるとされます（鈴木1989）。そして、担い手であるボランティアは、前者は後者と比べ20歳代や30歳代が多いと言われます。しかし、今回の調査では、「障がいがある人のために」について、特に若年層が多いという結果は見られませんでした。ボランティア活動と寄附では異なるということがうかがえます。ただし、災害分野への寄附が集中したことも影響を与えているのかもしれませんが。

## 2009年調査

性別		今後寄附したい分野									合計
		高齢者のために	子育て支援のために	障がいのある人のために	災害支援のために	教育のために	環境をよくするために	自分が暮らす地域の活動のために	いずれも快くはできない	その他	
男性	度数	94	76	127	205	18	75	193	54	30	872
	性別の%	10.8%	8.7%	14.6%	23.5%	2.1%	8.6%	22.1%	6.2%	3.4%	100.0%
女性	度数	96	84	92	301	18	96	148	55	41	931
	性別の%	10.3%	9.0%	9.9%	32.3%	1.9%	10.3%	15.9%	5.9%	4.4%	100.0%
合計	度数	190	160	219	506	36	171	341	109	71	1803
	性別の%	10.5%	8.9%	12.1%	28.1%	2.0%	9.5%	18.9%	6.0%	3.9%	100.0%

p<.01

## 2013年調査

性別		今後寄附したい分野									合計
		高齢者のために	子育て支援のために	障がいのある人のために	災害支援のために	教育のために	環境をよくするために	自分が暮らす地域の活動のために	いずれも快くはできない	その他	
男性	度数	67	61	100	364	20	40	143	43	19	857
	性別の%	7.8%	7.1%	11.7%	42.5%	2.3%	4.7%	16.7%	5.0%	2.2%	100.0%
女性	度数	52	58	82	484	18	52	132	29	13	920
	性別の%	5.7%	6.3%	8.9%	52.6%	2.0%	5.7%	14.3%	3.2%	1.4%	100.0%
合計	度数	119	119	182	848	38	92	275	72	32	1777
	性別の%	6.7%	6.7%	10.2%	47.7%	2.1%	5.2%	15.5%	4.1%	1.8%	100.0%

p<.01

## (2) 地域的要因および階層的要因と今後寄附したい分野

次に、地域関係の変数と今後寄附したい分野との関係を2013年調査の結果からみてみます。居住地域別では、どの地域においても「災害支援のために」が最も多く4割強を占める点は一致しています。しかし、細かくみると、「農村・漁村部」では「自分が暮らす地域の活動のために」や「高齢者のために」がやや多くなっています。「郊外住宅地」では、「災害支援のために」が多く、「工場街・その他」では「障がいがある人のために」が多くなっています。

地域活動の参加状況別では、地域活動をしている人ほど、「自分が暮らす地域の活動のために」と回答する割合が高くなっています。地域への愛着意識別では、地域への愛着が高い人では「自分が暮らす地域の活動のために」が高い一方、愛着が低い人

では、「高齢者のために」や「障がいがある人のために」が高くなっています。

次に、階層の影響です。「災害支援のために」は、暮らしむきにゆとりがある人々ほど寄附をしたいと考えています。一方、暮らしむきが苦しい人々では、「障がいがある人のために」がより希望されています。暮らしむきが「普通」という人々では、「自分が暮らす地域の活動のために」がより希望されています。暮らしむきによって、希望する寄附分野が異なることがわかります。

居住地域 と 今後寄附したい分野 のクロス表

居住地域		度数	今後寄附したい分野								合計
			高齢者のために	子育て支援のために	障がいのある人のために	災害支援のために	教育のために	環境をよくするために	自分が暮らす地域の活動のために	いずれも快くはできない	
農村・漁村部	度数	40	25	42	210	14	21	108	11	7	478
	居住地域の %	8.4%	5.2%	8.8%	43.9%	2.9%	4.4%	22.6%	2.3%	1.5%	100.0%
郊外住宅地	度数	52	62	87	435	15	53	114	39	16	873
	居住地域の %	6.0%	7.1%	10.0%	49.8%	1.7%	6.1%	13.1%	4.5%	1.8%	100.0%
町中の密集地・商店街	度数	26	30	39	154	6	18	41	15	4	333
	居住地域の %	7.8%	9.0%	11.7%	46.2%	1.8%	5.4%	12.3%	4.5%	1.2%	100.0%
工場街・その他	度数	5	5	15	47	2	0	14	7	4	99
	居住地域の %	5.1%	5.1%	15.2%	47.5%	2.0%	0.0%	14.1%	7.1%	4.0%	100.0%
合計	度数	123	122	183	846	37	92	277	72	31	1783
	居住地域の %	6.9%	6.8%	10.3%	47.4%	2.1%	5.2%	15.5%	4.0%	1.7%	100.0%

p<.01

地域活動 と 今後寄附したい分野 のクロス表

地域活動		度数	今後寄附したい分野								合計
			高齢者のために	子育て支援のために	障がいのある人のために	災害支援のために	教育のために	環境をよくするために	自分が暮らす地域の活動のために	いずれも快くはできない	
現在活動している	度数	31	44	57	277	19	26	109	12	7	582
	地域活動の %	5.3%	7.6%	9.8%	47.6%	3.3%	4.5%	18.7%	2.1%	1.2%	100.0%
過去に活動したことがある	度数	33	28	57	253	11	28	89	22	13	534
	地域活動の %	6.2%	5.2%	10.7%	47.4%	2.1%	5.2%	16.7%	4.1%	2.4%	100.0%
活動したことがない	度数	46	46	62	283	7	35	65	36	11	591
	地域活動の %	7.8%	7.8%	10.5%	47.9%	1.2%	5.9%	11.0%	6.1%	1.9%	100.0%
合計	度数	110	118	176	813	37	89	263	70	31	1707
	地域活動の %	6.4%	6.9%	10.3%	47.6%	2.2%	5.2%	15.4%	4.1%	1.8%	100.0%

p<.01

いま住んでいる地域が好きだと 今後寄附したい分野 のクロス表

いま住んでいる地域が好きだ		度数	今後寄附したい分野								合計
			高齢者のために	子育て支援のために	障がいのある人のために	災害支援のために	教育のために	環境をよくするために	自分が暮らす地域の活動のために	いずれも快くはできない	
そう思う	度数	50	50	74	333	20	30	136	23	10	726
	地域が好きだの %	6.9%	6.9%	10.2%	45.9%	2.8%	4.1%	18.7%	3.2%	1.4%	100.0%
まあそう思う	度数	31	45	65	338	11	40	95	28	10	663
	地域が好きだの %	4.7%	6.8%	9.8%	51.0%	1.7%	6.0%	14.3%	4.2%	1.5%	100.0%
どちらともいえない	度数	19	20	26	124	4	16	36	13	9	267
	地域が好きだの %	7.1%	7.5%	9.7%	46.4%	1.5%	6.0%	13.5%	4.9%	3.4%	100.0%
あまりそう思わない	度数	9	3	6	35	3	3	6	4	1	70
	地域が好きだの %	12.9%	4.3%	8.6%	50.0%	4.3%	4.3%	8.6%	5.7%	1.4%	100.0%
そう思わない	度数	7	2	7	10	0	3	0	3	2	34
	地域が好きだの %	20.6%	5.9%	20.6%	29.4%	0.0%	8.8%	0.0%	8.8%	5.9%	100.0%
合計	度数	116	120	178	840	38	92	273	71	32	1760
	地域が好きだの %	6.6%	6.8%	10.1%	47.7%	2.2%	5.2%	15.5%	4.0%	1.8%	100.0%

p<.01

暮らしむき と 今後寄附したい分野 のクロス表

暮らしむき		度数	今後寄附したい分野								合計
			高齢者のために	子育て支援のために	障がいのある人のために	災害支援のために	教育のために	環境をよくするために	自分が暮らす地域の活動のために	いずれも快くはできない	
苦しい	度数	49	50	70	250	10	38	78	34	9	588
	暮らしむきの %	8.3%	8.5%	11.9%	42.5%	1.7%	6.5%	13.3%	5.8%	1.5%	100.0%
普通	度数	64	62	99	523	26	53	178	32	21	1058
	暮らしむきの %	6.0%	5.9%	9.4%	49.4%	2.5%	5.0%	16.8%	3.0%	2.0%	100.0%
ゆとりがある	度数	10	10	12	70	2	2	21	5	2	134
	暮らしむきの %	7.5%	7.5%	9.0%	52.2%	1.5%	1.5%	15.7%	3.7%	1.5%	100.0%
合計	度数	123	122	181	843	38	93	277	71	32	1780
	暮らしむきの %	6.9%	6.9%	10.2%	47.4%	2.1%	5.2%	15.6%	4.0%	1.8%	100.0%

p<.05

## 5 おわりに

本稿は、2009年調査と2013年調査の結果から、山口県における寄附の実態を検討してきましたが、主な知見は次の通りです。

- 過去1年間の寄附率は、壮年層および高齢層において高く、東日本大震災後の2013年調査で増加したのもこの層でした。
- 過去1年間の寄附率は、農村・漁村部、地域活動に参加している場合、地域への愛着が高い場合に高くなっています。
- 過去1年間の寄附率は、暮らしむきにゆとりがある場合ほど高くなっています。
- 寄附方法別では、地域的な寄附である「赤い羽根共同募金」は壮年層および高齢層において多い一方、脱地域的な寄附である「お店などに置かれている募金箱への募金」は若年層において多くなっています。
- 寄附方法別では、「赤い羽根共同募金」は、農村・漁村部、地域活動をしている場合、地域への愛着が高い場合、に多くなっています。
- 寄附方法別では、「お店などに置かれている募金箱への募金」は、郊外住宅地、過去に地域活動をしたことがある場合、地域への愛着が高い場合、に多くなっています。
- 寄附方法別では、「赤い羽根共同募金」では、暮らしむきが「苦しい」場合は寄附率が低くなっています。「お店などに置かれている募金箱への募金」では、暮らしむきに「ゆとりがある」場合、寄附率が高くなっています。つまり、暮らしむきが「普通」の人々は、「赤い羽根共同募金」はするけれど、「お店などに置かれている募金箱への募金」はあまりしないことがわかります。
- 2009年と比べ2013年では、「お店などに置かれている募金箱への募金」は大きく増加しています(31.7%→42.2%)。
- 今後寄附したい分野では、2009年調査と比較し2013年調査では、「災害支援のために」が大きく増加しています(28.0%→47.5%)。性別、年齢階層別にみても、すべての層において災害分野への寄附の希望が高まっています。
- 今後寄附したい分野では、年齢階層別では、高齢層では「高齢者のために」、若年層では「子育て支援のために」など、身近な分野への寄附が希望されています。
- 今後寄附したい分野では、「自分が暮らす地域のために」と答える人々は、農村・漁村部、地域活動をしている人、地域への愛着が高い人において多くなっています。

以上の結果について、ボランティア活動に関する既存の研究結果との比較をします。寄附についてもボランティア活動と同様に、壮年層および高齢層、地域活動に参加している人など地域とのかかわりが強い人ほど参加をしています。加えて、寄附方法別にみると、地域的な変数の影響は「赤い羽根共同募金」において高くなっています。最も多くの人々が寄附をするのは「赤い羽根共同募金」ですが、日本における寄附とは「赤い羽根共同募金」に代表されるように、地域的なものに大きく支えられていることがわかります。現代社会においては、地域集団の弱体化が指摘されますが、地域におけるつながりが弱まることは、地域活動やボランティア活動を減少させるだけでなく、寄附も減少させることにつながるということがうかがえます。

寄附は民間福祉財源として重要であるだけでなく、福祉意識の高まった成熟した市民社会を作ることにも貢献すると考えられます。寄附はその手軽さのために、ボランティア活動には踏み出せない人でも寄附には踏み出しやすいと考えられます。「寄附をする人はボランティア活動をする」またはその反対のことが言われるように、寄附をした人は、次にボランティア活動にも一歩を踏み出しやすくなります。その意味では寄附は、親族集団や地域集団などのつながりが弱まった現代社会において、人々の福祉意識の形成のためのきっかけや足がかりとなりえます。

もう1点階層についても、ボランティア活動に関する既存の研究結果と比較すると、ボランティア的行動の場合、階層の上と下でさかんであると指摘されましたが、寄附は暮らしむきに余裕がある人々によって多くなされているものの、暮らしむきが苦しい人々によっても多くなされているという傾向は確認できませんでした。金銭の提供と労働力や時間の提供の違いが出ているのかもしれませんが。その中で、暮らしむきが「普通」の人々はお付き合いとしての「赤い羽根共同募金」はするけれど、より自発的な寄附である「募金箱への募金」はあまりしないというのは興味深い結果であると言えます。

東日本大震災以降、寄附は多くの人々の関心を集めるようになりました。現代社会においては高齢化や世帯の小規模化が進んでいますが、遺贈寄附などの寄附のすそ野も広がっていく可能性があります。そのような中、これまであまり検討されてこなかった寄附について本調査は貴重なデータを提示したと言えるでしょう。

## 6 参考文献

中央共同募金会，2013，「昭和22年度～平成24年度募金実績額の推移（総額）」

（2013年2月28日取得，[http://www.akaihane.or.jp/about/history/pdf/toukei\\_rekinen\\_bokin01\\_131001.pdf](http://www.akaihane.or.jp/about/history/pdf/toukei_rekinen_bokin01_131001.pdf)）

稲月正，1994，「ボランティア構造化の要因分析」『季刊社会保障研究』29(4)：334-347.

日本ファンドレイジング協会，2012，『寄付白書2011』日本経団連出版.

鈴木広，1987，「ボランティア的行為における“K”パターンについて——福祉社会学的例解の素描」『哲学年報』46：13-32.

——，1989，「ボランティア行為の福祉社会学」『広島法学』12(4)：59-87.

### 第3章 これからの地域福祉活動の方針について

#### 方針1 地域福祉活動への参加の機会づくりをすすめる

##### 《現状》

- ・地域に対する愛着や永住意思があり、介護が必要な状態になっても家で暮らしたい、今後も今の地域に住み続けたいと考えている人が多いようです。
- ・そのため、地域で役に立ちたいと考える人が多い状況ですが、地域での活動者の状況をみると、高齢層や、壮年層が多く、青年層においては、現在は地域の活動にあまり参加していないようです。
- ・現在、地域で活動されている高齢層や壮年層が、今後も、現在の活動を続けられるような環境づくりが必要とされています。
- ・青年層には、参加の機会があれば、地域の活動に参加するという意欲が認められるため、地域の活動への参加の機会が必要です。特に、身近な人から誘われれば地域の活動に参加しやすいようです。
- ・また、地域での活動の参加の機会と併せて、地域で支え合うための、仲間・つながり、リーダー、活動を進める組織が、地域に必要とされています。

##### 《これからの地域福祉活動に求められるもの》

○近所づきあいが深い人々は、地域の活動に参加している傾向があることから、青年層においても、近所との接点を持てるように、日頃の声掛けなどから関係をつくり、青年層にも地域での活動に参加してもらうという働きかけをしていく必要があります。

○高齢層は、健康や体力面での不安を抱えているため、継続できるように活動を工夫していく必要があります。

○青年層、壮年層は、共働き世帯も多い中で、時間がないため、休日に比較的短時間ででもできるような活動を増やしていく必要があります。



## 方針2 日頃から顔が見える範囲における 地域での支え合い体制づくりをすすめる

### 《現状》

- ・これまで小地域での福祉活動は地区社会福祉協議会が中心となって進めてきており、一定の成果は上げていますが、市町村合併により、市町の範囲が広がったこともあって、自治会・町内会といった日頃から顔が見える範囲での、地域での支え合い活動が必要とされています。
- ・ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域が必要と考えている人が多く、ご近所での助け合い活動の充実が望まれています。
- ・困った時に助け合える関係が必要であり、地域で安心して暮らすため（防犯・防災のため）にも近所づきあいは必要と考えられています。
- ・特に、困った時には近所に相談できる人が必要と考えている人が多く、日頃からのあいさつ等を心掛けることが大事と考える人がほとんどのようです。

### 《これからの地域福祉活動に求められるもの》

○顔が見える関係づくりのために、日頃からご近所におけるあいさつや声かけ、自治会等の季節行事等への参加により、近所づきあいを維持・活発にする必要があります。

○支援を必要としている人に対して自分ができることとして、支援が必要な人やその家族への声かけや見守り活動と考える人が多く、そうした地域での支え合い活動を広めていく必要があります。

○行政や福祉関係の専門機関には、地域で困っている人を見つけて専門機関へつなぐなど、住民の抱える課題を解決する役割とともに、困っている人を早く発見して支援できる仕組みづくりが求められています。



### 方針3 福祉に関する情報提供を充実させる

#### 《現状》

- ・社会福祉協議会の認知度は、広報誌や新聞、テレビを通じて名前を知っている人が多い一方で、活動内容を知らないという人も少なくない状況です。社会福祉協議会はこれまで見守り活動を進めてきたことから、高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところというイメージを持たれています。
- ・福祉員も、前回調査より認知度は高まっていますが、名前と活動内容を知らない人がまだまだ多い状況です。福祉員の活動としては、一人暮らし高齢者などへの見守り活動が多くの人から期待されています。
- ・悩み事、困りごとを誰にも相談しない理由として、青年層では相談先が分からない、高齢層ではプライバシーが守られるか不安という意見が多いようです。
- ・福祉サービスや福祉に関する情報提供、困った時の相談支援など、福祉に関して分かりやすい情報も求められています。

#### 《これからの地域福祉活動に求められるもの》

- 見守り活動を通して社会福祉協議会の認知度や存在感が高まっていますが、社会福祉協議会の活動はそれだけではなく、相談支援や福祉サービスの実施、ボランティア活動の推進や支援、見守り活動など住民への働きかけといったコミュニティソーシャルワーク的な活動など多岐に渡るため、他の活動も周知していく必要があります。
- 社会福祉協議会は地域の身近な相談役として、福祉員の配置を進めており、福祉員の存在や活動内容を周知し、活用してもらう必要があります。
- 行政や福祉関係の専門機関には、福祉サービスや福祉に関する情報提供、困った時の相談先など、住民に分かりやすい情報をより積極的に発信していく必要があります。また、住民側からも、それらの情報を自ら進んで手に入れていくことが求められています。
- 相談を受ける側は、個人情報扱いやプライバシーに配慮した、相談しやすい雰囲気作りをしていく必要があります。



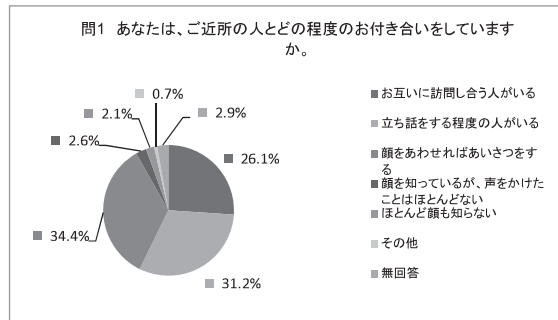
# 資 料 編

- 1 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（単純集計）
- 2 「福祉に関する県民意識調査」調査票
- 3 「県民福祉意識等に関する調査研究委員会」協議経過 等

# 1. 「福祉に関する県民意識等実態調査」結果（単純集計結果）

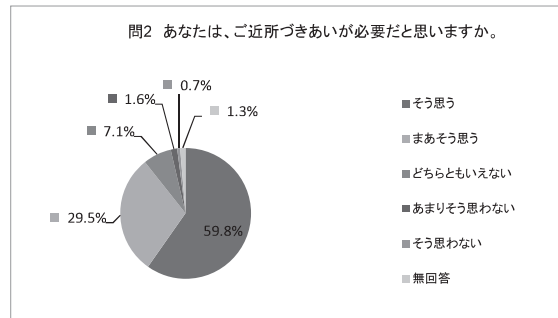
問1 あなたは、ご近所の人との程度のお付き合いをしていますか。

	度数	比率
1 お互いに訪問し合う人がいる	539	26.1%
2 立ち話をする程度の人がある	645	31.2%
3 顔を合わせればあいさつをする	711	34.4%
4 顔を知っているが、声をかけたことはほとんどない	54	2.6%
5 ほとんど顔も知らない	43	2.1%
6 その他	15	0.7%
99 無回答	59	2.9%
合計	2066	100.0%



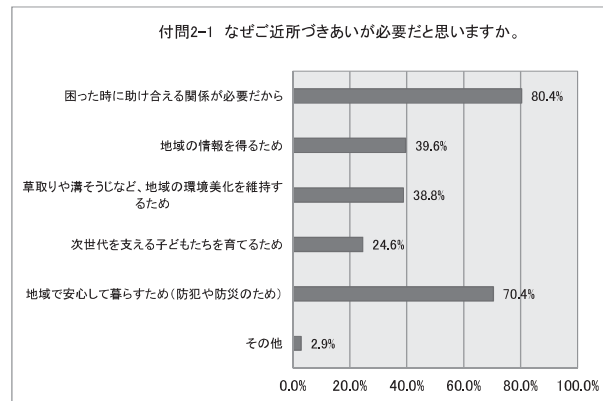
問2 あなたは、ご近所づきあいが必要だと思いますか。

	度数	比率
1 そう思う	1235	59.8%
2 まあそう思う	609	29.5%
3 どちらともいえない	147	7.1%
4 あまりそう思わない	33	1.6%
5 そう思わない	15	0.7%
99 無回答	27	1.3%
合計	2066	100.0%



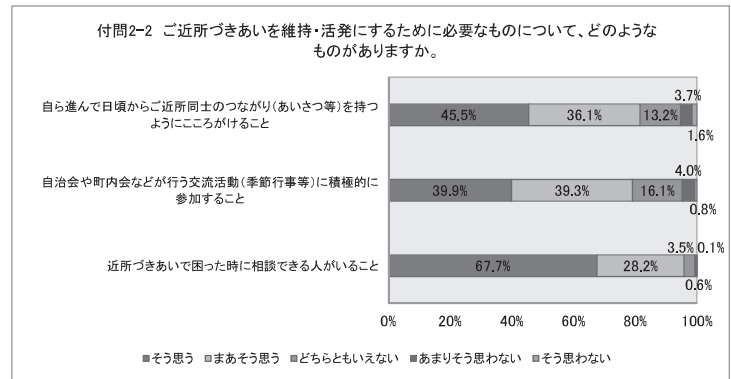
付問2-1 なぜご近所づきあいが必要だと思いますか。

	度数	有効回収数からの
1 困った時に助け合える関係が必要だから	1482	80.4%
2 地域の情報を得るため	731	39.6%
3 草取りや溝そうじなど、地域の環境美化を維持するため	716	38.8%
4 次世代を支える子どもたちを育てるため	453	24.6%
5 地域で安心して暮らすため(防犯や防災のため)	1298	70.4%
6 その他	53	2.9%
合計	4733	



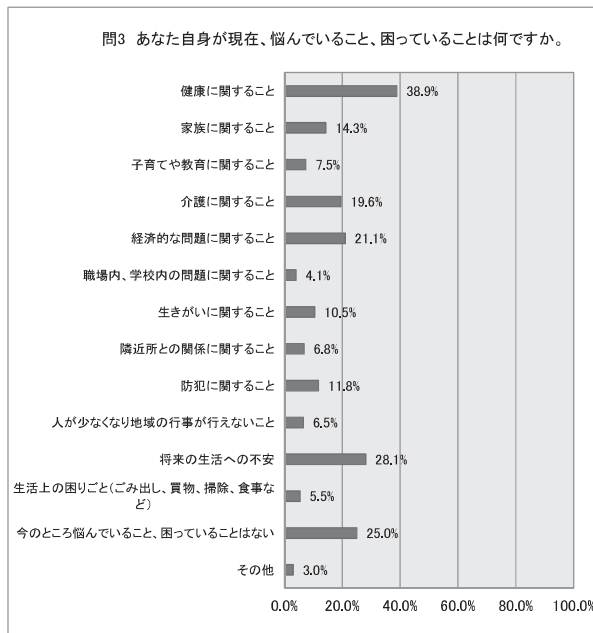
付問2-2 ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なものについて、どのようなものがありますか。

No.	そう思う		まあそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		そう思わない		合計	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
1 自ら進んで日頃からご近所同士のつながり(あいさつ等)を持つようにつながる	1190	67.7%	495	28.2%	61	3.5%	11	0.6%	1	0.1%	1758	100.0%
2 自治会や町内会などが行う交流活動(季節行事等)に積極的に参加すること	678	39.9%	667	39.3%	273	16.1%	68	4.0%	13	0.8%	1699	100.0%
3 近所づきあいで困った時に相談できる人がいること	772	45.5%	613	36.1%	224	13.2%	62	3.7%	27	1.6%	1698	100.0%



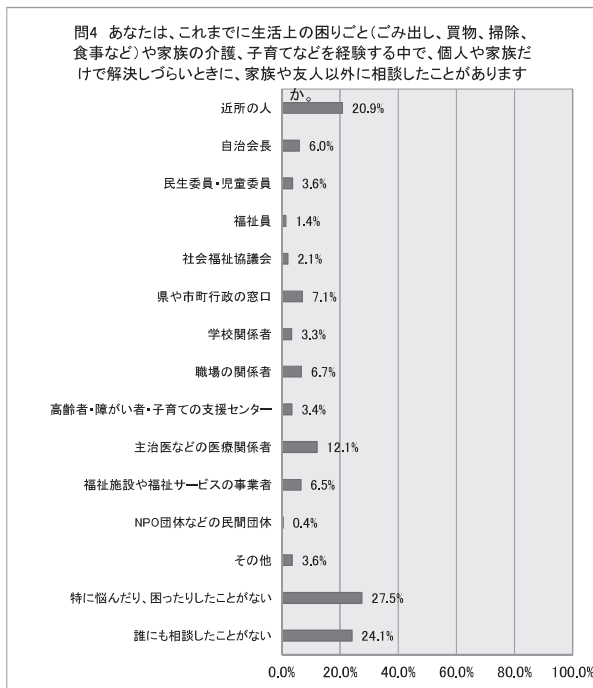
問3 あなた自身が現在、悩んでいること、困っていることは何ですか。

	度数	有効回収 数からの
1 健康に関すること	803	38.9%
2 家族に関すること	296	14.3%
3 子育てや教育に関すること	154	7.5%
4 介護に関すること	404	19.6%
5 経済的な問題に関すること	435	21.1%
6 職場内、学校内の問題に関すること	84	4.1%
7 生きがいに関すること	216	10.5%
8 隣近所との関係に関すること	141	6.8%
9 防犯に関すること	244	11.8%
10 人が少なくなり地域の行事が行えないこと	135	6.5%
11 将来の生活への不安	581	28.1%
12 生活上の困りごと(ごみ出し、買物、掃除、食事など)	113	5.5%
13 今のところ悩んでいること、困っていることはない	517	25.0%
14 その他	63	3.0%
合計	4186	



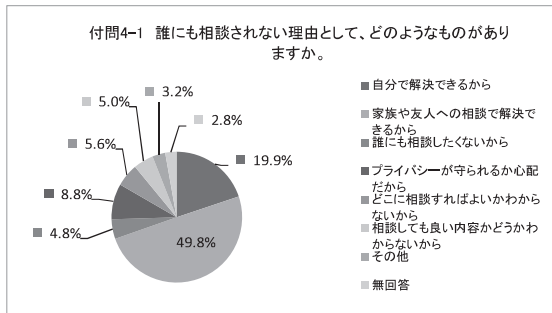
問4 あなたは、これまでに生活上の困りごと(ごみ出し、買物、掃除、食事など)や家族の介護、子育てなどを経験する中で、個人や家族だけで解決しづらいときに、家族や友人以外に相談したことがありますか。

	度数	有効回収 数からの
1 近所の人	431	20.9%
2 自治会長	124	6.0%
3 民生委員・児童委員	75	3.6%
4 福祉員	29	1.4%
5 社会福祉協議会	43	2.1%
6 県や市町行政の窓口	146	7.1%
7 学校関係者	69	3.3%
8 職場の関係者	139	6.7%
9 高齢者・障がい者・子育ての支援センター	71	3.4%
10 主治医などの医療関係者	250	12.1%
11 福祉施設や福祉サービスの事業者	135	6.5%
12 NPO団体などの民間団体	9	0.4%
13 その他	74	3.6%
14 特に悩んだり、困ったりしたことがない	569	27.5%
15 誰にも相談したことがない	498	24.1%
合計	2662	



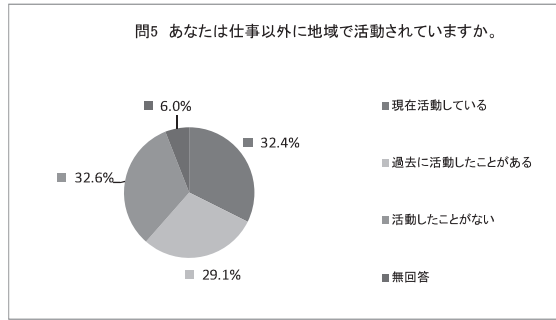
付問4-1 誰にも相談されない理由として、どのようなものがありますか。

	度数	比率
1 自分で解決できるから	99	19.9%
2 家族や友人への相談で解決できるから	248	49.8%
3 誰にも相談したくないから	24	4.8%
4 プライバシーが守られるか心配だから	44	8.8%
5 どこに相談すればよいかわからないから	28	5.6%
6 相談しても良い内容かどうかわからないから	25	5.0%
7 その他	16	3.2%
99 無回答	14	2.8%
合計	498	100.0%



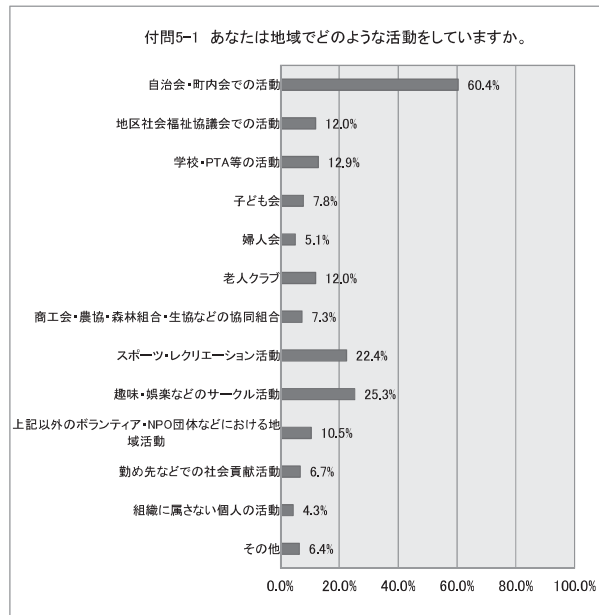
問5 あなたは仕事以外に地域で活動されていますか。

	度数	比率
1 現在活動している	669	32.4%
2 過去に活動したことがある	601	29.1%
3 活動したことがない	673	32.6%
99 無回答	123	6.0%
合計	2066	100.0%



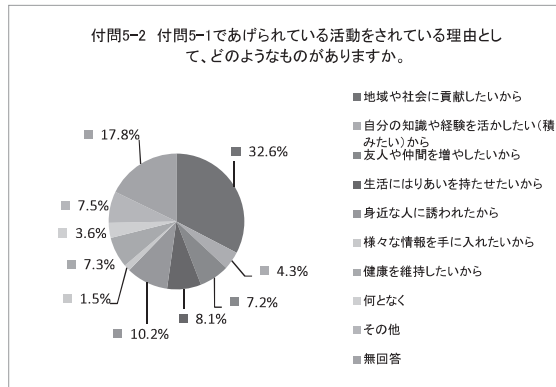
付問5-1 あなたは地域でどのような活動をしていますか。

	度数	有効回収数からの
1 自治会・町内会での活動	404	60.4%
2 地区社会福祉協議会での活動	80	12.0%
3 学校・PTA等の活動	86	12.9%
4 子ども会	52	7.8%
5 婦人会	34	5.1%
6 老人クラブ	80	12.0%
7 商工会・農協・森林組合・生協などの協同組合	49	7.3%
8 スポーツ・レクリエーション活動	150	22.4%
9 趣味・娯楽などのサークル活動	169	25.3%
10 上記以外のボランティア・NPO団体などにおける地域活動	70	10.5%
11 勤め先などでの社会貢献活動	45	6.7%
12 組織に属さない個人の活動	29	4.3%
13 その他	43	6.4%
合計	1291	



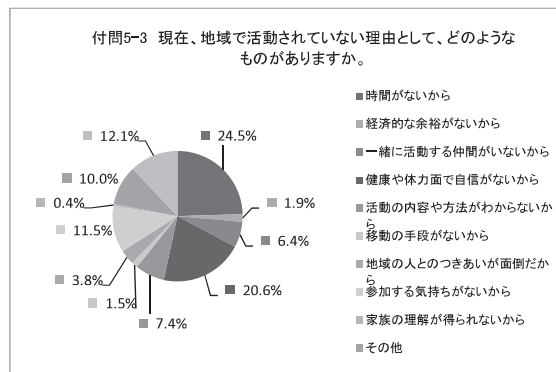
付問5-2 付問5-1であげられている活動をされている理由として、どのようなものがありますか。

	度数	比率
1 地域や社会に貢献したいから	218	32.6%
2 自分の知識や経験を活かしたい(積みみたい)から	29	4.3%
3 友人や仲間を増やしたいから	48	7.2%
4 生活にはりあいを持たせたいから	54	8.1%
5 身近な人に誘われたから	68	10.2%
6 様々な情報を手に入れたいから	10	1.5%
7 健康を維持したいから	49	7.3%
8 何となく	24	3.6%
9 その他	50	7.5%
99 無回答	119	17.8%
合計	669	100.0%



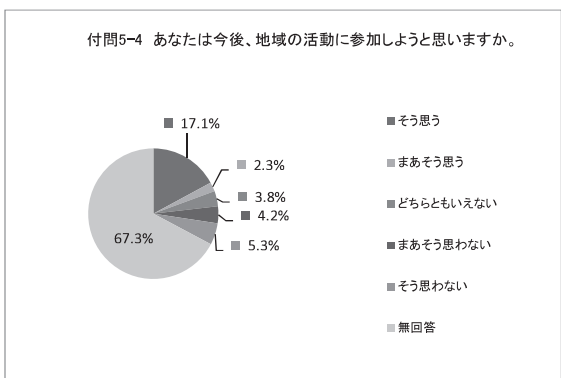
付問5-3 現在、地域で活動されていない理由として、どのようなものがありますか。

	度数	比率
1 時間がないから	312	24.5%
2 経済的な余裕がないから	24	1.9%
3 一緒に活動する仲間がないから	82	6.4%
4 健康や体力面で自信がないから	262	20.6%
5 活動の内容や方法がわからないから	94	7.4%
6 移動の手段がないから	19	1.5%
7 地域の人のつきあいが面倒だから	48	3.8%
8 参加する気持ちはないから	147	11.5%
9 家族の理解が得られないから	5	0.4%
10 その他	127	10.0%
99 無回答	154	12.1%
合計	1274	100.0%



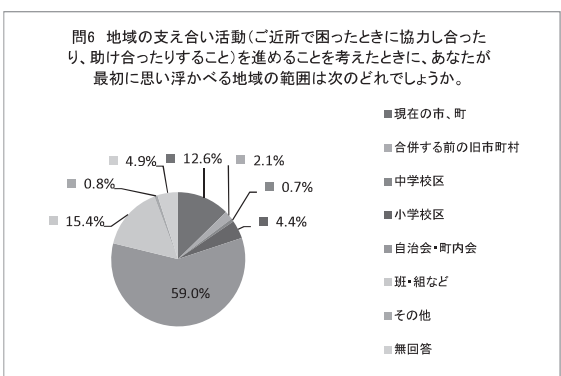
付問5-4 あなたは今後、地域の活動に参加しようと思いますか。

	度数	比率
1 そう思う	218	17.1%
2 まあそう思う	29	2.3%
3 どちらともいえない	48	3.8%
4 まあそう思わない	54	4.2%
5 そう思わない	68	5.3%
99 無回答	857	67.3%
合計	1274	100.0%



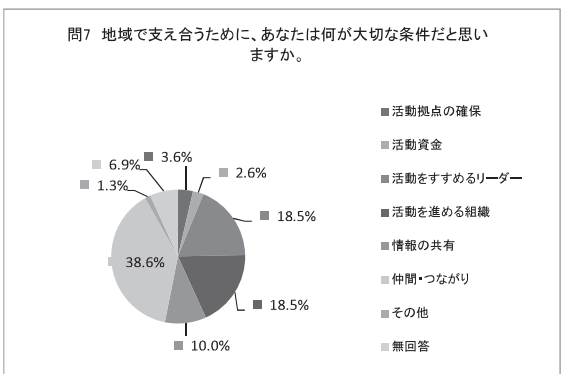
問6 地域の支え合い活動(ご近所で困ったときに協力し合ったり、助け合ったりすること)を進めることを考えたときに、あなたが最初に思い浮かべる地域の範囲は次のどれでしょうか。

	度数	比率
1 現在の市、町	261	12.6%
2 合併する前の旧市町村	43	2.1%
3 中学校区	15	0.7%
4 小学校区	91	4.4%
5 自治会・町内会	1219	59.0%
6 班・組など	318	15.4%
7 その他	17	0.8%
99 無回答	102	4.9%
合計	2066	100.0%



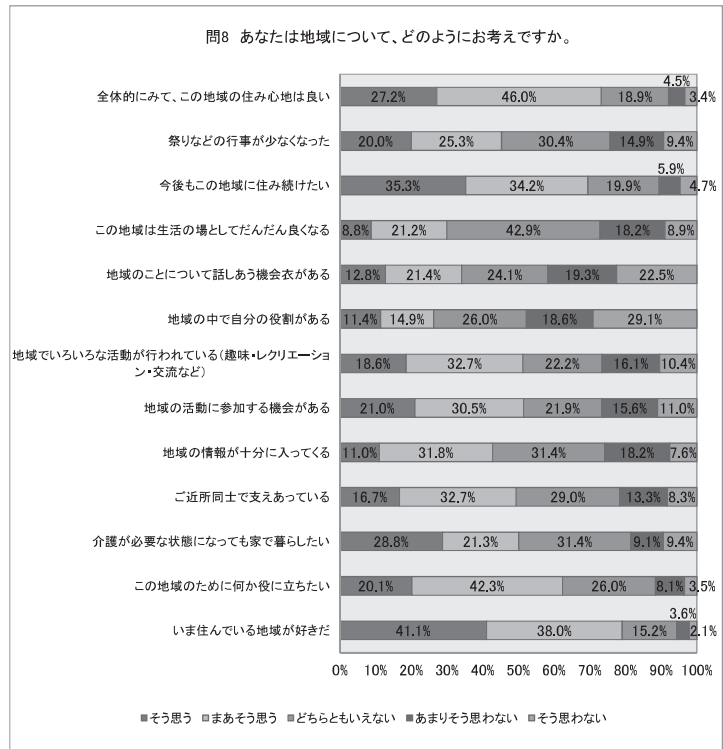
問7 地域で支え合うために、あなたは何が大切な条件だと思いますか。

	度数	比率
1 活動拠点の確保	74	3.6%
2 活動資金	53	2.6%
3 活動をすすめるリーダー	382	18.5%
4 活動を進める組織	383	18.5%
5 情報の共有	207	10.0%
6 仲間・つながり	798	38.6%
7 その他	27	1.3%
99 無回答	142	6.9%
合計	2066	100.0%



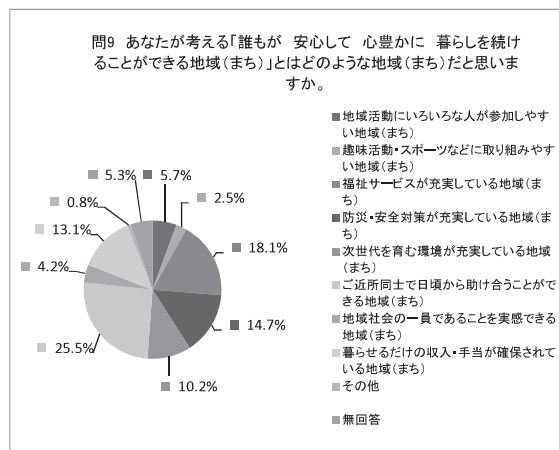
問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。

No.	そう思う		まあそう思う		どちらともいえない		あまりそう思わない		そう思わない		合計	
	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率	度数	比率
いま住んでいる地域が好きだ	827	41.1%	765	38.0%	305	15.2%	73	3.6%	42	2.1%	2012	100.0%
この地域のために何か役に立ちたい	391	20.1%	822	42.3%	505	26.0%	158	8.1%	68	3.5%	1944	100.0%
介護が必要な状態になっても家で暮らした	576	28.8%	427	21.3%	628	31.4%	183	9.1%	188	9.4%	2002	100.0%
ご近所同士で支えあっている	326	16.7%	638	32.7%	567	29.0%	259	13.3%	162	8.3%	1952	100.0%
地域の情報が十分に入ってくる	214	11.0%	615	31.8%	608	31.4%	352	18.2%	148	7.6%	1937	100.0%
地域の活動に参加する機会がある	402	21.0%	585	30.5%	420	21.9%	299	15.6%	211	11.0%	1917	100.0%
地域でいろいろな活動が行われている(趣味・レクリエーション・交流など)	355	18.6%	624	32.7%	423	22.2%	308	16.1%	199	10.4%	1909	100.0%
地域の中で自分の役割がある	219	11.4%	287	14.9%	501	26.0%	359	18.6%	561	29.1%	1927	100.0%
地域のことについて話しあう機会がある	247	12.8%	413	21.4%	466	24.1%	373	19.3%	434	22.5%	1933	100.0%
この地域は生活の場としてだんだん良くなる	169	8.8%	409	21.2%	826	42.9%	350	18.2%	172	8.9%	1926	100.0%
今後もこの地域に住み続けたい	696	35.3%	675	34.2%	393	19.9%	117	5.9%	92	4.7%	1973	100.0%
祭りなどの行事が少なくなった	382	20.0%	483	25.3%	581	30.4%	285	14.9%	179	9.4%	1910	100.0%
全体的にみて、この地域の住み心地は良い	535	27.2%	906	46.0%	372	18.9%	89	4.5%	66	3.4%	1968	100.0%



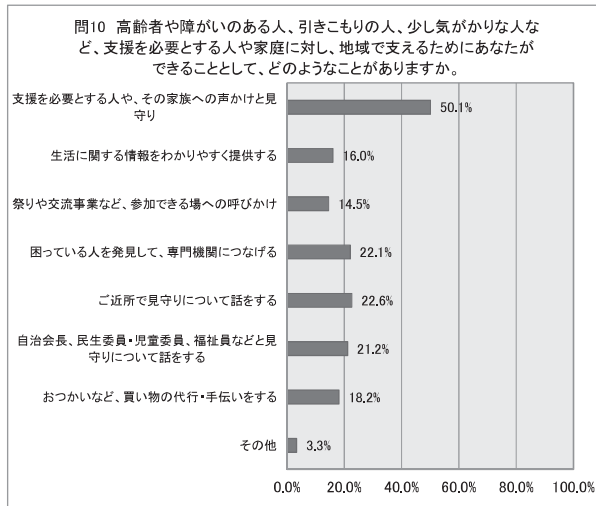
問9 あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域(まち)」とはどのような地域(まち)だと思いますか。

	度数	比率
1 地域活動にいろいろな人が参加しやすい地域(まち)	117	5.7%
2 趣味活動・スポーツなどに取り組みやすい地域(まち)	52	2.5%
3 福祉サービスが充実している地域(まち)	373	18.1%
4 防災・安全対策が充実している地域(まち)	304	14.7%
5 次世代を育む環境が充実している地域(まち)	211	10.2%
6 ご近所同士で日頃から助け合えることができる地域(まち)	527	25.5%
7 地域社会の一員であることを実感できる地域(まち)	87	4.2%
8 暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域(まち)	270	13.1%
9 その他	16	0.8%
99 無回答	109	5.3%
合計	2066	100.0%



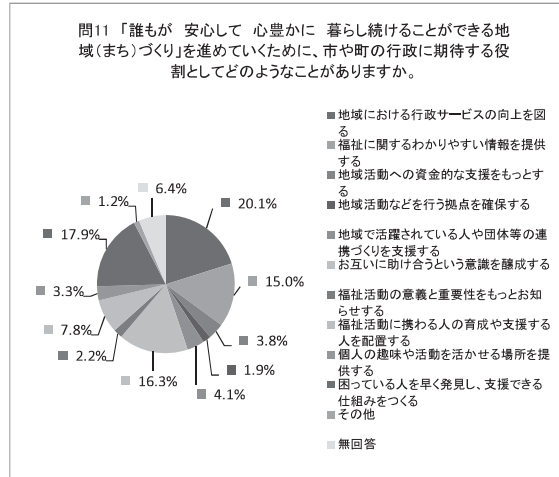
問10 高齢者や障がいのある人、引きこもりの人、少し気がかりな人など、支援を必要とする人や家庭に対し、地域で支えるためにあなたができることとして、どのようなことがありますか。

	度数	有効回収数からの
1 支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り	1036	50.1%
2 生活に関する情報をわかりやすく提供する	331	16.0%
3 祭りや交流事業など、参加できる場への呼びかけ	300	14.5%
4 困っている人を発見して、専門機関につなげる	456	22.1%
5 ご近所で見守りについて話をする	467	22.6%
6 自治会長、民生委員・児童委員、福祉員など見守りについて話をする	437	21.2%
7 おつかいなど、買い物の代行・手伝いをする	375	18.2%
8 その他	69	3.3%
合計	3471	



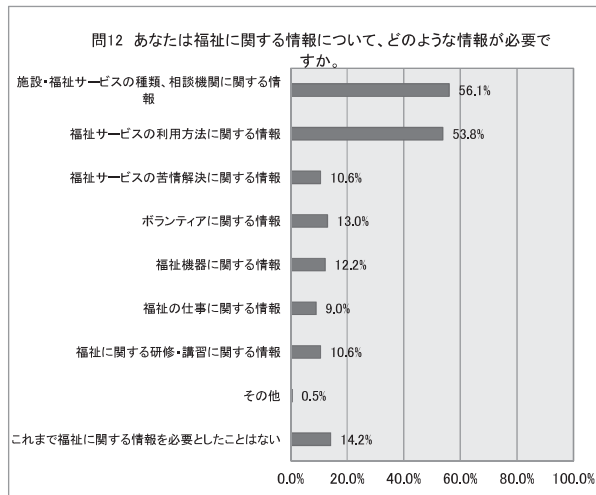
問11 「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域(まち)づくりを進めていくために、市や町の行政に期待する役割としてどのようなことがありますか。

	度数	比率
1 地域における行政サービスの向上を図る	416	20.1%
2 福祉に関するわかりやすい情報を提供する	309	15.0%
3 地域活動への資金的な支援をもつとする	78	3.8%
4 地域活動などを行う拠点を確保する	39	1.9%
5 地域で活躍されている人や団体等の連携づくりを支援する	85	4.1%
6 お互いに助け合うという意識を醸成する	337	16.3%
7 福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする	45	2.2%
8 福祉活動に携わる人の育成や支援する人を配置する	162	7.8%
9 個人の趣味や活動を活かせる場所を提供する	68	3.3%
10 困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる	370	17.9%
11 その他	25	1.2%
99 無回答	132	6.4%
合計	2066	100.0%



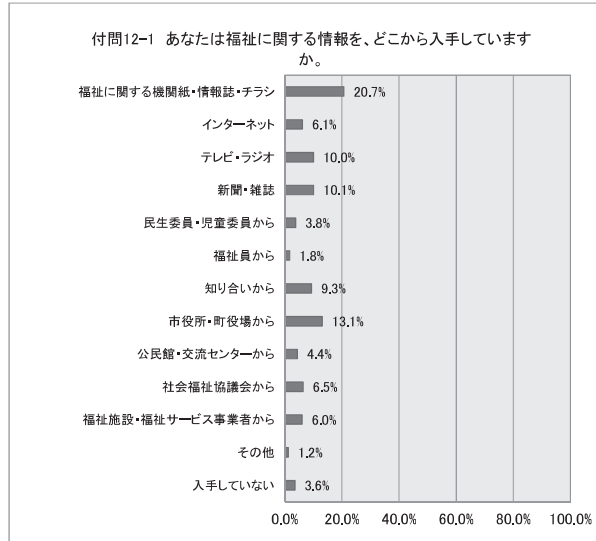
問12 あなたは福祉に関する情報について、どのような情報が必要ですか。

	度数	有効回収数からの
1 施設・福祉サービスの種類、相談機関に関する情報	1158	56.1%
2 福祉サービスの利用方法に関する情報	1112	53.8%
3 福祉サービスの苦情解決に関する情報	219	10.6%
4 ボランティアに関する情報	269	13.0%
5 福祉機器に関する情報	252	12.2%
6 福祉の仕事に関する情報	185	9.0%
7 福祉に関する研修・講習に関する情報	218	10.6%
8 その他	11	0.5%
9 これまで福祉に関する情報を必要としたことはない	293	14.2%
合計	3717	



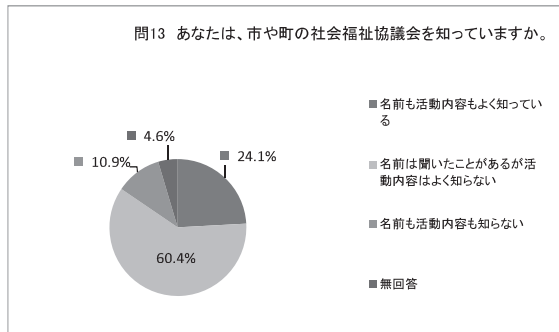
付問12-1 あなたは福祉に関する情報を、どこから入手していますか。

	度数	有効回収数からの
1 福祉に関する機関紙・情報誌・チラシ	710	20.7%
2 インターネット	210	6.1%
3 テレビ・ラジオ	344	10.0%
4 新聞・雑誌	347	10.1%
5 民生委員・児童委員から	131	3.8%
6 福祉員から	60	1.8%
7 知り合いから	319	9.3%
8 市役所・町役場から	448	13.1%
9 公民館・交流センターから	152	4.4%
10 社会福祉協議会から	221	6.5%
11 福祉施設・福祉サービス事業者から	207	6.0%
12 その他	42	1.2%
13 入手していない	122	3.6%
合計	3717	



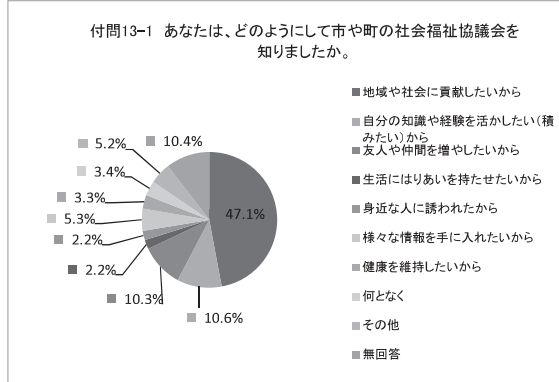
問13 あなたは、市や町の社会福祉協議会を知っていますか。

	度数	比率
1 名前も活動内容もよく知っている	498	24.1%
2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	1247	60.4%
3 名前も活動内容も知らない	226	10.9%
99 無回答	95	4.6%
合計	2066	100.0%



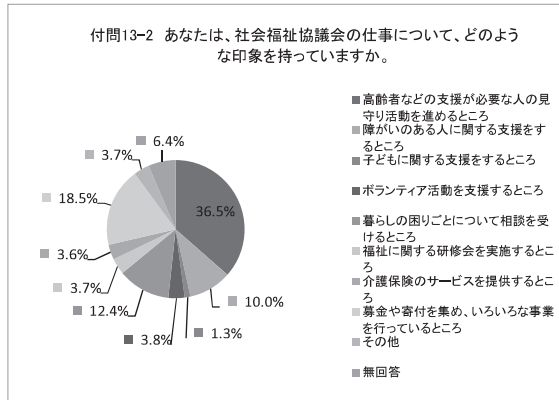
付問13-1 あなたは、どのようにして市や町の社会福祉協議会を知りましたか。

	度数	比率
1 地域や社会に貢献したいから	822	47.1%
2 自分の知識や経験を活かしたい(積みみたい)から	185	10.6%
3 友人や仲間を増やしたいから	179	10.3%
4 生活にはりあいを持たせたいから	39	2.2%
5 身近な人に誘われたから	38	2.2%
6 様々な情報を手に入れたいから	92	5.3%
7 健康を維持したいから	58	3.3%
8 何となく	60	3.4%
9 その他	90	5.2%
99 無回答	182	10.4%
合計	1745	100.0%



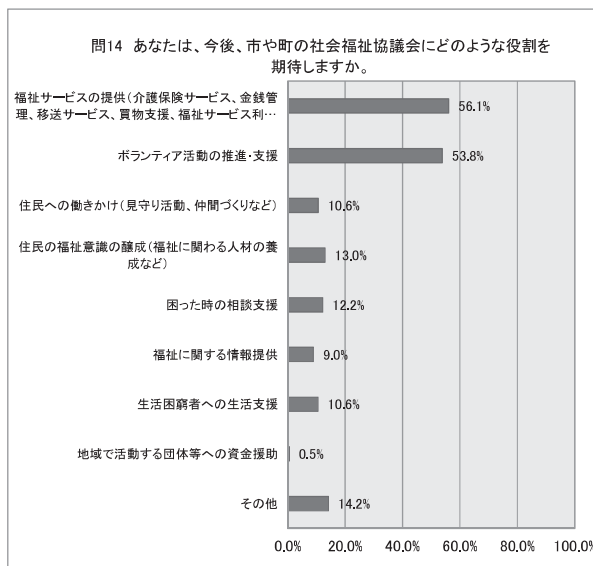
付問13-2 あなたは、社会福祉協議会の仕事について、どのような印象を持っていますか。

	度数	比率
1 高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ	637	36.5%
2 障がいのある人に関する支援をすすめる場所	175	10.0%
3 子どもに関する支援をすすめる場所	23	1.3%
4 ボランティア活動を支援する場所	67	3.8%
5 暮らしの困りごとについて相談を受けるところ	216	12.4%
6 福祉に関する研修会を実施する場所	65	3.7%
7 介護保険のサービスを提供する場所	63	3.6%
8 募金や寄付を集め、いろいろな事業を行っている場所	322	18.5%
9 その他	65	3.7%
99 無回答	112	6.4%
合計	1745	100.0%



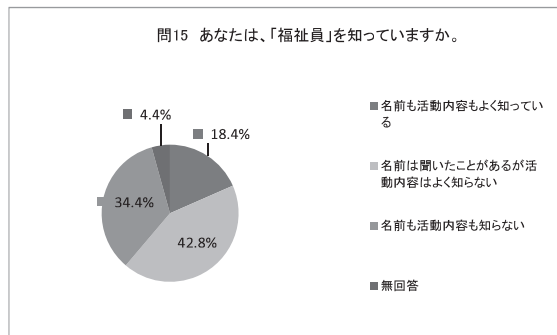
問14 あなたは、今後、市や町の社会福祉協議会にどのような役割を期待しますか。

	度数	有効回収数からの
1 福祉サービスの提供(介護保険サービス、金銭管理、移送サービス、買物支援、福祉サービス利用支援など)	1158	56.1%
2 ボランティア活動の推進・支援	1112	53.8%
3 住民への働きかけ(見守り活動、仲間づくりなど)	219	10.6%
4 住民の福祉意識の醸成(福祉に関わる人材の養成など)	269	13.0%
5 困った時の相談支援	252	12.2%
6 福祉に関する情報提供	185	9.0%
7 生活困窮者への生活支援	218	10.6%
8 地域で活動する団体等への資金援助	11	0.5%
9 その他	293	14.2%
合計	3717	



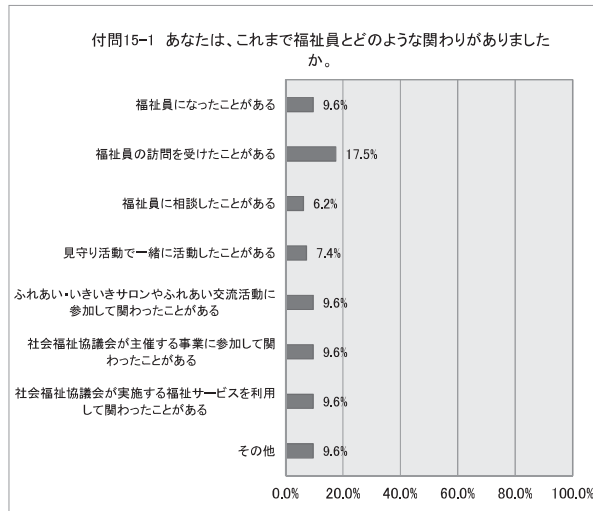
問15 あなたは、「福祉員」を知っていますか。

	度数	比率
1 名前も活動内容もよく知っている	381	18.4%
2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない	884	42.8%
3 名前も活動内容も知らない	710	34.4%
99 無回答	91	4.4%
合計	2066	100.0%



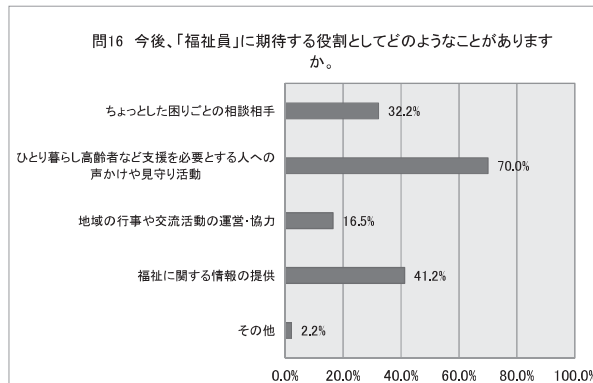
付問15-1 あなたは、これまで福祉員とどのような関わりがありましたか。

	度数	有効回収数からの
1 福祉員になったことがある	122	9.6%
2 福祉員の訪問を受けたことがある	222	17.5%
3 福祉員に相談したことがある	79	6.2%
4 見守り活動と一緒に活動したことがある	93	7.4%
5 ふれあいいきいきサロンやふれあい交流活動に参加して関わったことがある	122	9.6%
6 社会福祉協議会が主催する事業に参加して関わったことがある	122	9.6%
7 社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用して関わったことがある	122	9.6%
8 その他	122	9.6%
合計	1004	



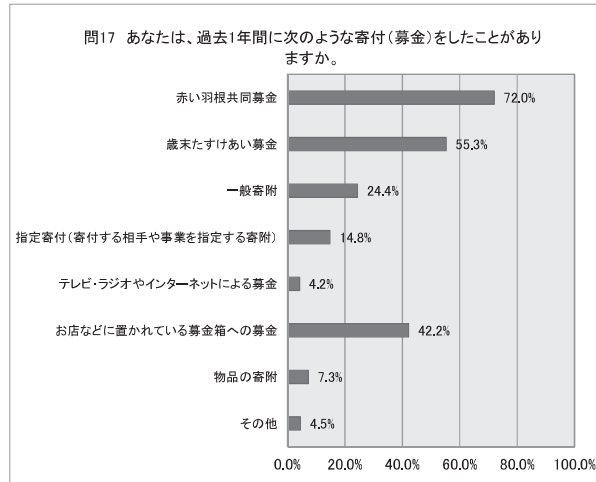
問16 今後、「福祉員」に期待する役割としてどのようなことがありますか。

	度数	有効回収数からの
1 ちょっとした困りごとの相談相手	666	32.2%
2 ひとり暮らし高齢者など支援を必要とする人への声かけや見守り活動	1446	70.0%
3 地域の行事や交流活動の運営・協力	341	16.5%
4 福祉に関する情報の提供	851	41.2%
5 その他	45	2.2%
合計	3349	



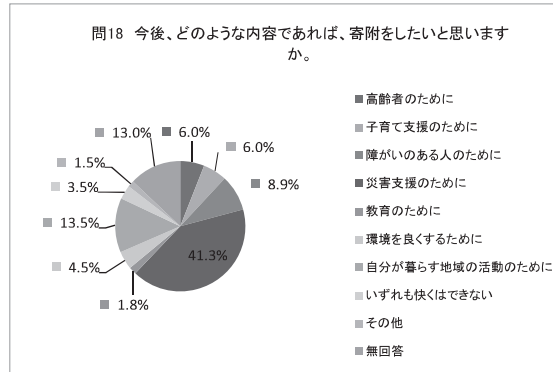
問17 あなたは、過去1年間に次のような寄附(募金)をしたことがありますか。

	度数	有効回収数からの
1 赤い羽根共同募金	1487	72.0%
2 歳末たすけあい募金	1142	55.3%
3 一般寄附	504	24.4%
4 指定寄付(寄付する相手や事業を指定する寄附)	306	14.8%
5 テレビ・ラジオやインターネットによる募金	87	4.2%
6 お店などに置かれている募金箱への募金	872	42.2%
7 物品の寄附	150	7.3%
8 その他	94	4.5%
合計	1004	



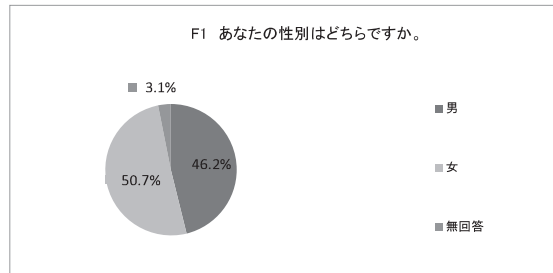
問18 今後、どのような内容であれば、寄附をしたいと思えますか。

	度数	比率
1 高齢者のために	124	6.0%
2 子育て支援のために	123	6.0%
3 障がいのある人のために	183	8.9%
4 災害支援のために	854	41.3%
5 教育のために	38	1.8%
6 環境を良くするために	93	4.5%
7 自分が暮らす地域の活動のために	279	13.5%
8 いずれも快くはできない	72	3.5%
9 その他	32	1.5%
99 無回答	268	13.0%
合計	2066	100.0%



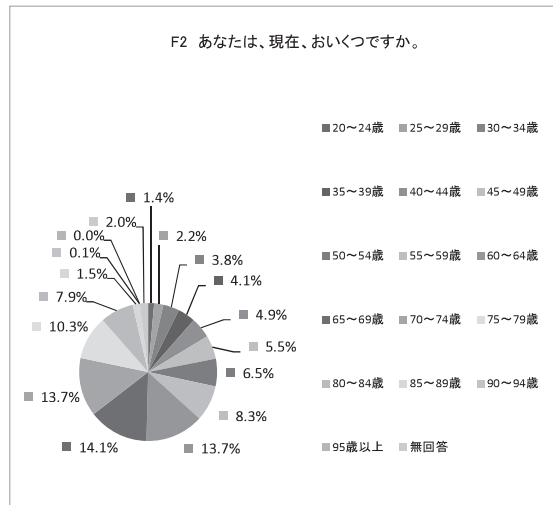
F1 あなたの性別はどちらですか。

	度数	比率
1 男	954	46.2%
2 女	1047	50.7%
99 無回答	65	3.1%
合計	2066	100.0%



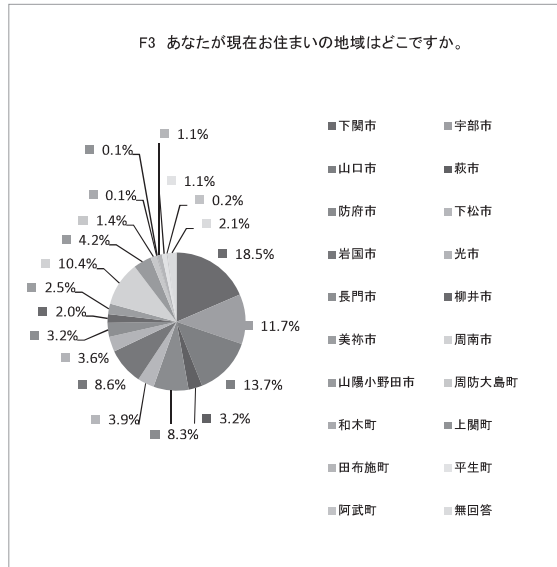
F2 あなたは、現在、おいくつですか。

	度数	比率
1 20~24歳	28	1.4%
2 25~29歳	46	2.2%
3 30~34歳	78	3.8%
4 35~39歳	85	4.1%
5 40~44歳	101	4.9%
6 45~49歳	114	5.5%
7 50~54歳	134	6.5%
8 55~59歳	172	8.3%
9 60~64歳	283	13.7%
10 65~69歳	292	14.1%
11 70~74歳	283	13.7%
12 75~79歳	212	10.3%
13 80~84歳	163	7.9%
14 85~89歳	31	1.5%
15 90~94歳	1	0.1%
16 95歳以上	0	0.0%
99 無回答	43	2.0%
合計	2066	100.0%



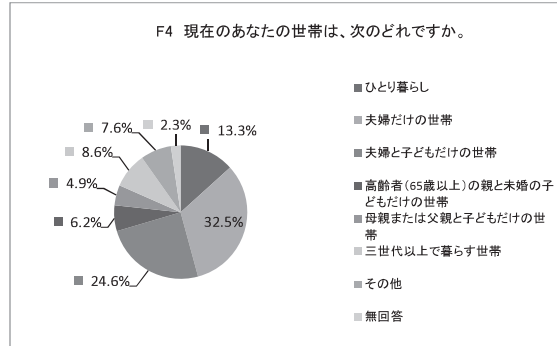
F3 あなたが現在お住まいの地域はどこですか。

	度数	比率
1 下関市	383	18.5%
2 宇部市	242	11.7%
3 山口市	283	13.7%
4 萩市	66	3.2%
5 防府市	172	8.3%
6 下松市	80	3.9%
7 岩国市	177	8.6%
8 光市	74	3.6%
9 長門市	67	3.2%
10 柳井市	42	2.0%
11 美祿市	51	2.5%
12 周南市	215	10.4%
13 山陽小野田市	87	4.2%
14 周防大島町	29	1.4%
15 和木町	3	0.1%
16 上関町	2	0.1%
17 田布施町	22	1.1%
18 平生町	23	1.1%
19 阿武町	5	0.2%
99 無回答	43	2.1%
合計	2066	100.0%



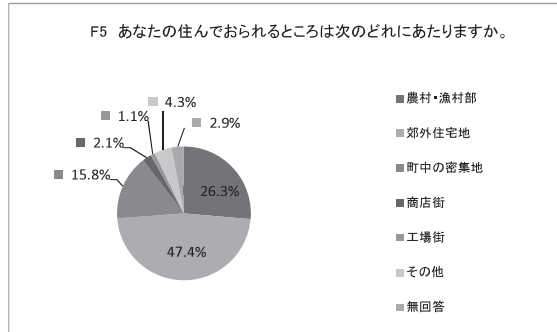
F4 現在のあなたの世帯は、次のどれですか。

	度数	比率
1 ひとり暮らし	275	13.3%
2 夫婦だけの世帯	671	32.5%
3 夫婦と子どもだけの世帯	509	24.6%
4 高齢者(65歳以上)の親と未婚の子どもだけの世帯	129	6.2%
5 母親または父親と子どもだけの世帯	101	4.9%
6 三世代以上で暮らす世帯	177	8.6%
7 その他	156	7.6%
99 無回答	48	2.3%
合計	2066	100.0%



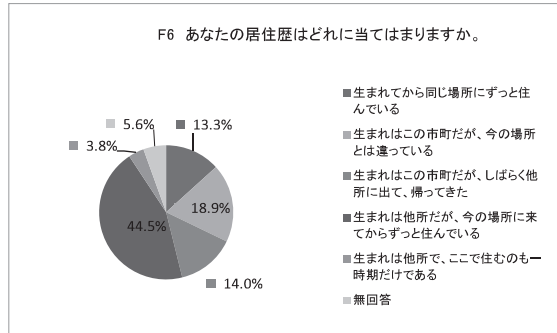
F5 あなたの住んでおられるところは次のどれにあたりますか。

	度数	比率
1 農村・漁村部	544	26.3%
2 郊外住宅地	980	47.4%
3 町中の密集地	327	15.8%
4 商店街	44	2.1%
5 工場街	23	1.1%
6 その他	88	4.3%
99 無回答	60	2.9%
合計	2066	100.0%



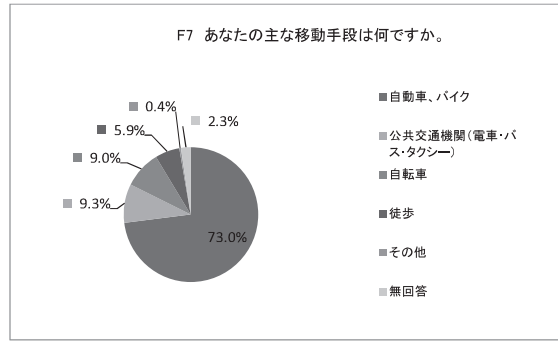
F6 あなたの居住歴はどれに当てはまりますか。

	度数	比率
1 生まれてから同じ場所にずっと住んでいる	274	13.3%
2 生まれはこの市町だが、今の場所とは違っている	390	18.9%
3 生まれはこの市町だが、しばらく他所に出て、帰ってきた	289	14.0%
4 生まれは他所だが、今の場所に来てからずっと住んでいる	920	44.5%
5 生まれは他所で、ここで住むのも一時期だけである	78	3.8%
99 無回答	115	5.6%
合計	2066	100.0%



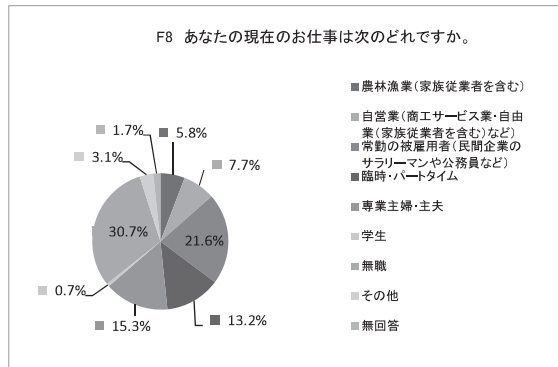
F7 あなたの主な移動手段は何ですか。

	度数	比率
1 自動車、バイク	1508	73.0%
2 公共交通機関(電車・バス・タクシー)	193	9.3%
3 自転車	186	9.0%
4 徒歩	122	5.9%
5 その他	9	0.4%
99 無回答	48	2.3%
合計	2066	100.0%



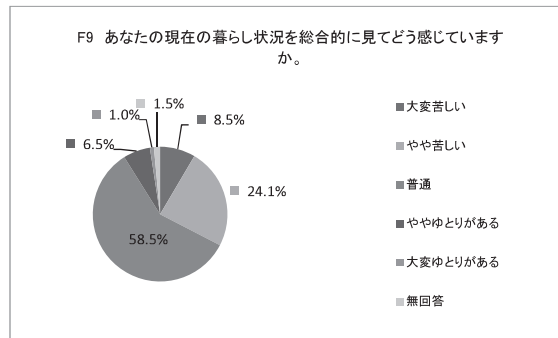
F8 あなたの現在のお仕事は次のどれですか。

	度数	比率
1 農林漁業(家族従業者を含む)	120	5.8%
2 自営業(商工サービス業・自由業(家族従業者を含む)など)	160	7.7%
3 常勤の被雇用者(民間企業のサラリーマンや公務員など)	447	21.6%
4 臨時・パートタイム	272	13.2%
5 専業主婦・主夫	316	15.3%
6 学生	15	0.7%
7 無職	635	30.7%
8 その他	65	3.1%
99 無回答	36	1.7%
合計	2066	100.0%



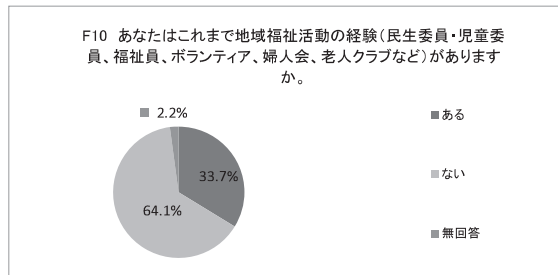
F9 あなたの現在の暮らし状況を総合的に見てどう感じていますか。

	度数	比率
1 大変苦しい	176	8.5%
2 やや苦しい	497	24.1%
3 普通	1208	58.5%
4 ややゆとりがある	134	6.5%
5 大変ゆとりがある	20	1.0%
99 無回答	31	1.5%
合計	2066	100.0%



F10 あなたはこれまで地域福祉活動の経験(民生委員・児童委員、福祉員、ボランティア、婦人会、老人クラブなど)がありますか。

	度数	比率
1 ある	697	33.7%
2 ない	1324	64.1%
99 無回答	45	2.2%
合計	2066	100.0%



## 2. 「福祉に関する県民意識調査」調査票

### 山口県「福祉に関する県民意識調査について」（御協力のお願い）

平成25年9月

#### アンケートの御記入にあたってのお願い

山口県社会福祉協議会では、「住み慣れた地域で誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）づくり」をスローガンに、市町社会福祉協議会と連携をとりながら地域福祉をすすめています。

今後、県民誰もがその人らしく暮らすことのできる地域を基盤とした福祉を進めていくために、県民のみなさまの意見をお聞きするアンケート調査を実施いたしますので、御協力をお願いします。

このアンケートは、無記名であり、結果は数字で統計的に処理し、御回答いただいた方の考え方そのものが公表されることはなく、あなたに御迷惑をおかけすることは決してありませんので、ありのままをお答えください。

- 1 このアンケートは、個人を対象としておりますので、調査回答の依頼を受けられた方御本人がお答えください。
- 2 回答は、あてはまる番号を選び、その番号を○印で囲んでください。なお、質問により、「当てはまるものすべてに」、「ひとつだけ」等、回答の仕方が異なる場合がありますので注意してください。
- 3 回答の記入にあたっては、鉛筆でもボールペンでも構いません。
- 4 全てに回答いただきましたら、同封の返信用封筒にて  
**平成25年9月30日（月）までに、返送してください。**

（本アンケートに関する問い合わせ先）

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

地域福祉部 地域福祉班

〒753-0072 山口市大手町9-6 TEL (083) 924-2828

担当：大倉、中村

#### 【ご近所づきあいについてうかがいます。】

※ ここでいう近所とは広くても町内会・自治会の範囲としてお考えください。

問1 あなたは、ご近所の人とどの程度のお付き合いをしていますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |                  |                           |
|------------------|---------------------------|
| 1 お互いに訪問し合う人がいる  | 2 立ち話をする程度の人がある           |
| 3 顔をあわせればあいさつをする | 4 顔は知っているが、声をかけたことはほとんどない |
| 5 ほとんど顔も知らない     | 6 その他（具体的に )              |

問2 あなたは、ご近所づきあいが必要だと思えますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |             |                            |
|-------------|----------------------------|
| 1 そう思う      | } ⇒ 次の付問2-1・付問2-2にお答えください。 |
| 2 まあそう思う    |                            |
| 3 どちらともいえない | } <b>問3</b> にお答えください。      |
| 4 あまりそう思わない |                            |
| 5 そう思わない    |                            |

**問2で「1 そう思う」、「2 まあそう思う」とされた方におたずねします。**

付問2-1 なぜご近所づきあいが必要だと思えますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 困ったときに助け合える関係が必要だから
- 2 地域の情報を得るため
- 3 草取りや溝そうじなど、地域の環境美化を維持するため
- 4 次世代を支える子どもたちを育てるため
- 5 地域で安心して暮らすため（防犯や防災のため）
- 6 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

付問2-2 ご近所づきあいを維持・活発にするために必要なものについて、どのようなものがありますか。次の中から当てはまるものの番号に○をつけてください。

	そう 思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう 思わない
・自ら進んで日頃からご近所同士の つながり（あいさつ等）を持つ ようにこころがけること	1	2	3	4	5
・自治会や町内会などが行う 交流活動（季節行事等）に積極的に 参加すること	1	2	3	4	5
・近所づきあいで困った時に相談 できる人がいること	1	2	3	4	5

**【悩みごと、困りごとについてうかがいます。】**

**※ すべての方におたずねします。**

問3 あなた自身が現在、悩んでいること、困っていることは何ですか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 健康に関する事
- 2 家族に関する事
- 3 子育てや教育に関する事
- 4 介護に関する事
- 5 経済的な問題に関する事
- 6 職場内、学校内の問題に関する事
- 7 生きがいに関する事
- 8 隣近所との関係に関する事
- 9 防犯に関する事
- 10 人が少なくなり地域の行事が行えないこと
- 11 将来の生活への不安
- 12 生活上の困りごと（ごみ出し、買物、掃除、食事など）
- 13 今のところ悩んでいること、困っていることはない
- 14 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

問4 あなたは、これまでに生活上の困りごと（ごみ出し、買物、掃除、食事など）や家族の介護、子育てなどを経験する中で、個人や家族だけで解決しづらいときに、家族や友人以外に相談したことがありますか。次の中からあてはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                       |                    |
|-----------------------|--------------------|
| 1 近所の人                | 2 自治会長             |
| 3 民生委員・児童委員           | 4 <u>福祉員*</u>      |
| 5 社会福祉協議会             | 6 県や市町行政の窓口        |
| 7 学校関係者               | 8 職場の関係者           |
| 9 高齢者・障がい者・子育ての支援センター |                    |
| 10 主治医などの医療関係者        |                    |
| 11 福祉施設や福祉サービスの事業者    |                    |
| 12 NPO 団体などの民間団体      |                    |
| 13 その他（具体的に           | ）                  |
| 14 特に悩んだり、困ったりしたことがない |                    |
| 15 誰にも相談したことがない       | ⇒ 次の付問4－1にお答えください。 |

問5にお答え  
ください。

※ 福祉員

市町によっては「小地区福祉員」、「ふれあい推進員」等と呼ばれています。単位自治会程度の範囲に設置され、近隣の住民の皆さんに働きかけたり、民生委員・児童委員やボランティア、地区・校区社会福祉協議会、市町社会福祉協議会などと協力して地域の福祉問題を発見し、解決する担い手です。

問4で「15 誰にも相談したことがない」とされた方におたずねします。

付問4－1 誰にも相談されない理由として、どのようなものがありますか。次の中から当てはまる主な理由ひとつだけに○をつけてください。

- 1 自分で解決できるから
- 2 家族や友人への相談で解決できるから
- 3 誰にも相談したくないから
- 4 プライバシーが守られるか心配だから
- 5 どこに相談すればよいかわからないから
- 6 相談しても良い内容かどうかわからないから
- 7 その他（具体的に

）

**【地域活動についてうかがいます。】**

問5 あなたは仕事以外に地域で活動されていますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |                |                          |
|----------------|--------------------------|
| 1 現在活動している     | ⇒ 次の付問5－1・付問5－2にお答えください。 |
| 2 過去に活動したことがある | } 付問5－3・付問5－4にお答えください。   |
| 3 活動したことがない    |                          |

**問5で「1 現在活動している」とされた方におたずねします。**

付問5-1 あなたは地域でどのような活動をしていますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- |                                 |                  |
|---------------------------------|------------------|
| 1 自治会・町内会での活動                   | 2 地区社会福祉協議会での活動  |
| 3 学校・PTA等の活動                    | 4 子ども会           |
| 5 婦人会                           | 6 老人クラブ          |
| 7 商工会・農協・森林組合・生協などの協同組合         |                  |
| 8 スポーツ・レクリエーション活動               | 9 趣味・娯楽などのサークル活動 |
| 10 上記以外のボランティア・NPO 団体などにおける地域活動 |                  |
| 11 勤め先などでの社会貢献活動                | 12 組織に属さない個人の活動  |
| 13 その他（具体的に                     | ）                |

付問5-2 付問5-1 であげられている活動をされている理由として、どのようなものがありますか。次の中から当てはまる主な理由ひとつだけに○をつけてください。

- |                 |                          |
|-----------------|--------------------------|
| 1 地域や社会に貢献したいから | 2 自分の知識や経験を活かしたい（積みたい）から |
| 3 友人や仲間を増やしたいから | 4 生活にはりあいを持たせたいから        |
| 5 身近な人に誘われたから   | 6 様々な情報を手に入れたいから         |
| 7 健康を維持したいから    | 8 何となく                   |
| 9 その他（具体的に      | ）                        |

**問5で「2 過去に活動したことがある」、「3 活動したことがない」とされた方におたずねします。**

付問5-3 現在、地域で活動されていない理由として、どのようなものがありますか。次の中から当てはまる主な理由ひとつだけに○をつけてください。

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1 時間がないから          | 2 経済的な余裕がないから    |
| 3 一緒に活動する仲間がないから   | 4 健康や体力面で自信がないから |
| 5 活動の内容や方法がわからないから | 6 移動の手段がないから     |
| 7 地域の人とのつきあいが面倒だから | 8 参加する気持ちがないから   |
| 9 家族の理解が得られないから    | 10 その他（具体的に      |

付問5-4 あなたは今後、地域の活動に参加しようと思いますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |             |             |
|-------------|-------------|
| 1 そう思う      | 2 まあそう思う    |
| 3 どちらともいえない | 4 あまりそう思わない |
| 5 そう思わない    |             |

**※ すべての方におたずねします。**

問6 地域の支え合い活動（ご近所で困ったときに協力し合ったり、助け合ったりすること）を進めることを考えたときに、あなたが最初に思い浮かべる地域の範囲は次のどれでしょうか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |            |              |         |
|------------|--------------|---------|
| 1 現在の市、町   | 2 合併する前の旧市町村 | 3 中学校区  |
| 4 小学校区     | 5 自治会・町内会    | 6 班・組など |
| 7 その他（具体的に |              | ）       |

問7 地域で支え合うために、あなたは何が大切な条件だと思いますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |            |         |               |
|------------|---------|---------------|
| 1 活動拠点の確保  | 2 活動資金  | 3 活動をすすめるリーダー |
| 4 活動を進める組織 | 5 情報の共有 | 6 仲間・つながり     |
| 7 その他（具体的に |         | ）             |

**【地域へのご関心などについてうかがいます。】**

**※ すべての方におたずねします。**

※ ここでいう地域とは、現在お住まいの小学校区程度を範囲としてお考えください。

問8 あなたは地域について、どのようにお考えですか。それぞれについて、「そう思う」「まあそう思う」「どちらともいえない」「あまりそう思わない」「そう思わない」のうち当てはまるものの番号を○で囲んでお答えください。

	そう 思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう 思わない
・いま住んでいる地域が好きだ	1	2	3	4	5
・この地域のために何か役に立ちたい	1	2	3	4	5
・介護が必要な状態になっても家で暮らしたい	1	2	3	4	5
・ご近所同士で支えあっている	1	2	3	4	5
・地域の情報が十分に入ってくる	1	2	3	4	5
・地域の活動に参加する機会がある	1	2	3	4	5
・地域でいろいろな活動が行われている（趣味・レクリエーション・交流など）	1	2	3	4	5
・地域の中で自分の役割がある	1	2	3	4	5
・地域のことについて話しあう機会がある	1	2	3	4	5

	そう 思う	まあ そう思う	どちらとも いえない	あまり そう思わない	そう 思わない
・この地域は生活の場としてだんだん良くなる	1	2	3	4	5
・今後もこの地域に住み続けたい	1	2	3	4	5
・祭りなどの行事が少なくなった	1	2	3	4	5
・全体的にみて、この地域の住み心地は良い	1	2	3	4	5

### 【安心して暮らせるまちづくりなどについてうかがいます。】

問9 あなたが考える「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる地域（まち）」とは、どのような地域（まち）だと思いますか。次の中から**最も重要視しているものひとつだけに**○をつけてください。

- 1 地域活動にいろいろな人が参加しやすい地域（まち）
- 2 趣味活動・スポーツなどに取り組みやすい地域（まち）
- 3 福祉サービスが充実している地域（まち）
- 4 防災・安全対策が充実している地域（まち）
- 5 次世代を育む環境が充実している地域（まち）
- 6 ご近所同士で日頃から助け合うことができる地域（まち）
- 7 地域社会の一員であることを実感できる地域（まち）
- 8 暮らせるだけの収入・手当が確保されている地域（まち）
- 9 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

問10 高齢者や障がいのある人、引きこもりの人、少し気がかりな人など、支援を必要とする人や家庭に対し、地域で支えるためにあなたができることとして、どのようなことがありますか。次の中から**当てはまる番号すべてに**○をつけてください。

- 1 支援を必要とする人や、その家族への声かけと見守り
- 2 生活に関する情報をわかりやすく提供する
- 3 祭りや交流事業など、参加できる場への呼びかけ
- 4 困っている人を発見して、専門機関につなげる
- 5 ご近所で見守り\*について話をする
- 6 自治会長、民生委員・児童委員、福祉員など見守りについて話をする
- 7 おつかいなど、買い物の代行・手伝いをする
- 8 その他（具体的に \_\_\_\_\_ )

### ※ 見守り

地域の中で手助けを必要としている人や気がかりな人を対象として、民生委員・児童委員や福祉員などの地域福祉活動関係者や地域住民が、「あいさつ」や「声かけ」、「生活の様子を気にかける」などといった活動を通じて、住民同士が共に支え合って暮らし続ける地域づくりを進める活動です。

問 11 「誰もが安心して心豊かに暮らし続けることができる 地域（まち）づくり」を進めていくために、市や町の行政に期待する役割としてどのようなことがありますか。次の中から最も重要視しているものひとつだけに○をつけてください。

- 1 地域における福祉サービスの向上を図る
- 2 福祉に関するわかりやすい情報を提供する
- 3 地域活動への資金的な支援をもつとする
- 4 地域活動などを行う拠点を確保する
- 5 地域で活躍されている人や団体等の連携づくりを支援する
- 6 お互いに助け合うという意識を醸成する
- 7 福祉活動の意義と重要性をもっとお知らせする
- 8 福祉活動に携わる人の育成や支援する人を配置する
- 9 個人の趣味や活動を活かせる場所を提供する
- 10 困っている人を早く発見し、支援できる仕組みをつくる
- 11 その他（具体的に \_\_\_\_\_）

**【福祉に関する情報についてうかがいます。】**

問 12 あなたは福祉に関する情報について、どのような情報が必要ですか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- |   |   |                                      |
|---|---|--------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 施設・福祉サービスの種類、相談機関に関する情報</li> <li>2 福祉サービスの利用方法に関する情報</li> <li>3 福祉サービスの苦情解決に関する情報</li> <li>4 ボランティアに関する情報</li> <li>5 福祉機器に関する情報</li> <li>6 福祉の仕事に関する情報</li> <li>7 福祉に関する研修・講習に関する情報</li> <li>8 その他（具体的に _____）</li> <li>9 これまで福祉に関する情報を必要としたことはない</li> </ol> | } | <p>⇒ <u>付問 12-1</u>に<br/>お答えください</p> |
| <p>⇒ <u>問 13</u>にお答えください</p>  |   |                                      |

問 12 で「1 施設・福祉サービスの種類、相談機関に関する情報」～「8 その他」とされた方におたずねします。

付問 12-1 あなたは福祉に関する情報を、どこから入手していますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- |  |  |
|--|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉に関する機関紙・情報誌・チラシ</li> <li>3 テレビ・ラジオ</li> <li>5 民生委員・児童委員から</li> <li>7 知り合いから</li> <li>9 公民館・交流センターから</li> <li>11 福祉施設・福祉サービス事業者から</li> <li>13 入手していない</li> </ol> | <ol style="list-style-type: none"> <li>2 インターネット</li> <li>4 新聞・雑誌</li> <li>6 福祉員から</li> <li>8 市役所・町役場から</li> <li>10 社会福祉協議会から</li> <li>12 その他（具体的に _____）</li> </ol> |
|--|--|

**【社会福祉協議会などについてうかがいます。】**

※ すべての方におたずねします。

問 13 あなたは、市や町の社会福祉協議会を知っていますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |                           |                         |
|---------------------------|-------------------------|
| 1 名前も活動内容もよく知っている。        | } ⇒次の付問 13-1・付問 13-2    |
| 2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない |                         |
| 3 名前も活動内容も知らない            | ⇒ <u>問 14</u> にお答えください。 |

問 13 で「1 名前も活動内容もよく知っている」、「2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」とされた方におたずねします。

付問 13-1 あなたは、どのようにして市や町の社会福祉協議会を知りましたか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 社会福祉協議会の広報紙を見たことがある。
- 2 新聞やテレビなどで見たことがある
- 3 家族や友人から話を聞いたことがある
- 4 福祉員から話を聞いたことがある
- 5 民生委員・児童委員から話を聞いたことがある
- 6 社会福祉協議会が主催する事業に参加したことがある
- 7 社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用したことがある
- 8 地域の活動やボランティア活動を通じて知った
- 9 その他（具体的に )

付問 13-2 あなたは、社会福祉協議会の仕事について、どのような印象を持っていますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 高齢者などの支援が必要な人の見守り活動を進めるところ
- 2 障がいのある人に関する支援をするところ
- 3 子どもに関する支援をするところ
- 4 ボランティア活動を支援するところ
- 5 暮らしの困りごとについて相談を受けるところ
- 6 福祉に関する研修会を実施するところ
- 7 介護保険のサービスを提供するところ
- 8 募金や寄附を集め、いろいろな事業を行っているところ
- 9 その他（具体的に )

※ すべての方におたずねします。

問 14 あなたは、今後、市や町の社会福祉協議会にどのような役割を期待しますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 福祉サービスの提供  
(介護保険サービス、金銭管理、移送サービス、買物支援、福祉サービス利用支援など)
- 2 ボランティア活動の推進・支援
- 3 住民への働きかけ (見守り活動、仲間づくりなど)
- 4 住民の福祉意識の醸成 (福祉に関わる人材の養成など)
- 5 困った時の相談支援
- 6 福祉に関する情報提供
- 7 生活困窮者\*への生活支援
- 8 地域で活動する団体等への資金援助
- 9 その他 (具体的に )

※ 生活困窮者

「生活困窮者」とは、経済的に困窮し、最低限度の生活を維持することができなくなるおそれのある者をいいます。生活困窮者世帯は社会的孤立状態にあることが多く、地域における生活困窮者の早期発見、相談対応等が求められており、国において新たな生活困窮者対策への取組が行われています。

問 15 あなたは、「福祉員」を知っていますか。次の中から当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 名前も活動内容もよく知っている
  - 2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない
  - 3 名前も活動内容も知らない
- ⇒ 次の付問 15-1 にお答えください。
- ⇒ 問 16にお答えください。

問 15 で「1 名前も活動内容もよく知っている」、「2 名前は聞いたことがあるが活動内容はよく知らない」とされた方におたずねします。

付問 15-1 あなたは、これまで福祉員とどのような関わりがありましたか。当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 福祉員になったことがある
- 2 福祉員の訪問を受けたことがある
- 3 福祉員に相談したことがある
- 4 見守り活動と一緒に活動したことがある
- 5 ふれあい・いきいきサロンやふれあい交流活動に参加して関わったことがある
- 6 社会福祉協議会が主催する事業に参加して関わったことがある
- 7 社会福祉協議会が実施する福祉サービスを利用して関わったことがある
- 8 その他 (具体的に )

**※ すべての方におたずねします。**

問 16 今後、「福祉員」に期待する役割としてどのようなことがありますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 ちょっとした困りごとの相談相手
- 2 ひとり暮らし高齢者など支援を必要とする人への声かけや見守り活動
- 3 地域の行事や交流活動の運営・協力
- 4 福祉に関する情報の提供
- 5 その他（具体的に )

**【寄附についてうかがいます。】**

問 17 あなたは、過去1年間に次のような寄附（募金）をしたことがありますか。次の中から当てはまる番号すべてに○をつけてください。

- 1 赤い羽根共同募金
- 2 歳末たすけあい募金
- 3 一般寄附\*
- 4 指定寄附（寄附する相手や事業を指定する寄附）\*
- 5 テレビ・ラジオやインターネットによる募金
- 6 お店などに置かれている募金箱への募金
- 7 物品の寄附
- 8 その他（具体的に )

(\*) 寄附には香典返しや見舞金のお返しなどを含みます。

問 18 今後、どのような内容であれば、寄附をしたいと思えますか。次の中から最も重要視している番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 高齢者のために
- 2 子育て支援のために
- 3 障がいのある人のために
- 4 災害支援のために
- 5 教育のために
- 6 環境を良くするために
- 7 自分が暮らす地域の活動のために
- 8 いずれも快くはできない
- 9 その他（具体的に )

問 19 福祉に関するご意見、ご要望など自由にお書きください。

[ ]

**最後に、あなたご自身のことがらについておたずねします。**

調査結果を統計的に分析するために必要となりますので、必ずすべての質問にお答えください。  
**当てはまる番号に○をつけてください。**

F 1 あなたの性別はどちらですか。

- 1 男                      2 女

F 2 あなたは、現在、おいくつですか。 **当てはまる番号に○をつけてください。**

- |            |            |            |            |
|------------|------------|------------|------------|
| 1 20～24 歳  | 2 25～29 歳  | 3 30～34 歳  | 4 35～39 歳  |
| 5 40～44 歳  | 6 45～49 歳  | 7 50～54 歳  | 8 55～59 歳  |
| 9 60～64 歳  | 10 65～69 歳 | 11 70～74 歳 | 12 75～79 歳 |
| 13 80～84 歳 | 14 85～89 歳 | 15 90～94 歳 | 16 95 歳以上  |

F 3 あなたが現在お住まいの地域はどこですか。 **お住まいの市町に○をつけてください。**

- |           |          |        |        |
|-----------|----------|--------|--------|
| 1 下関市     | 2 宇部市    | 3 山口市  | 4 萩市   |
| 5 防府市     | 6 下松市    | 7 岩国市  | 8 光市   |
| 9 長門市     | 10 柳井市   | 11 美祢市 | 12 周南市 |
| 13 山陽小野田市 | 14 周防大島町 | 15 和木町 | 16 上関町 |
| 17 田布施町   | 18 平生町   | 19 阿武町 |        |

F 4 現在のあなたの世帯は、次のどれですか。 **当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。**

- 1 ひとり暮らし
- 2 夫婦だけの世帯
- 3 夫婦と子どもだけの世帯
- 4 高齢者（65 歳以上）の親と未婚の子どもだけの世帯
- 5 母親または父親と子どもだけの世帯
- 6 三世代以上で暮らす世帯
- 7 その他の世帯

F 5 あなたの住んでおられるところは次のどれにあたりますか。 **当てはまる番号ひとつだけに○を付けてください。**

- |          |                                   |
|----------|-----------------------------------|
| 1 農村・漁村部 | 2 郊外住宅地                           |
| 3 町中の密集地 | 4 商店街                             |
| 5 工場街    | 6 その他（具体的に                      ) |

F 6 あなたの居住歴はどれに当てはまりますか。( )に年数を記入し、当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

現在の地に住んでいる年数 ( ) 年

- 1 生まれてから同じ場所にずっと住んでいる
- 2 生まれはこの市町だが、今の場所とは違っている
- 3 生まれはこの市町だが、しばらく他所に出て、帰ってきた
- 4 生まれは他所だが、今の場所に来てからずっと住んでいる
- 5 生まれは他所で、ここで住むのも一時期だけである

F 7 あなたの主な移動手段は何ですか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 自動車、バイク
- 2 公共交通機関 (電車・バス・タクシー)
- 3 自転車
- 4 徒歩
- 5 その他 (具体的に )

F 8 あなたの現在のお仕事は次のどれですか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- 1 農林漁業 (家族従業者を含む)
- 2 自営業 (商工サービス業・自由業 (家族従業者を含む) など)
- 3 常勤の被雇用者 (民間企業のサラリーマンや公務員など)
- 4 臨時・パートタイム
- 5 専業主婦・主夫
- 6 学生
- 7 無職
- 8 その他 (具体的に )

F 9 あなたの現在の暮らし状況を総合的に見てどう感じていますか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |            |            |
|------------|------------|
| 1 大変苦しい    | 2 やや苦しい    |
| 3 普通       | 4 ややゆとりがある |
| 5 大変ゆとりがある |            |

F10 あなたはこれまで地域福祉活動の経験 (民生委員・児童委員、福祉員、ボランティア、婦人会、老人クラブなど) がありますか。当てはまる番号ひとつだけに○をつけてください。

- |      |      |
|------|------|
| 1 ある | 2 ない |
|------|------|

以上で質問はすべて終わりです。御協力ありがとうございました。

### 3. 県民福祉意識等に関する調査研究委員会 協議経過 等

#### 【第1回目】

- ・日時：平成25年5月20日(月)
- ・内容：委員会の目的及び運営について  
県民福祉意識等実態調査について

#### 【第2回目】

- ・日時：平成26年1月27日(月)
- ・内容：県民福祉意識等実態調査の結果について  
地域福祉を進める上での活動方針の内容について

#### 【第3回目】

- ・日時：平成26年2月17日(月)
- ・内容：報告書まとめ

### 県民福祉意識等に関する調査研究委員会 委員名簿

平成25年5月1日～平成26年3月31日

	所 属	役 職	氏 名	
委員長	九州大学大学院人間環境学研究院	准教授	高野 和良	
副委員長	山口県立大学社会福祉学部社会福祉学科	専任講師	長谷川 真司	
委員	山口県民生委員児童委員協議会	副会長	村田 正子	～25年11月30日
委員	周南市桜木地区社会福祉協議会	会長	逆井 歌代	
委員	美祢市社会福祉協議会	地域福祉係長	羽根 一孝	
委員	山口市社会福祉協議会秋穂支部	主任	橋本 昌代	
委員	やまぐち県民活動支援センター	センター長	伊藤 彰	
委員	山口県社会福祉協議会	地域福祉部長	高木 和男	

#### 【事務局】

社会福祉法人 山口県社会福祉協議会

	地域福祉部地域福祉班	班長	大倉 隆雄
〃	〃	主任主事	中村 美保
〃	〃	主任主事	山本 彩
〃	〃	主任主事	福田 惇一

発行：平成26年3月

発行者：社会福祉法人 山口県社会福祉協議会  
〒753-0072

山口県山口市大手町9-6

TEL (083) 924-2828

FAX (083) 924-2847

印刷：(有) いづみプリンティング



この報告書は、赤い羽根共同募金の配分金により作成したものです。